

農山漁村発イノベーション事例集



令和2年12月

MAFF

コンセプト

【趣旨】

農山漁村には、農林水産物、農地・農業用水、自然環境、動植物、景観、伝統文化等のさまざまな地域資源があり、農林水産省では、これらを活用した6次産業化、農泊、農福連携、ジビエの利活用など、主に1次産業を起点とした取組を推進してきたところです。

今後は、健康医療、スポーツ、芸術など、1次産業以外の他産業を起点とした新たなビジネス展開も含めて促進すべく、「農山漁村発イノベーション」の推進に取り組んでいくこととしています。

【農山漁村発イノベーションとは】

人口減少が進む農山漁村において、所得と雇用機会を確保するため、農山漁村を舞台に、活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、他分野と組み合わせることにより、新たな価値を創出する取組のこと。

【構成】

農山漁村発イノベーションの結果、所得と雇用機会の確保を実現し、移住・定住にも寄与している事例等を主に取り上げ、経時的な一連の取組のプロセス（一部）もあわせて整理しました。

※ 主に団体の取組としては、ビジネス部門、コミュニティ部門、両部門かで分類。

※ イノベーションの概念のとらえ方は必ずしも一元的ではなく、現時点で認識されていない新たな事例が大小を問わず今後創出されていくことを期待しています。こうしたことも踏まえて、今回の収集は第1弾とし、今後、適宜追加・改訂していくことを予定しています。

概要

事例団体（ブロック別）

北海道	3 団体
東 北	1 0 団体
関 東	1 2 団体
北 陸	1 1 団体
東 海	1 2 団体
近 畿	1 5 団体
中 四	1 4 団体
九 州	1 4 団体
沖 縄	2 団体
合計	9 3 団体

取組部門

ビジネス	2 9 団体
コミュニティ	3 8 団体
ビジネス及び コミュニティ	2 6 団体
合計	9 3 団体

分野の組合せ

	農業	林業	水産業
食品	5 6 団体	2 団体	2 団体
ジビエ・鳥獣	7 団体	1 団体	
観光	4 0 団体	5 団体	3 団体
福祉	2 1 団体	1 団体	
教育	2 1 団体	2 団体	1 団体
移住・定住	7 団体	—	—
生物多様性	2 団体	—	—
環境	1 団体	—	—
エネルギー	4 団体	1 団体	—
健康医療	5 団体	1 団体	—
スポーツ	2 団体	1 団体	—
芸術・文化	3 団体	—	—
歴史・文化	2 団体	1 団体	1 団体
情報通信	6 団体	—	1 団体
合計	1 7 7 団体	1 5 団体	8 団体

目次

整理番号	団体名	所在地	取組概要	取組部門			分野の組合せ(農山漁村×)																	活用している資源	スタートした取組	
				ビジネス	コミュニティ	個人	農業	林業	水産業	食品	ジビエ・鳥獣	観光	福祉	教育	移住・定住	生物多様性	環境	エネルギー	健康・医療	スポーツ	芸術・文化	歴史・文化	情報通信		農林水産業	その他
1	鹿沼町農泊推進協議会	北海道鹿沼町	空き家をリノベーションして、交流拠点施設を整備。地域の農泊の拠点・窓口として機能。春夏秋冬・季節ごとの魅力をツアー企画として商品化。農泊をビジネスとして自立した運営を目指す。	○	○		○						○											農畜産物、空き家、大自然(国立公園、ジオパーク、森、湖、川、平原、雪)		○
2	株式会社九神ファームめむろ	北海道芽室町	就労継続支援A型事業所を平成25年4月から運営。知的・精神障害を持つ利用者が通年で野菜の生産やジャガイモ等の一次加工、コミュニティレストランの調理や接客に従事し、安定した高賃金を実現。	○			○			○			○											農林水産物、農地		○
3	今金町山村活性化地域協議会	北海道瀬棚郡今金町	規格外野菜を活用した特産品開発。障がい者雇用や地域活性化に向けたまちづくり会社を設立。	○	○		○			○			○											規格外野菜、観光資源	○	
4	社会福祉法人 誠友会	青森県おいらせ町	2006年、障がい者の活躍・雇用の場として地域の基盤産業である農業に参入。温泉の療養を活用した熱帯果樹のハウス栽培に取り組み。過年度の観光農園を実現。現在では「農業、福祉、地域、観光」をつなぎ合わせた事業として地域の交流拠点となっている。	○	○		○			○			○	○										観光農園アグリのレストラン(もち小麦、いちご)、熱帯果樹園(バナナ、パパイア)、工房あぐりの里、農家レストラン「百果良彩」	○	○
5	八幡平ファームステイ協議会	岩手県八幡平市	2018年、体験プログラム提供などを通じた食と農業のブランド化を目的として発足。「持続可能な農業」と「大地の再生」を基本的なコンセプトに据え、「サステナビリティ社会の実現」と「人々が集う場づくり」を同時に成し遂げることをビジョンとして活動に取組む。	○	○		○			○		○	○											豊かなアウトドア資源		○
6	二戸市	岩手県二戸市	2017年、漆原木の資源調査、計画的な植栽、適切な管理方法等の検証を行い、漆の安定供給に向けた取組を実施。	○			○	○																漆	○	
7	高松第三行政区ふるさと地域協議会	岩手県花巻市高松	2011年、遊休農地を活用し、農業体験を通した高齢者、障がい者、子どもの交流を目的とした「福祉農園」を設置。福祉農園を中心に、地域ぐるみで特産物の生産、加工、販売や農観形成活動、高齢者の生活支援などの取組み	○	○		○			○														遊休農地を活用した福祉農園	○	○
8	社会福祉法人 大洋会	岩手県大船渡市	2014年、地域住民と施設利用者(障がい者)の交流を通じ、地域の活性化や利用者の地域交流の場を確保、体力向上や維持を目的に農産物の栽培を開始。2020年遊休農地を活用し、障がい者の働く場(工賃向上)と地域交流の場の確保を目的に観光農園を開始。	○	○		○			○			○	○	○			○						遊休農地	○	○
9	蔵王農泊振興協議会	宮城県蔵王町	「蔵王福祉の森構想」の取組により、蔵王への定住化・観光・農業振興など多様なメニューを具体化。インバウンドを含め広域から旅行客を集め、地域の経済発展のための体制、マーケティングの強化に向けて取組む。	○	○		○					○						○						温泉水、水、間伐材		○
10	一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会	秋田県仙北市	2018年、国家戦略特区を活用して国内旅行業務取扱管理者資格及び地域限定の旅行業を取得し、旅行業者としてワンストップサービスの体制を構築。国内外の個人旅行観光客への対応と所得向上を目指し、情報発信や情報収集について、独自の事業展開を実施。	○	○		○					○												自然(田沢湖)、歴史・文化(武家屋敷)、郷土料理(きりたんぽ)など		○
11	十二所・長木地区山村活性化協議会	秋田県大館市	地域内に多く自生している山菜(フキ、タケノコ等)、山野草を活用して加工品や薬膳料理の開発に取り組み、女子栄養大学や料理講師など専門家の指導を受けながら、知識の習得、技術の向上を図る。	○			○			○														山菜	○	
12	山形県白鷹町日本の虹(あか)をつくる町連携推進本部	山形県白鷹町	虹花にちなんだ「虹(あか)」をテーマとしたブランド化と、質の高い一次加工品の生産技術向上へ取組む。		○		○					○		○						○				虹花	○	○
13	社会福祉法人 こころん	福島県泉崎村	2004年、NPO法人「こころネットワーク農市」を設立(2011年、社会福祉法人に移行)。精神障害を中心とする施設利用者が、メインとなる養鶏のほか野菜栽培、加工、販売所の運営などを通年で実施。一般就労へ向けての訓練や支援に取り組む。	○	○		○						○						○					遊休農地	○	○
14	十石堀維持管理協議会	茨城県茨城市中園町	江戸時代に建設された用水路(十石堀)は、地域住民主体で維持管理が行われてきた。維持管理を行う中で地域資源と捉える意識が醸成し、地域学習やエコツーリズム等を経て、令和元年9月、世界かんがい施設遺産に登録。		○									○										かんがい施設(十石堀)、自然、地質遺産		○
15	株式会社いちこの里ファーム	栃木県小山市大川島	平成11年に会社を設立。いちごの観光資源化を目指しいちご狩り開始。未収穫分は加工販売のほかレストランやカフェも併設し6次化を推進。更には就労継続支援事業により農福連携の取組。	○			○			○			○	○										農林水産物	○	
16	有限会社きたもっく	群馬県吾妻郡長野原町	平成6年、北軽井沢にキャンプ場をオープン。平成12年に有限会社設立。キャンプ場における地産木質エネルギーの循環活用を開始。通年の集客数確保と薪の自社生産により雇用の場を創出。	○			○			○			○					○						山林、農林水産物	○	
17	群馬県立利根実業高等学校 食品文化部	群馬県沼田市栄町	平成23年、沼田市の特産品を活用した商品「えだまもんち」を開発。イベント販売や学校給食への提供により地域活性化に貢献。市内の福祉施設に贈り物を依頼し、農福連携の取組も開始。		○		○			○			○	○										農林水産物	○	
18	お菓子な郷推進協議会	埼玉県秋父市	平成18年、秋父地域に自生するカエデに着目し、国産メープルシロップ事業を開始。樹液の採取、シロップ化(秋父カエデ糖)のほか、加工品の開発など、6次産業化と林商工連携によるお菓子創りを推進。	○			○	○		○														農林水産物(メープルシロップ)		○
19	きょなん株式会社	千葉県安房郡鋸南町吉浜	平成26年、地域活性化団体「ようこそ鋸南プロジェクト」を設立し、廃校利用の道の駅を拠点として交流活動を開始。平成29年、株式会社を設立し、農泊推進協議会を設立。クラフトビル醸造所を整備。	○						○														農林水産物、廃校		○
20	「(株)IT-FORESTRY」(神奈川県小田原市)	神奈川県小田原市	多様な森林活用を組み込んだ新しい森林経営を実践。	○				○				○							○					森林	○	

目次

整理番号	団体名	所在地	取組概要	取組部門			分野の組合せ(農山漁村×)																	活用している資源	スタートした取組	
				ビジネス	コミュニティ	個人	農業	林業	水産業	食品	ジビエ・鳥獣	観光	福祉	教育	移住・定住	生物多様性	環境	エネルギー	健康・医療	スポーツ	芸術・文化	歴史・文化	情報通信		農林水産業	その他
21	特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構	新潟県十日町市	女子サッカー選手など多様な人材による棚田保全、アートによる地域活性化、新たなライフスタイルの提案		○		○							○					○	○			棚田・農村集落	○		
22	あがの衆	新潟県阿賀野市	若手異業種の経営者と農家がそれぞれの経営資源を連携、お互いの課題解決を図ることによる地域振興。	○			○			○													農林水産物		○	
23	朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会	新潟県佐渡市	「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」(平成19年発足)を推進し、再びトキと共生する自然環境を田んぼを中心に作るのととも、佐渡米のブランド化を推進。		○		○							○									トキ	○		
24	上三光農村環境保全・清流の会	新潟県新発田市	地域資源を宝と捉え農業体験活動に取組み、耕作放棄地など資源の有効利用、集落環境の改善、獣害対策、集落再生と地域活性化を目指す。		○		○					○											農地、野生鳥獣、ビオトープ	○		
25	SAYS FARM	富山県水見市	魚問屋が耕作放棄地を再生し農園レストランとワイナリーを開設するなど、地域活性化に取組む。	○			○			○		○											農産物		○	
26	株式会社 富山環境整備	富山県富山市	最終処分場の跡地の有効活用、廃棄物由来の再生エネルギーの有効活用によるトマト等の周年栽培、循環型農業の実践。	○			○										○						廃棄物由来エネルギー		○	
27	劇団SCOT(富山県利賀芸術公園)	富山県南砺市(旧利賀村)	SCOT(旧早稲田小劇場)が、利賀村を演劇拠点として活動を開始。以来、利賀村は、世界的演劇の聖地として有名になり、交流人口の拡大等、演劇が地域振興に貢献。	○	○		○													○			利賀の自然、山村集落、農産物等		○	
28	(株)金沢大地・アジア農業(株)金沢農業(株)・(株)金沢ワイナリー	石川県金沢市及び鳳珠郡能登町	耕作放棄地を積極的に再生して、環境にやさしい有機農業を通じて地域の雇用創出、食料自給率向上、食料安全保障への貢献を目指す。	○			○			○													有機農作物、加工商品(みそ、ワイン等)	○		
29	能登ワイン株式会社	石川県鳳珠郡穴水町	「国営農地開発事業」の遊休地を再生して行うブドウ栽培と、能登の新しい特産品となるワイン製造・販売。	○			○			○				○									ブドウ畑・ワイナリー	○		
30	NPO法人ピアファーム	福井県あわら市	農業(ナシ・ブドウ栽培と農産物等の販売)に特化した就労継続B型事業とした農福連携の取組。	○	○		○			○				○									果樹園		○	
31	小原ECOプロジェクト	福井県勝山市	小原集落を拠点とし、都市住民との交流による地域活性化、自然資源の保全・保護等の取組。		○		○							○									農村景観	○		
32	特定非営利活動法人 山梨家並保存会	山梨県甲州市塩山	平成18年、山梨県全域の歴史的景観・建物の消失回避を目的にNPO法人を設立、調査を実施。活動を通して「上条集落」に出会い、保全活動を開始。現在、古民家の利活用による農泊施設を運営。		○		○			○			○										郷土食、古民家、自然景観		○	
33	帯那地域活性化推進協議会	山梨県甲府市上帯那町	平成16年、協議会を設立し棚田保全や耕作放棄地再生を開始。その後企業とのCSR協定に基づく活動を開始し、都市住民との交流が促進。平成30年には市営複合施設の管理者に指定され、売上と雇用創出に貢献。		○		○			○				○									農地(棚田)、農林水産物	○		
34	「しなの町Woods-Life Community」他	長野県信濃町	森林セラピーを核にした「癒しの森事業」の展開と協定締結による企業誘致・受入。	○				○						○				○					森林		○	
35	有限会社鳥巢 飛騨えごま本舗	岐阜県高山市	昭和48年、有限会社を設立。平成27年、飛騨えごま本舗を開設。「飛騨えごま」の栽培農家の増加と栽培面積の拡大を行いブランド化を図るため、えごま搾油所の開設と自社栽培を行うとともに、障害者や高齢者の雇用にも貢献。	○			○			○			○	○									農林水産物(えごま)	○		
36	就労継続支援A型事業所「それいゆ」	岐阜県関市	平成23年に株式会社DAIが設立した就労継続支援A型事業所。平成28年からサトイモ農業者の組合に加入し、岐阜県産の「円空里芋」を生産。また、組合員から手間のかかる調整作業を受託し、安定的な工資を確保。		○		○			○				○									農林水産物(サトイモ、ニンニク、サツマイモ、タマネギなど)		○	
37	NPO法人失矢作森林塾	岐阜県恵那市	平成18年に設立し、森林再生や人口減少対策といった地域の諸課題解決の向けて、地域環境の保全を担う森林管理部門と、地域の魅力発信を担う観光振興部門に区分した体制で各種活動に取り組む。		○			○				○											里山、木質資源、古民家	○		
38	株式会社飛騨の森でクマは語る	岐阜県飛騨市	平成27年設立の飛騨市が出資する第三セクター、通称「ヒダクマ」。これまで向き合っていなかった広葉樹を地域資源として安定かつ継続的にその価値を高め、商品として加工、流通。また、飛騨の匠の技を歴史・文化として発信。	○				○					○		○								農林水産物(木材)	○		
39	一般社団法人馬瀬地方自然公園づくり協議会	岐阜県下呂市	平成17年、下呂市合併後も地域の取り組みを継承するため任意組織を設立。平成元年に一般社団法人化。集落の野外を博物館に見立てた「里山ミュージアム」、馬瀬川の伝統漁法の観光ツアー化等の取組み。		○		○			○			○										農林水産物(米・鮎)、農村環境(自然・景観)	○	○	
40	伊豆市食肉加工センター「イズシカ問屋」	静岡県伊豆市	平成23年、伊豆市による公営ジビエ食肉加工施設「イズシカ問屋」を開設、有害鳥獣の食肉利用を開始。ジビエを市の新たな地域ブランドとして創出、地域の活性化を推進。	○			○					○			○								野生鳥獣(ニホンジカ、イノシシ)	○	○	

目次

整理番号	団体名	所在地	取組概要	取組部門			分野の組合せ(農山漁村×)																	活用している資源	スタートした取組	
				ビジネス	コミュニティ	個人	農業	林業	水産業	食品	ジェンダー・鳥獣	観光	福祉	教育	移住・定住	生物多様性	環境	エネルギー	健康・医療	スポーツ	芸術・文化	歴史・文化	情報通信		農林水産業	その他
41	特定非営利活動法人 せんがまち稲田倶楽部	静岡県菊川市	平成6年、任意団体を組織し消滅の危機にあった稲田の保全活動を開始。平成22年に法人化し、同時に稲田オーナー制度を導入。学生や企業との連携、女性の活躍により、来客数が大幅に増加。		○		○			○		○		○										稲田、農林水産物、自然景観	○	
42	有限会社みずほ農産	愛知県豊橋市	平成13年に水田農業を行う女性らで「TTL(豊橋稲作)レディース」を立ち上げ、女性目線での農作業に係る情報交換や、「未来につなげる農業」を合言葉に学校教育活動や消費者との交流を図る。	○			○			○				○										農林水産物(米)	○	
43	株式会社デリーフファーム	愛知県常滑市	平成3年、有限会社として設立し、平成31年に株式会社に組織改編。「たまごで人をしあわせに」を経営理念に、付加価値の高い卵を生産。うみたて卵の直売、加工品(洋菓子)販売及びたまご料理店を開店し、消費者へ提供。	○			○			○				○										農林水産物(卵)	○	
44	ミナミ産業株式会社	三重県四日市市	昭和26年、豆腐機械メーカーとして創業。地場産業の萬古焼きメーカーとの連携をきっかけに原料となる国産大豆の需要拡大に向けた活動を開始。農商工連携を推進し、6次産業化などの支援を通じて農業振興に取り組む。	○			○			○				○										農林水産物(大豆)		○
45	多機能型事業所(就労継続支援B型・生活介護)「八重田ファーム」	三重県松阪市	平成18年開所。平成28年多機能型事業所に移行。知的障害・精神障害を持つ施設利用者18名が、ハウスでのイチゴ栽培を中心とした農作業を通年で実施。平成30年にイチゴ生産でASIA GAP認証を取得。		○		○			○			○											農林水産物(イチゴ・ナバナ・金ゴマ・ニンニク・カボチャ等)	○	
46	海女小屋はちまなかまど 有限会社兵吉屋	三重県鳥羽市	昭和61年、有限会社を設立。平成16年から、野趣あふれる海女小屋で、海女が獲った鮑、サザエ等や海藻を味わい、現役海女の海女漁や生活についての語りを開き、地元の相違音頭を一緒に踊るなど、海女文化に触れる取組。	○				○		○		○									○			農林水産物(魚介)	○	
47	農村料理レストラン「せいの里まめや」	三重県多気町	平成15年に有限会社を設立。農村料理レストラン、加工所などで地元農産物を使用した料理や商品を生産するほか、大豆などを使った料理体験などを通じ、農村の文化や技術を伝承。	○	○		○			○				○										農林水産物(野菜と豆)	○	
48	株式会社小林農産	三重県明和町	平成23年に法人化。約300ha超の経営面積で主食用米を中心に加工用米やジャガイモを生産し、コメは百貨店やスーパー等に販売。付つき餅の生産販売など、6次産業化にも取り組む。	○			○			○												○		農林水産物(米)	○	
49	社会福祉法人 わたむきの里福祉会	滋賀県日野町	安全・安心な米づくりから地産地消へ、「美味しい米」で創造する新たな商品開発、そして、農業を通じて技術習得と就労機会の創出に取り組む。	○	○		○			○			○											農林水産物(水稻)	○	
50	有限会社古株牧場	滋賀県竜王町	部門間等の連携と乳製品の商品開発による“湖華舞”ブランドの確立とチーズ作り体験など食育を絡めた事業を展開。	○			○			○				○										畜産	○	
51	株式会社 みんなの奥永源寺	滋賀県東近江市	東近江ムラサキ紫線(支援)プロジェクトとして、「限界集落」の「耕作放棄地」を開墾し、「絶滅危惧種」の「紫草」の栽培と6次産業化による地域活性化に取り組む。	○	○		○			○										○				特用作物、耕作放棄地、絶滅危惧種		○
52	オムロン(株)草津事業所 滋賀県立湖南農業高等学校	滋賀県草津市	「フードリサイクルで究極の地産地消を！」をキャッチフレーズとして、社員食堂からでる生ゴミを堆肥化し、それを用いて野菜を育て再び食堂で提供するフードリサイクルに取り組む。		○		○			○				○										食品ロス		○
53	さんさん山城	京都府京田辺市	聴覚障害者やひきこもり経験者等が宇治茶の手揉みやエビイモの手揉りなど高品質な京都の伝統野菜の生産と加工作業を通年で従事しており、農福連携の普及啓発に取り組む。		○		○			○			○											茶、エビイモ	○	
54	農業生産法人こと京都株式会社	京都府京都市	京野菜のなかでも周年栽培可能な「九条ねぎ」に特化した生産と多様な販路の開拓に取り組む	○			○			○														農林水産物	○	
55	岸和田臨海地区地域水産業再生委員会	大阪府岸和田市	大阪湾の鮮魚は和歌山や兵庫等の市場価格(主に「鰯り」)よりも常に安値であり、魚価の向上が課題であった。大阪府都市圏漁業協同組合、岸和田市、大阪府が取組を推進し、デジタル化による事務効率向上と、魚価向上を達成。	○					○													○		シラス、マイワシ、サワラ、スズキ等の「泉州プレミアム鮮魚」	○	
56	農事組合法人かなん	大阪府河内町	平成16年に設立された農事組合法人が多様な取組を通じて地産地消や食農教育を進める。		○		○							○										町内産農産物、教育機関		○
57	カシモワインフード株式会社	大阪府柏原市	西日本一古いワイナリーが都市住民や企業との連携により伝統ある大阪ぶどう産地の活性化を通じ、伝統ある農山漁村の次世代への継承に取り組む。	○	○		○			○														農地、ワイン	○	
58	家島諸島都市漁村交流推進協議会	兵庫県姫路市家島諸島	家島諸島では、2000年代に、基幹産業の海運業、採石業の低迷から、地域資源を活用した新たな産業として観光業に取組を開始。家島諸島4島は「清泊推進会議」を設置し、日帰り型観光から宿泊型観光(清泊)への取組に向けた受入体制を整備。	○					○															日帰り型観光や宿泊型観光(清泊)		○
59	兵庫県 豊岡市	兵庫県豊岡市	「コウノトリも、人も」をキーワードにして、コウノトリも住める豊かな自然環境と文化環境の再構築を目指して、湿地環境の保全再生活動や「コウノトリ育む農法」に取り組む。	○	○		○									○								コウノトリ、農林水産物(水稻)		○
60	一般社団法人吉野かわかみ社中	奈良県川上村	500年の歴史ある吉野林業を今後も引き継いでいくため、持続可能な森林づくりと木材需要の拡大に取り組む。	○				○														○		森林	○	

目次

整理番号	団体名	所在地	取組概要	取組部門	分野の組合せ(農山漁村×)																			活用している資源	スタートした取組	
				ビジネス	コミュニティ	個人	農業	林業	水産業	食品	ジビエ・鳥獣	観光	福祉	教育	移住・定住	生物多様性	環境	エネルギー	健康・医療	スポーツ	芸術・文化	歴史・文化	情報通信		農林水産業	その他
61	株式会社 早和栗樹園	和歌山県有田市	昭和54年に7戸のみかん農家で創業し、当初はみかん生産のみであったが、近年は生産から加工、販売まで一貫して行う6次産業で「みかん1個の価値」を高める取組を実施し、中山間地域での雇用の場を創出。	○			○				○												農林水産物、農地、自然	○		
62	株式会社 秋津野	和歌山県田辺市	農校を活用した農業レストラン、宿泊施設や貸し農園などを開設し、都市農村交流を図るとともに、訪日外国人を含む滞在型の旅行誘客にも取り組む。	○	○		○					○										○	農林水産物、農校	○		
63	紀の里農業協同組合	和歌山県紀の川市	食と農に深く関わるJAとして、直売施設を拠点に都市と農村の交流事業を展開し、命を育む食の重要性とそれらを生み出す農業の果たす役割を伝える。	○	○		○			○		○											農林水産物、直売所	○		
64	NPO法人いんしゅう産野まちづくり協議会	鳥取県鳥取市	子供達が帰ってきたい住み続けたいと思う町となるよう、次の世代に継承できる魅力あるまちづくり。空き家、耕作放棄地も含めた地域資源を活用し、イノベーション創出。	○	○		○							○									空き家、景観、まちなみ、耕作放棄地、文化・歴史		○	
65	えーひだカンパニー株式会社	鳥根県安来市	少子高齢化等による地区存続の危機感から、地区機能維持の仕組みを作るため88歳の戦時プランからなる比田ビジョンを策定。平成29年に、ビジョン実現のための地域住民を構成員としたえーひだカンパニー株式会社を設立。		○		○			○				○							○		米、小麦、そば、地場産野菜	○		
66	株式会社おおち山くら	鳥根県邑智郡美郷町	匠介者であったイノシシを地域振興の視点で捉え、農家自ら狩猟免許を取得し、加工処理・ジビエ販売を担う組織として前身の「おおち山くら生産者組合」を設立。平成29年に更なる体制強化のための株式会社化。	○			○				○												イノシシ		○	
67	(有)スコレー、順天堂大池	岡山県岡山市	農作業のストレス軽減効果を見える化した、農業セラピー(アグリヒーリング)の新ビジネス創出を構想	○			○											○					農園	○		
68	エーゼロ(株)	岡山県西栗倉村	人と自然をテーマとする地域総合商社として、起業人材の育成、森林ブランドの林水産物販売、福祉事業等を展開。	○	○			○		○	○		○	○									森林、うなぎ、ジビエ	○		
69	真庭バイオマス産業都市推進協議会	岡山県真庭市	木質バイオマスを核として、豊富で多様なバイオマスエネルギー利用、バイオマス産業観光・学習推進による地域ブランドの向上。	○	○			○						○			○						バイオマス	○		
70	あば村運営協議会	岡山県津山市	115年余り続いた「阿波村」は、平成17年の合併によりその歴史に幕を閉じた。合併後は人口が急減、住民自治協議会事業のモデル地区指定を受け取組を開始。自然・暮らしを後世に引継ぐ決意として「あば村宣言」発表。		○		○			○				○									農林水産物、森林、農校、古民家・空き家、文化・歴史、景観、バイオマス、自然(山、川など)		○	
71	震掛地区コミュニティ協議会	岡山県瀬戸内市	近隣の小学校が閉校し、過疎化・高齢化傾向が一層急激な状況に。新たな行事や各種農業施策を模索するなか、地域おこし協力隊などの協力により外部視点を取り入れ、移住者増を目的に振えた村おこし活動を開始。		○		○							○									農林水産物、文化・歴史		○	
72	川西自治連合会	広島県三次市	人口減少とともに産業は衰退、買い物する場所さえもなくなっていた。地域の将来をどうデザインすれば誇りを持ち住民が安心して暮らせるかが最優先課題となり、ビジョン策定委員会を立ち上げ地域の将来像を住民自ら描いていった。		○		○							○									川西郷の駅		○	
73	大崎上島海主体験交流協議会	広島県豊田郡大崎上島町	高齢化・過疎化問題の対応として、体験交流型観光を推進し、都市の学生と島の住民が交流を深め、地域の活性化や経済効果に貢献することを目指す協議会を設立。		○		○		○			○		○									伝統文化、漁業、農業、アウトドア、伝統工芸		○	
74	NPO法人加茂谷元気なまちづくり会	徳島県阿南市	主産業である農業の経営環境の悪化等により、若者は地域外へ流出。状況打破のため住民主導で取り組む夢のあるまちづくり実行計画を策定。農業や地域資源を活用しながらまちづくりを進めるための活動を開始。		○		○							○									移住・就農者用、空き家・空き農地・空きハウスの斡旋、地域の農産物の販売支援		○	
75	株式会社いろどり	徳島県勝浦郡上勝町	IoTシステムを活用して、料理を彩る葉っぱを出荷。女性や高齢者が活躍。	○			○														○		野山の季節の葉や花、山菜など		○	
76	五名活性化協議会	香川県東かがわ市	高松市内商店街で五名地区を紹介する展示会への出展を契機に、特産品や加工品を販売する「ふるさとの家」の運営開始。五名小学校の閉校、JA、市役所等中心地が衰退していく中、平成25年小学校跡地利用検討と活性化のための協議会設立。		○		○					○											野生鳥獣、森林		○	
77	地域協同組合無茶々園	愛媛県西予市	2004年(平成16年)、地域協同組合を設立。柑橘を中心に、加工品を含めたブランド化を推進。福祉事業等の多角化により女性が活躍する雇用の場を創出。	○	○		○			○			○										段々畑(農業遺産、文化的景観)、旧伊江小学校	○		
78	株式会社いとしのいとしま	福岡県糸島市	平成23年、「株式会社いとしのいとしま」を設立。SNS等を通して漁業が抱える課題を伝え、地魚BANKの会員から資金・アイデア等を集め、新サービスを生み出し課題を解決し、地魚の魅力伝える取り組みを展開。	○	○				○	○		○											地魚、漁業		○	
79	すみやま棚田守る会	佐賀県伊万里市	平成14年、地元企業や学校との連携による地域活性化及び心豊かな人材を育むことを目的に会を発足。棚田の保全活動や都市農村交流、棚田米を使用した純米酒の製造、販売等を通して、地域好循環型社会を構築。		○		○			○				○				○					棚田、農産物	○		
80	NPO法人伊万里はちがめプラン	佐賀県伊万里市	平成4年、飲食店のグループが生ごみ資源化研究会を立ち上げ調査や微生物の研究を行い、平成9年に生ごみ増肥化実行委員会を結成。平成12年生ごみ増肥化プラント完成。平成15年にNPO法人化し、平成16年に直売所を開設。生ごみを主に、食資源循環によるまちづくりを展開。		○		○			○						○							生ごみ、廃食油		○	

目次

整理 番号	団 体 名	所 在 地	取 組 根 拠	取組部門			分野の組合せ(農山漁村×)																	活用 している 資源	スタートした取組	
				ビ ジ ネ ス	コ ミュ ニ ティ	個 人	農 業	林 業	水 産 業	食 品	エ コ ノ ミ ー ・ 鳥 獣	観 光	福 祉	教 育	移 住 ・ 定 住	生 物 多 様 性	環 境	エ ネ ル ギ ー	健 康 ・ 医 療	ス ポ ー ツ	芸術 ・ 文化	歴史 ・ 文化	情報 通信		農 林 水 産 業	そ 他
81	NPO法人雪浦あんぱんね	長崎県西海市	平成27年にNPO法人化。カフェレストラン、ゲストハウス、農園の運営、農泊推進、移住促進、各種イベント、地域情報発信等の地域活性化の取組を展開。		○		○					○		○										景観、自然	○	
82	有限会社シュシュ	長崎県大村市	平成12年、農業交流拠点施設「おおむら夢ファームシュシュ」を開業。6次化による農産加工品の製造・販売、食育体験や収穫体験など豊富なメニューで取組を展開。	○			○			○		○												農林水産物	○	
83	くまもと☆農家ハンター	熊本県宇城市	平成29年に組織を立ち上げ、「地域を災害から守る消防団のように鳥獣害から地域と畑を守る！」を合い言葉に、品目、規模を超え県内の若手農家有志で、住民主体の鳥獣害対策モデルの構築を目指す。		○		○			○	○													農産物、イノシシ	○	
84	ウーマンメイク株式会社	大分県国東市	平成27年に課題の多い農業分野において、新時代は女性が創るという想いを込め女性だけで起業。女性の雇用創出や地元行事に積極的に企画・参加するなど地域活性化にも貢献。	○			○						○											農林水産物	○	
85	株式会社成美	大分県豊後大野市	平成24年個人事業者として開業、平成26年に法人化。地域資源と女性愛で「美味しい笑顔」を創ることで、地元女性の雇用創出や生産者の所得向上など地域活性化に貢献。	○			○			○	○			○										農林水産物、ジビエ	○	
86	有限会社清川ふるさと物産館夢市場	大分県豊後大野市	平成10年、農林業公社から経営移管し、地域活性化を目的に、農産物の直売所及びレストランの運営、加工品の開発、直営農場の運営のほか、移動販売事業や生活支援サービス事業等にも取り組む。	○	○		○			○					○									農産物	○	
87	株式会社くしまアオイファーム	宮崎県串間市	地域特産品の「さつまいも」を活用し、市場ニーズに適合した加工食品の提供、小ぶりさつまいもの輸出により農業者の所得向上及び雇用の場を創出。	○			○			○				○										農林水産物	○	
88	高千穂ムラたび協議会	宮崎県高千穂町	平成22年に協議会を設立し、「観光と連携してムラに生産を創る。」をテーマに、「農業の6次産業化」「食事と宿泊施設の整備」「エコミュージアムによる誘客」の三部門を一体化した新しい農村産業づくりを展開。	○	○		○			○		○												農産物、農村景観	○	
89	NPO法人猫娃おこそ会	鹿児島県南九州市	「いつまでも住みたい魅力あるまち」の実現を目指すため、平成19年に法人化。地元農家と連携した「畑旅(はたたび)」を活動のメインとした「農業観光プロジェクト」等により観光誘致を推進。		○		○					○												農林水産物、古民家・空き家、景観		○
90	株式会社南風ベジファーム	鹿児島県南さつま市	平成28年に株式会社を設立し、農業と福祉を一体化させ、さらに6次化に取り組むことで、多くの人材を雇用することが可能となり、人手不足、所得の向上等、農業と農村の抱える問題を解決し、地域の活性化に貢献。	○			○			○			○											農産物	○	
91	社会福祉法人白鳩会	鹿児島県南大隅町	農福連携で知的障害者の自立支援を図るとともに健康者と障害者が交流できるイベント開催などによる食品販売を通じて、県内外の人々との交流促進により地域活性化に貢献。	○			○			○			○											農林水産物		○
92	宮古島さるかの里	沖縄県宮古島市	地域の自然資源・文化資源を活用し、体験滞在型観光地として地域連携のもと農泊を推進。農家レストランを拠点とした土産地消による地域ならではの料理を伝承し、島野営での郷土料理体験を提供。	○	○		○			○		○												農林水産物、文化、自然		○
93	社会福祉法人みやこ福祉会	沖縄県宮古島市	野営の周年栽培施設等の環境を整備し、障害者の就労の場を確保、安定雇用を実現。	○			○						○											農林水産物		○
				64	55	0	82	9	5	56	7	40	21	21	7	2	1	4	5	2	3	2	6		56	44

- 空き家をリノベーションして、交流拠点施設を整備。地域の農泊の拠点・窓口として機能。
- 春夏秋冬・季節ごとの魅力をツアー企画として商品化。農泊をビジネスとして自立した運営を目指す。



キーワード

内発的

外部人材

農泊

基本情報

- 所在地：北海道河東郡鹿追町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：鹿追町農泊推進協議会
- 主力商品・イベント：
 - 季節に応じた食と体験コンテンツの農泊ツアー
- 活用している地域資源：
 - 農畜産物、空き家、大自然（国立公園、ジオパーク、森、湖、川、平原、雪）
- 主な国等の支援策：
 - 平成29年度農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- これまで地域の事業推進や取りまとめの中心的な役割を担ってきたNPO法人北海道ツーリズム協会が事務局となり協議会を設立。体系的な農泊の基礎づくりを実施。
- 取組の中で、ビジネスとして自立運営できる体制を構築するため、『一般社団法人E n』を立ち上げる。代表者は国内旅行業務取扱管理者の資格を取得。
- また、空き家を改修し交流拠点施設を整備。地域DMO機能や農泊受入のワンストップ窓口など、地域の農泊の拠点として機能する。
- 現在は、連携する旅行会社を通じ、『E n』において農畜産物や大自然等、地域の魅力をオールシーズンで発信。ツアー企画を商品化し、宿泊者数や売上高の増加を図る。



犬ぞり体験

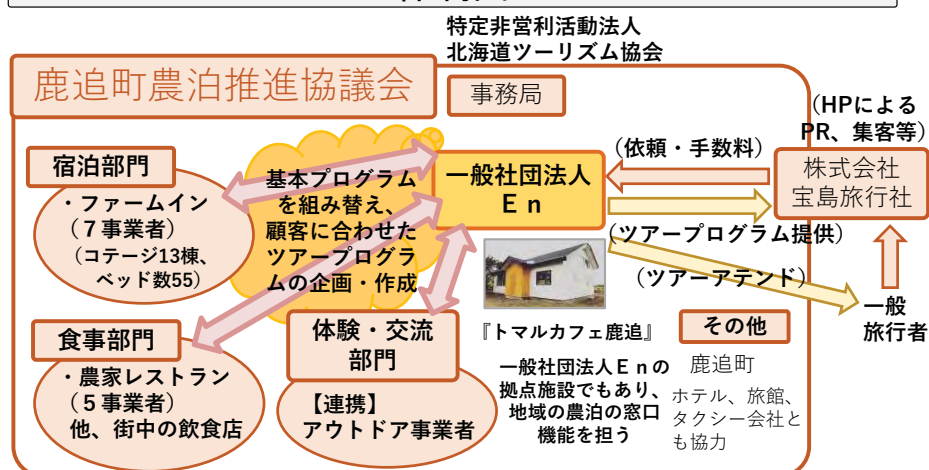


熱気球体験



地元農産物を使ったピザ

体制図



取組の成果

- 協議会のツアー商品の販売実績（R元年度）
 - ・宿泊者数：1,650人泊
 - ・売上金額：2,300万円
- 地域全体の売上高（R元年度）
 - ・宿泊：1,800万円
 - ・農業体験：1,500万円
 - ・農家レストラン：1億5,000万円



ホース・トレッキング

所在地 ▶ 北海道河東郡鹿追町本町2丁目35

連絡先 ▶ TEL:0156-69-7333 FAX: 0156-69-7334

E-mail: takeda@htu.ne.jpウェブサイト ▶ <http://www.htu.ne.jp>

（※特定非営利活動法人北海道ツーリズム協会のサイト）

【取組のプロセス】

当時問題になっていた農産物貿易自由化の危機感をきっかけに、幅広い議論を展開。

1988年～

きっかけ

○町内に農家レストランがオープンしたことをきっかけに、地域の5名ほどの青年が、目指すべき農業などについての勉強会を始める。

ツーリズム大学後、農業者の取組にアウトドア事業者も加わり、グリーン・ツーリズムの魅力が広がる。

1990年代

地域の農村観光の事業化に取り組む

- 1990年「鹿追町ファームイン研究会」を発足。ファームインや農家レストラン、農業体験などの実践を地域に広げる活動やネットワークづくり、地域の農村観光の事業展開に取り組む。
- 事業者が個別の取組として、予約システムを独自に構築し、リピーターを中心とした集客と売上の確保を図り、事業化を進める。



きっかけとなった農家レストラン「大草原の小さな家」
(写真は2018年のもの)

地域の様々な資源を一元的にセットし付加価値を高めた販売ができていない
拠点施設がなく、地域の魅力の発信が不十分といった課題も見えてくる。

2000年頃～

それぞれの事業者による農村観光の推進と人材育成の取組

- 2001年～2003年、北海道ツーリズム大学を開講（NPO法人北海道ツーリズム協会（鹿追町ファームイン研究会から改組）主催）。農村観光を担う人材の育成に取り組む。
- 各事業者がそれぞれの事業の取組を続ける中、これまで全体の事業推進や地域の取りまとめの中心的な役割を担ってきたが、NPO法人北海道ツーリズム協会が資金不足や人材不足となり、地域が自立して事業を行う必要性が感じられるようになる。



北海道ツーリズム大学の様子
(2001年からの3年間で計6回、2018年から19年にかけて計3回開催)

農山漁村振興交付金（農泊推進対策）等の活用

2017年～

体系的な地域の農泊推進の基礎づくり～自立化に向けての取組

- NPO法人北海道ツーリズム協会を事務局として、『鹿追町農泊推進協議会』を設立。国の交付金事業の活用により、地域の農泊の推進に取り組む。
- 地域の合意形成や人材育成等を行うとともに、交流拠点施設を整備。また、地域DMOの役割を担う組織を立ち上げ、一般社団法人化。代表となる人材の育成にも取り組む。
- 代表者は国内旅行業務取扱管理者資格を取得し、法人として旅行業務を直接行うことが可能となった。整備した施設は、地域DMO機能や農泊受入のワンストップ窓口としても活用。
- ツアー商品の販売については、基本形を作成し、ユーザーの希望や旅行者との協議により、その都度内容を組み替え、顧客に合わせたツアー内容で受入を行っている。（現在は、連携する旅行事業者から、プログラム企画・作成やアテンド手数料を受け取る形で運営。）



交流拠点施設
『トマルカフェ鹿追』
(カフェ、宿泊の機能も持つ
地域の農泊の窓口施設)

交付金事業の中で、北海道ツーリズム大学も復活させ、地域の合意形成や人材育成を行う。

2019年度までに、18種類のツアー企画を実施。

今後の
展望

自立した人材・組織による、ビジネスとして地域の農泊の継続を図る

- 組織が立ち上がり、地域の農泊をビジネスとして、自立して運営する体制が構築された。
- 若い、次の世代を育て、若い世代と一緒に学ぶ「場」をつくりながら、取組を進めていく。更に、「オンラインツアー」の事業化など、新しい取組も検討していきたい。

- 就労継続支援A型事業所を平成25年4月から運営。知的・精神障害を持つ利用者が通年で野菜の生産やジャガイモ等の一次加工、コミュニティレストランの調理や接客に従事し、安定した高賃金を実現。



キーワード

外部との連携

障がい者

企業

農福

基本情報

- 所在地：北海道芽室町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：株式会社九神ファームめむろ
- 選定表彰：
 - 第3回ディスカバー農山漁村の宝（H28）特別賞（アクティブ賞）
- 主力商品：野菜一次加工品、コミュニティレストラン
- 活用している地域資源：農林水産物、農地
- 主な国等の支援策：都市農村共生・対流総合対策交付金（H27～29）※
※「NPO法人プロジェクトめむろ」として実施

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」を運営。知的・精神障害を持つ約20名の利用者が野菜の生産及び一次加工に通年で従事。
- 町内に障害者の就労場所を確保するため、芽室町は、障害者就労の実績がある民間企業に障害就労のコーディネートに依頼。官民一体の就労参画プロジェクト「プロジェクトめむろ」を発足。
- JAめむろから農作業指導を受けるほか、加工原料のジャガイモが不足する場合には提供を受けるなど協力体制を構築。出資企業の惣菜店が、一次加工したジャガイモを全量買い取っている。



農作業の様子

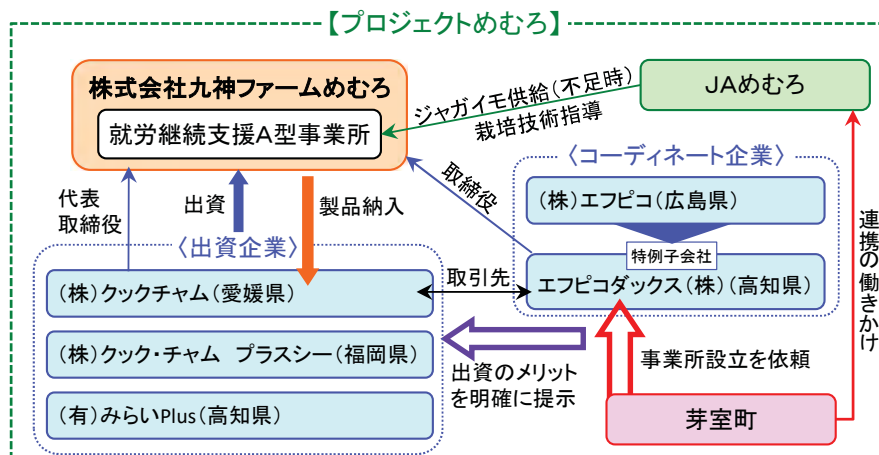


加工場での作業



コミュニティレストラン

体制図



取組の成果

- 利用者に平均11万円/月を超える賃金を実現（R元）。
- 作業に従事する利用者は開設当初の9人から20人（H25→R元）に増加。農作業や農産加工で成長し、他産業での一般就労に移行した例も多数。
- 「プロジェクトめむろ」の取組により町内に多くの就労先を創出。



レストランの地産地消メニュー

所在地 ▶ 北海道河西郡芽室町中美生2線47-1

連絡先 ▶ TEL:0155-65-2280 FAX:0155-65-2282

E-mail:pjmemuro@gmail.com

ウェブサイト▶<http://project-memuro.com/about/foundation.html>

【取組のプロセス】

町で生まれた障害者を持つ子供たちのために、将来の就労場所の確保が課題

～2012年

きっかけ

○ 障がい者雇用やコンサルティングの実績を持つ企業に芽室町がアプローチ

【出資企業】 障害者の雇用を拡大したい。
【芽室町】 この町で生まれ育った障害のある子供たちの働く農園を持ちたい。く場を作りたい。

町とアドバイザーが連携して出資のメリットを企業に対し明確に提示

2012年～

プロジェクト発足、法人登記

- 平成24年、障害者の就労場所の創出を課題としていた芽室町が、障害者雇用及び他企業へのコンサルティング実績を持つエフピコダックス（株）の障害者雇用責任者を「芽室町障がい者福祉就労事業所誘致推進会議」のアドバイザーとして任命。
- 正しい障害者雇用の実績がある企業に事業所設立のための出資を要請。出資企業による株式会社九神ファームめむろの法人登記。関係団体との信頼関係を構築。

【コーディネート企業】 障害者“でも”出来ることではない。障害のある彼ら“だからこそ”出来ることを追求したい。どの場所“でも”できる仕組みを証明したい。

職員の確保、利用者の支援計画作成等、開設に向けた準備

2013年～

就労継続支援 A 型事業所「九神ファームめむろ」開設

- 平成25年2月に事業所の認定を申請。同年4月から運営を開始。
- 事業所として農産物の生産や農産加工を行うほか、地域に溶け込むため、地域住民を招いた「お披露目昼食会」で事業所が作った惣菜を振る舞うなど、交流イベントも開催。



都市農村共生・対流総合対策交付金事業により、農福連携をテーマとする交流活動を実施（H27～29）

2015年～

新たな取組に着手

- 平成27年には、新たな加工場により加工品目を拡大。また、コミュニティレストランをオープンし、地場産品を使用した定食を提供。レストランでの仕事は、障害者の職域の拡大につながるほか、障害者本人やその家族と町民の交流拠点として機能。
- 平成28年度から、農業体験を含む特別支援学校の修学旅行誘致、企業や大学生を対象とした農業体験（障害者が作業指導を実施）の受け入れにも取り組む。



町内企業への障害者雇用の啓発とあわせ、就労の定着も支援。また、受け入れる企業の負担を極力軽減できる仕組みを提案。

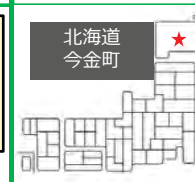
今後の展望

誰もが当たり前で働いて生きていくために

- 障害者本人とその家族、町民、行政等、関わる人や機関ごとに、それぞれに対して提供できるものと享受するものを明確化した関係を構築。
- 新たな販路に対応した「売れる商品づくり」を常に意識し、雇用の安定を維持するとともに、就労への定着を支援。また、障害者のみならず、高齢者や健常者の雇用の場としても引き続き運営。
- 同様のプロジェクトを全国に横展開することにより、誰もが働いて生きていく場を創出。



○規格外野菜を活用した特産品開発。障がい者雇用や地域活性化に向けたまちづくり会社を設立。



キーワード

内発的

障がい者

農福

基本情報

- 所在地：北海道瀬棚郡今金町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：今金町山村活性化地域協議会
- 主力商品・イベント：
今金男爵コロッケ
- 活用している地域資源：
規格外野菜、観光資源
- 主な国等の支援策：
山村活性化支援交付金（H27-29）
農山漁村振興交付金（農福連携対策）（R1-R2）



取組の概要

- 規格外野菜を活用した特産品開発及び流通拡大に向けた販売促進活動を実施。
- 地域の課題解決に向けた組織づくりとして「まちづくり会社：一般社団法人 i・スマイル」を設立。町内養護学校の卒業生を中心に障がい者雇用の受け皿としての役割を担うとともに、農繁期の作業請負等により農業の担い手不足解消に貢献。農福連携事業により整備した拠点施設（農産物加工場）の管理・運営を行うなど、安定的かつ一定数の通年雇用を目指している。



【特産品の開発】
（今金男しゃくコロッケ）



【東京都中野区の商店会【まちづくり会社を設立しと連携協定を締結】



【まちづくり会社を設立し障がい者雇用を創出】



【農産物加工場】
（町内の休眠施設を改修）

体制図

今金町山村活性化地域協議会

今金町、今金町商工会、今金高等養護学校、
JA今金町、社会福祉法人光の里

一般社団法人 i・スマイル

- 2017年 設立 職員数8名 上記協議会と協働で「観光案内事業」の試行的開設事業を実施。
- 2018年 前年度の試行を受け、今金町観光協会とのコラボレーションにより観光案内所を開設。

取組の成果

- 地域活性化に向けた母体組織となる「まちづくり会社」の設立
- 町内における高齢者と障がい者の雇用人数
389名（取組前） → 400人（R1実績）
- 農産物の売上額（販売1戸あたり）
12,270千円（取組前） → 15,280千円（R1実績） ※対前比125%

所在地▶北海道瀬棚郡今金町字今金142-39

連絡先▶TEL: 0137-82-0724 FAX: 0137-82-0740

ウェブサイト▶<http://socialtown-imakane.jp/>

- 2006年、障がい者の活躍・雇用の場として地域の基盤産業である農業に参入。温泉の廃熱を活用した熱帯果樹のハウス栽培に取り組み、通年型の観光農園を実現。現在では「農業、福祉、地域、観光」をつなぎ合わせた事業として地域の交流拠点となっている。



キーワード

内発的

人的交流

農福

教育

6次産業化

基本情報

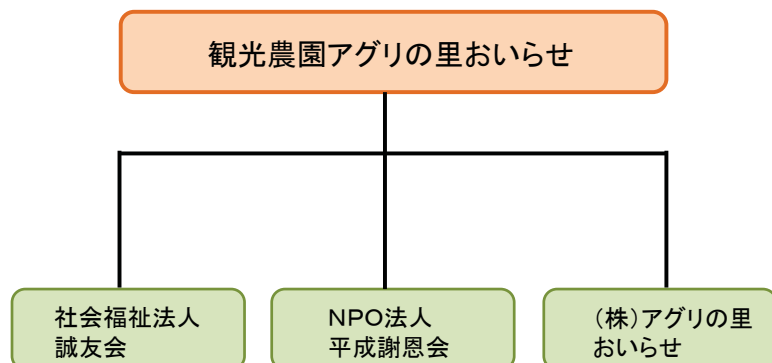
- 所在地：青森県おいらせ町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：社会福祉法人 誠友会
- 主力商品・イベント：熱帯フルーツ
- 活用している地域資源：観光農園アグリのリ（もち小麦、いちご）、熱帯果樹園（バナナ、パパイア）、工房あぐりの里農園レストラン「百果良彩」
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農福連携対策）

取組の概要

- 障がい者の就労する場として、新鮮な農作物を収穫できるビーニールハウスや農園レストラン「百果良彩」などを整備。
- 支援スタッフとともに、通所している障がい者は開店準備や調理補助、収穫作業など多岐にわたり、一人一人が抱える症状に合わせて仕事に従事。
- 農園レストラン「百果良彩」では、農園で収穫された農産物や地元食材を使用し、その素材を活かしたメニューが多くのリピーターに人気で開店と同時に満席状態。
- 農業を含めた様々な職種の従事者が障がい者とともに働き、福祉の役割と繋げる広義の「農福連携」に取組む。



体制図



取組の成果

- 農福連携の教育・体験実習の場として、教育、福祉、農業など様々な分野から問合せがあり、障がい者の就労する場だけではなく農福先進地としての普及拠点の役割。
- 障がい者就労人数（延べ）
9, 078人（2019年）
- 農福連携施設の体験・視察受入れ数
3, 882人（2019年）
- 観光客入込数
412, 453人（2019年）



所在地 ▶ 青森県上北郡おいらせ町向山東2丁目2-1263

連絡先 ▶ TEL:0178-20-0670 FAX:0178-20-0660

ウェブサイト ▶ <https://www.seiyukai-oirase.jp/>

- 2018年、体験プログラム提供などを通じた食と農業のブランド化を目的として発足。八幡平市の体験プログラムの提供を行う拠点となることを目指して、八幡平市におけるファームステイに関し、「持続可能な農業」と「大地の再生」を基本的なコンセプトに据え、「サステナビリティ社会の実現」と「人々が集う場づくり」を同時に成し遂げることをビジョンとして活動に取り組む。



キーワード

内発的

日本ファームステイ協会

農泊

インバウンド

オーベルジュ

基本情報

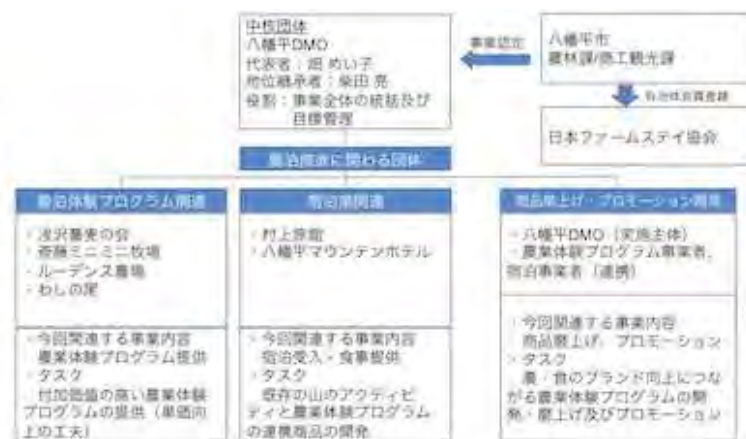
- 所在地：岩手県八幡平市
- 地域指定：振興山村・特定農山村・過疎
- 団体名：八幡平ファームステイ協議会
- 主力商品・イベント：「八幡平オーベルジュツアー」「りんごづくしツアー」
- 活用している地域資源：豊かなアウトドア資源
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- インバウンド対応に向けた取組として、体験プログラムの造成（5プログラム）やこれまで修学旅行受入用に低価格で提供していた体験を、インバウンド向けに高単価で受入できるようブラッシュアップ。
- 地域の宝である地酒「鷺の尾」の酒蔵見学、地域の食材と地酒のペアリングを楽しむ「八幡平オーベルジュツアー」や、単なるりんご狩りだけではなく、りんごの皮むき、四季のりんご園の説明付き散策、リンゴづくしディナー、リンゴジャム作りなどを盛り込んだ「りんごづくしツアー」にすることで、テーマ性を持たせた外国人向けモニターツアーを実施。



体制図



取組の成果

- 2019年の売り上げ実績は、2017年の4倍以上の実績を確保。
- マーケティングの取組の強化として、協議会ウェブサイトにて体験商品を販売。体験プログラムと地域の宿泊施設を組み合わせた旅行商品を造成し、OTAなどを活用して継続手に販売。海外旅行エージェント向けの体験タリフ（営業資料）作成の取組に繋がる。

所在地▶岩手県八幡平市

連絡先▶TEL: FAX: E-mail:お問合せ <https://slowstay8.com/contact/>
ウェブサイト▶<https://slowstay8.com/>

○日本で唯一広大な漆林を有する地域であり、国産漆の需要が高まる中、2017年、漆原木の資源調査、計画的な植栽、適切な管理方法等の検証を行い、漆の安定供給に向けた取組を実施。漆関連産業の担い手（漆掻き職人や漆師、木地師等）の育成を行うとともに、文化財以外の需要掘り起こしのため、漆の木の活用や漆器等の商品開発、浄法寺漆のブランド確立、販路の拡大に取組む。



キーワード

内発的

日本うるし保存会

技術伝承

販路拡大

基本情報

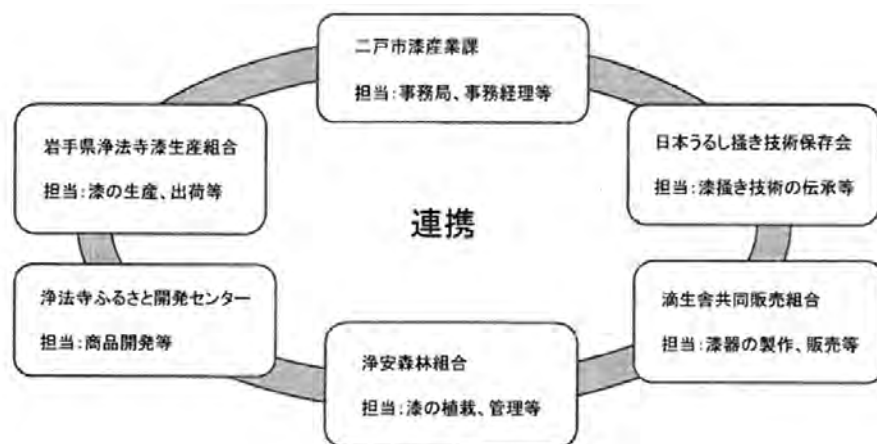
- 所在地：岩手県二戸市
- 地域指定：特定農山村・過疎・振興山村
- 団体名：二戸市
- 主力商品・イベント：浄法寺漆
(木の活用、器)
- 活用している地域資源：漆
- 主な国等の支援策：山村活性化支援交付金

取組の概要

- 地域資源の調査や付加価値向上等の取組として、漆原木の資源調査を行うとともに、安定的な生産に向け、苗栽培試験、モデル林での植栽等を行い、生育状況や管理方法を検証。
- 漆器の生産体制構築や技術伝承のため、木地加工技術等の研修、漆掻きのマニュアルを作成。
- 地域資源の消費拡大や販売促進等の取組として、市内での漆の体験イベントや首都圏等での展示実演販売を通じて、漆器の販路拡大に取組む。
- 漆の普及啓発のためのパンフレットを作成。



体制図



取組の成果

- 漆出荷量 935Kg → 1,487Kg (2019年実績)
※対前年比 159%
- 漆製品販売額 1,700万円 → 2,540万円 (2019年実績)
※対前年比 149%
- 漆関連産業の担い手の増加 (2019年実績)
(木地師1名、塗師2名 (市内の漆器展示、販売施設))

所在地▶岩手県二戸市石切所字荷渡6-3

連絡先▶0195-23-0180

- 2008年、地域づくりを目的とした地域協議会を設立。2011年、遊休農地を活用し、農業体験を通じた高齢者、障がい者、子どもの交流を目的とした「福祉農園」を設置。福祉農園を中心に、地域ぐるみで特産物の生産、加工、販売や景観形成活動、高齢者の生活支援などに取り組み、移住者の定着にもつながっている。



キーワード

内発的

大学

6次産業化

福祉農園

ドローン

関係人口の創出

基本情報

- 所在地：岩手県花巻市高松
- 地域指定：特定農山村・過疎・振興山村
- 団体名：高松第三行政区ふるさと地域協議会
- 選定表彰：H29年東北農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
- 主力商品・イベント：ふるさと宅配便、ガマズミゼリー
- 活用している地域資源：遊休農地を活用した福祉農園
- 主な国等の支援策：農山漁村地域力発掘支援事業、農山漁村振興交付金（地域活性化対策）

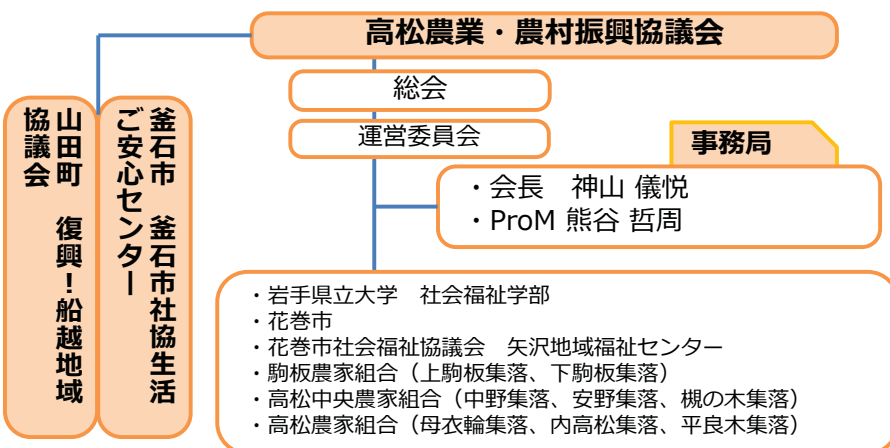


取組の概要

- 地域の高齢者等の福祉や交流を目的に遊休農地を活用した福祉農園を設置。特産物として里山に自生している樹木（ガマズミ、ナツハゼ）を植栽。収穫した果実はゼリーに加工、販売している。
- 福祉農園の他、遊休農地を活用した貸し農園の設置、運営も行い、地域内外の人々が交流する場となっている。また、集落から離れた親族などを対象に集落の作物を通信販売する「ふるさと宅配便」を実施。
- 地域住民総参加の景観形成活動を展開。参加数は年間で延べ500人（全住民が3回参加したことになる）。また、2016年からドローンを活用した景観点検を実施。
- 誰もが安心して暮らせる持続可能な地域を目指し、高齢者を対象とした自動車による買い物等への付き添い支援、配食サービス、見守り活動にも取組む。
- 岩手県立大学や花巻市等7団体と連携しWSや研修会を重ね2019年に「農村版地域包括ケアシステム構築ビジョン」を策定。



体制図



取組の成果

- 福祉農園では、高齢者、障がい者、子どもが収穫体験等をし、表情が明るくなるなど精神面や教育面でもポジティブな効果発現。
- 加工品は約1万個、「ふるさと宅配便」は毎年100個の販売。
- 貸し農園、福祉農園の収穫・交流会には多くの参加者が訪れ、2019年の関係人口は1,800人。
- 景観形成活動による美化に魅せられて10世帯が移住。

所在地 ▶ 岩手県花巻市高松

連絡先 ▶ TEL:090-4638-9764（事務局長（熊谷）） FAX: E-mail:

ウェブサイト ▶

【取組のプロセス】

高齢化、人口減少が進み集落存続の危機感。

2008年～

農林水産省「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」による地域づくり活動を開始。

集落から離れた親族などを対象に集落の作物を通信販売する「ふるさと宅配便」実施に向けたアンケートを実施。

2010年～

2011年～

農林水産省「農山漁村振興交付金」を活用。

2014年～

2011年から岩手県立大学社会福祉学部による支援（宮城好郎教授）

2019年

今後の展望

きっかけ

○ 高松第三行政区ふるさと地域協議会設立。

住民総参加の景観形成活動

- 手入れされていたかつての景観を復元しようと地域住民総参加の景観形成活動を展開。参加数は年間で延べ500人（全住民が3回参加したことになる）。
- 2016年からドローンを活用した景観点検を実施。

関係人口の創出

- 遊休農地を活用した貸し農園の設置、運営。農園は、地域内外の人々が交流する場となっている。「ふるさと宅配便」を実施。

福祉農園の設置と6次産業化

- 地域の高齢者等の福祉や交流を目的に遊休農地を活用した福祉農園を設置。
- 地域資源として里山に自生している樹木（ガマズミ、ナツハゼ）を植栽。収穫した果実はゼリーに加工、販売。

生活課題解決に向けた取組

- 2014年から一人暮らしの高齢者などへ福祉農園の食材を活用した配食サービスを実施。
- 全住民アンケートで「通院や買い物などの足の確保」の必要性が訴えられ、花巻市と協議をして2016年～2017年に、社会実験としての自動車による買い物等への付き添い支援を実施。2018年以降は花巻市の協力の下継続。
- 付き添い支援や配食サービスが見守り活動としても機能。

連携7団体との協働によるビジョンの策定

- 「地域のあるべき姿」を模索する中で、岩手県立大学や花巻市等の連携が生まれ、WSや研修会を重ね2019年に「農村版地域包括ケアシステム構築ビジョン」を策定。

『農福連携』で、地域が元気になるように

- 関係人口の更なる創出と外部人材による農作業（学生の草刈り援農隊等）の体制整備。
- 福祉農園を活用した「青空デイサービス」の実施。
- 現在進行中の農地整備事業と併せた営農計画の策定と福祉施設への食材供給体制の構築。



- 2014年、地域住民と施設利用者（障がい者）の交流を通じ、地域の活性化や利用者の地域交流の場を確保、体力向上や維持を目的に農産物の栽培を開始。遊休農地を活用し、障がい者の働く場（工賃向上）と地域交流の場の確保を目的にイチゴの栽培と観光農園を開始（2020年）。



キーワード

外部との連携

地域住民

農福

農業

都市農村交流

基本情報

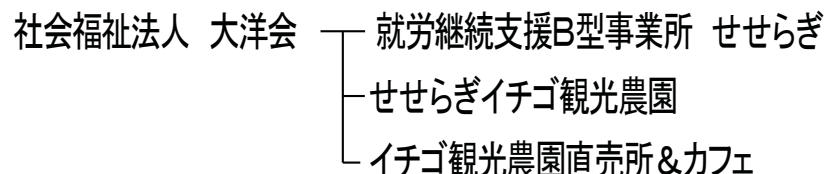
- 所在地：岩手県大船渡市
- 地域指定：振興山村・特定農山村
- 団体名：社会福祉法人 大洋会
青松館せせらぎ
- 主力商品・イベント：トウモロコシ、シャインマスカット、イチゴ
- 活用している地域資源：遊休農地
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農福連携対策）

取組の概要

- 農産物の生産だけでは売上金額が伸び悩み、真空包装機や焼き芋焼き機などを導入し加工販売に着手。冷凍保存により品質の維持、年間通しての販売が可能となり売上金額が向上。
- 地域住民の協力や研修等により栽培技術が向上し、農産物の収穫量も増加。地域住民や地域の保育園児を招き、収穫体験を通しての交流を開始。
- 災害公営住宅前での農産物の訪問販売を開始（不定期）。
- 施設利用者（障がい者）の作業工賃向上に向け、農事組合法人や民間観光農園の指導を受け、イチゴの栽培と観光農園を開始（2020年）。



体制図



取組の成果

- 施設利用者（障がい者）の作業工賃が、県平均を上回る3万円台で支給可能となる。
- 農産物の売上額
295千円（2010年）→ 1,700千円（2019年）
- 施設利用者の作業工賃額
32,000円（2010年）→ 34,624円（2019年）
- 活用農地面積 50.6アール（2010年）→ 110.6アール（2019年）

所在地 ▶ 岩手県大船渡市立根町字下欠125-15

連絡先 ▶ TEL:0192-26-3800 FAX: 0192-26-2771

お問合せ ▶ <http://www.taiyokai.or.jp/publics/index/3/>

ウェブサイト ▶ <http://www.taiyokai.or.jp/>

- 2018年、ブランド力のある観光コンテンツと農泊とを掛け合わせ、新たなコンテンツとして磨き上げ発信し農泊ビジネス実施体制の構築に向け発足。「蔵王福祉の森構想」の取組により、蔵王への定住化・観光・農業振興など多様なメニューを具体化。インバウンドを含め広域から旅行客を集客し、地域の経済発展のための体制、マーケティングの強化に向けて取組む。



キーワード

内発的

農泊

遊休施設

ワーケーション

基本情報

- 所在地：宮城県蔵王町
- 地域指定：中山間地
- 団体名：蔵王農泊振興協議会
- 選定表彰：日本の棚田100選
- 主力商品・イベント：着付け体験などの体験を受け入れている「山水苑」、温泉風呂付貸切ログハウス「NJ ZAO」
- 活用している地域資源：温泉水、水、間伐材
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

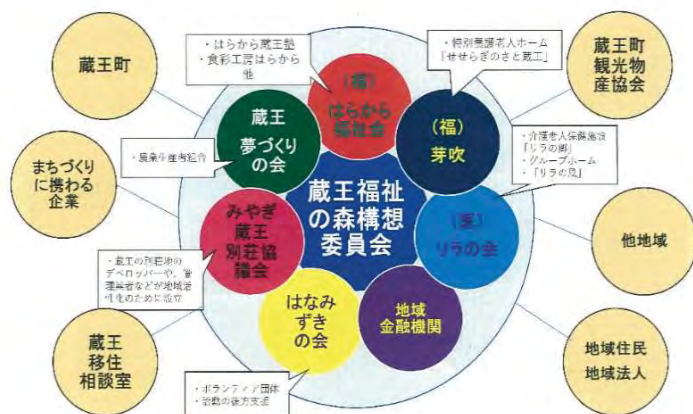


取組の概要

- 「蔵王福祉の森構想」の取組により、誰もが安心して暮らすためのセーフティネットの構築。
- 地域資源（温泉水・水・間伐材）の有効活用による再生可能エネルギーと循環型社会の構築。
- 空き家（別荘）の有効活用とバケーションレンタルの実施に伴い、適切な維持管理が業務として、地域の雇用を生み出し高齢者・障がい者の雇用にも寄与。
- 新たなマイクロツーリズム・ワーケーションの導入により、農泊・民泊とインバウンド需要を獲得。
- 体験型複合観光施設「Wiid Zao Village」を開設。地域が抱える問題の解決（地域が抱える問題（負債）を観光客誘致（資産）にスワップ）と地域活性化のハイブリッド戦略を展開。



体制図



取組の成果

- モニターツアーの実施状況（外国人旅行者への周知とともに、農泊施設拡大のため、別荘民泊に興味のあるオーナー候補に広く周知し開業施設拡大を図る。）宿泊モニター数（延べ）46人
- 延べ宿泊者数 0人（2017年）→ 8,500人（2019年）
- 体験プログラム数 0（2017年）→ 15（2019年）
- 宿泊施設数（農泊に関わる新規施設）0件（2017年）→ 15件（2019年）

所在地 ▶ 宮城県蔵王町遠刈田温泉字小妻坂75-31

連絡先 ▶ TEL:0224-34-1192 FAX : 0224-34-2869

E-mail:udagawa@zao-sansuien.jp ウェブサイト ▶ <http://zao-nouhaku.jp/>

- 2018年、国家戦略特区を活用して国内旅行業務取扱管理者資格及び地域限定の旅行業を取得し、旅行業者としてワンストップサービスの体制を構築。国内外の個人旅行観光客への対応と所得向上を目指し、情報発信や情報収集について、独自の事業展開を実施。行政に頼ることなく、会員それぞれが積極的に実施する事業を支援。



キーワード

内発的

J I C E

都市農村交流

農泊

インバウンド

アルベルゴ・ディフゾン

基本情報

- 所在地：秋田県仙北市
- 地域指定：振興山村・特定農山村・過疎
- 団体名：一般社団法人 仙北市農山村体験推進協議会
- 選定表彰：ディスカバー農山漁村の宝（フレンドシップ賞）
- 主力商品・イベント：農家体験、自然体験、歴史・文化体験、郷土料理体験、農伝統工芸品体験
- 活用している地域資源：自然（田沢湖）、歴史・文化（武家屋敷）、郷土料理（きりたんぽ）など
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- 国際交流団体の受け入れに加え、FIT（海外個人旅行）の受け入れ数が急激に伸び、グリーンツーリズムの宿の外国人宿泊者数は年間2,130名（2018年）を超える。
- 地域全体にWiFi環境、カード決済システム、多言語標記導入などの環境整備の必要性を理解してもらうための活動に注力し、自発的な取り組みに繋げる。
- 国内外の個人旅行者の誘客拡大に向けて高齢の受入農家の労力を軽減し、開業農家や泊食分離、アルベルゴ・ディフゾン（分散型ホテル）の考え方に基づく地域づくりを目指す。



体制図

仙北市農山村体験推進協議会

中心的な役割を担う団体

・(有)田沢湖自然体験センター

<事務局>

仙北市観光商工部
農山村体験デザイン室

宿泊・食事部門

・あきた芸術村
・休暇村乳頭温泉郷
・NPO法人

田沢湖ふるさとふれあい協議会
・グリーン・ツーリズム西木研究会
(上記の団体に所属以外も含め、グリーンツーリズムの宿総数32軒)

体験・交流部門

・(有)田沢湖自然体験センター

・田沢湖レンタサイクル
・旅企画思い出工房
・きもの旅しやなり
(他4団体に提供)

【支援団体】

・(一社)田沢湖・角館観光協会 ・秋田おぼこ農業協同組合
・角館漁業協同組合 ・仙北東森林組合
・仙北市観光商工部、総務部、教育委員会

○ H20年に市、観光協会、JA等が構成員となり設立。

取組の成果

- 外国人宿泊者数
1,808人（2017年） → 2,130人（2018年）
- 協議会会員数
12会員（2017年） → 25会員（2018年）
- 協議会FIT予約人数
0人（2017年） → 178人（2018年）



所在地 ▶ 秋田県仙北市西木町上荒井字古堀田47（仙北市役所 西木庁舎内）
連絡先 ▶ TEL:0187-43-2277（平日9:00～17:00） FAX:0187-47-3234
ウェブサイト ▶ <https://semboku-gt.jp/>

- 2016年、地域内に多く自生している山菜（フキ、タケノコ等）、山野草を活用して加工品や薬膳料理の開発に取り組み、女子栄養大学や料理講師など専門家の指導を受けながら、知識の習得、技術の向上を図る。また、山菜とそれに関わる食をきっかけに、地域ぐるみで新しい産業を創ることを目指し、山菜や協議会の取組について紹介するWebサイト「山菜せんせい（[://sansei-sensei.com](http://sansei-sensei.com)）」を立ち上げて情報を発信。



キーワード

内発的

大学

6次産業化

基本情報

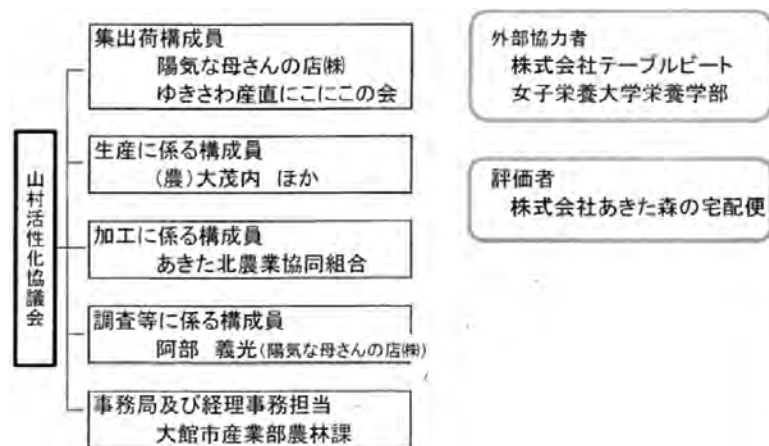
- 所在地：秋田県大館市
- 地域指定：特定農山村・過疎・振興山村
- 団体名：十二所・長木地区山村活性化協議会
- 主力商品・イベント：山菜まんじゅう、薬膳料理、山菜せんせい
- 活用している地域資源：山菜
- 主な国等の支援策：山村活性化支援交付金

取組の概要

- 地域資源の調査や付加価値向上等の取組として、山菜の分布、生育状況のほか、収穫時期、自家消費量、直売所での販売量を調査。
- 郷土の伝統的な保存食を基本にしたレシピや、滋養を活かした薬膳料理等を考案し、新商品のパッケージデザインを開発。
- 地域資源の消費拡大や販売促進等の取組として、旬の短い山の味わいを安定的に供給するために、耕作放棄地を活用した山菜（ウド、フキ、タラノメ等）の試験栽培への取組。
- Webを活用した情報発信「山菜せんせい」、首都圏アンテナショップ等での山菜商品の試食販売を実施。



体制図



取組の成果

- 山菜を活用した新商品の開発
 - 6品（山菜まんじゅう、キャラブキ、ばっけ味噌等）
- 直売所における山菜加工品販売額
 - 91万円（2018年）→ 93万円（2019年）
- 山菜加工品の新たな販路を開拓し継続的に出荷
 - （県内の農家民宿、東京都内のレストラン等）

所在地 ▶ 秋田県大館市

ウェブサイト ▶ 山菜せんせい：[://sansei-sensei.com](http://sansei-sensei.com)

○一度途絶えかけた紅花文化を町民有志の手により1994年に復活を果たし、町民主体でその生産を年々拡大。近年、国産品の需要の低下、海外加工品の参入による価格競争の激化などから紅花生産者の所得に直結、貴重な紅花文化の存続が危惧される中、紅花にちなんだ「紅（あか）」をテーマとしたブランド化と、質の高い一次加工品の生産技術向上へ取り組む。



キーワード

内発的

町民有志

6次産業化

教育

藍染め

基本情報

- 所在地：山形県白鷹町
- 地域指定：平地農業地域
振興山村・特定農山村・過疎・特別豪雪
- 団体名：山形県白鷹町日本の紅（あか）をつくる町連携推進本部
- 選定表彰：令和2年度東北農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
株式会社山形テレビ第14回～第16回ふるさとCM大賞
- 主力商品・イベント：町内産の紅（あか）い商品「シラタカ・レッド」
- 活用している地域資源：紅花
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（地域活性化対策）

取組の概要

- 2002年に町をあげての観光イベントとして「白鷹紅花まつり」をスタート。2015年には、紅花生産日本一の里として「白鷹町日本の紅（あか）をつくる町連携推進本部」を設立。紅花の生産と観光を両輪とした事業に着手し、古くから白鷹町に存在してきた紅（あか）いものを「SHIRATAKA RED」と名付け、地域の再生や6次化による生産者の所得向上に取り組む。
- オール白鷹産「紅花先染め振袖～万葉からの誘い～」の作成。白鷹産最上紅花を加工した最高品質の「紅餅」と万葉集の歌にある紅の八潮（八回染め重ねた濃色の紅花染め）を再現。
- 「半夏一輪咲き」や「連作障害」など、紅花の特性や栽培の苦勞を子ども達に解る簡単な言葉で表した絵本「しらたかべにばなものがたり べにばなふしぎ」を作成。SHIRATAKA REDのオリジナルソング「おどる！シラタカ・レッド」とダンスを作成し、ダンスフェスタ開催。
- 町内の全小中高校生による地域学習での取り組みや、花摘みボランティア事業に取り組み、紅花生産量日本一を継続しながら、次世代を担う子供たちが貴重な経験や体験を通して、郷土の誇りや郷土を愛する心の醸成につなげていく取組み。
- 日本一の藍の生産地である徳島県上板町の藍染めとの連携を通した新たな販路構築に向けた取組み。



体制図

【組織構成】

白鷹町・白鷹町商工会・山形おきたま農業協同組合白鷹支店・（一社）白鷹町観光協会・山形県酪農農業協同組合白鷹支所・（一財）白鷹町アルカディア財団・白鷹紅の花を咲かせる会・山形銀行荒砥支店・山形県置賜総合支庁（事務局：商工観光課）

実施

- ・生産者支援
- ・土壌調査、国土保全
- ・付加価値（商品開発）
- ・生産者所得向上
- ・観光商品開発
- ・観光エクスカージョン
- ・交流人口増大
- ・日本の紅（あか）をつくる町、シラタカ・レッドイメージ定着

委託・連携

株式会社伊勢半本店、
紅花まつり実行委員会、
山形県紅花生産組合連合会

< 関連事業 >

- ・紅花まつり
- ・紅花colors
- ・雪紅（あかり）

取組の成果

- 紅花生産量の拡大：142.0Kg（2015年）→ 173.0Kg（2019年）
- シラタカ・レッド商品の売上高：134千円（2017年）→ 7,367千円（2019年）
- 2019年、本町も含めた構成市町が「歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」～日本で唯一・世界でも稀有な紅花生産・染色用加工システム」が日本農業遺産に認定。

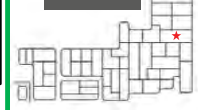
所在地 ▶ 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833

連絡先 ▶ TEL:0238-85-6126 FAX: 0238-85-2509

E-mail ▶ shoukou@so.town.shirataka.yamagata.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.town.shirataka.lg.jp/2146.html>

- 2004年、NPO法人「こころネットワーク県南」を設立（2011年、社会福祉法人に移行）。精神障害を中心とする施設利用者が、メインとなる養鶏のほか野菜栽培、加工、直売所の運営などを通年で実施。支援学校卒業生の積極的な受け入れを行い、職業訓練の場、働く場としての農業として機能。地元の農業法人等と協力的な関係を構築し、一般就労へ向けての訓練や支援に取り組む。

福島県
泉崎村

キーワード

内発的

農業経営コーディネーター

GAP営農指導アドバイザー

農福

6次産業化

基本情報

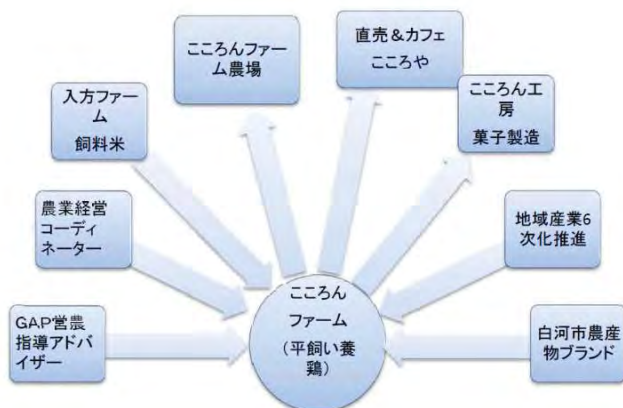
- 所在地：福島県泉崎村
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：社会福祉法人 こころん
- 選定表彰：H29ディスカバー農山漁村の宝（アクティブ賞）、H29ふくしま地産地消大賞、R2ふるさとづくり大賞、R2ふくしま産業賞
- 主力商品・イベント：直売所・カフェこころや（ここたま（鶏卵））
- 活用している地域資源：遊休農地
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農福連携対策）

取組の概要

- 地域との連携をとりつつ、施設利用者たちの就労（就労移行）の場として新たな養鶏場や直売所・カフェ「こころや」を整備し、こころんの6次産業型福祉農園（障がい者は様々な仕事が体験できる）に取り組む。
- 鶏の健康を考えた平飼いにより、ストレスのない鶏が産む、殻が固く白身の盛り上がった新鮮たまご「ここたま」を販売。県内外のマルシェ（全国車椅子駅伝、ノウフク朝市ほか）に参加し、販路開拓・拡大に取り組む。
- ①こころんファーム（農業、養鶏）、②こころん工房（スイーツ）、③なごみの家（惣菜工房）、④こころや（直売）、⑤Cocoroyacar（移動販売）など生産・加工・販売までを、こころんの就労支援事業（6次産業化）として展開。



体制図



取組の成果

- 施設利用者は、農業を通して体力や忍耐力が身についたほか、地域の人々と触れ合う機会が多くなることで家族間のトラブルが減少し、明るさを戻す。また、直売所の売上げの増加（J-GAP取得により、その食材で作る直売所・カフェのランチが好評）に伴い、利用者の所得も向上。
- 農産物の売上 1, 100万円（2015年）→ 1, 656万円（2019年）
- 直売所の売上 5, 779万円（2015年）→ 6, 605万円（2019年）

所在地 ▶ 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字下根岸 9

連絡先 ▶ TEL:0248-54-1115 FAX : 0248-53-3063

E-mail: izumizaki@cocoron.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.cocoron.or.jp>

【取組のプロセス】



○江戸時代に建設された用水路（十石堀）は、地域住民主体で維持管理が行われてきた。維持管理を行う中で地域資源と捉える意識が醸成し、地域学習やエコツーリズム等を経て、令和元年9月、世界かんがい施設遺産に登録。



キーワード

内発的

ボランティア

都市農村交流

教育

エコツーリズム

世界かんがい遺産

基本情報

- 所在地：茨城県北茨城市中郷町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：十石堀維持管理協議会
- 選定表彰：第7回「ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：エコツーリズム
- 活用している地域資源：かんがい施設（十石堀）、自然、地質遺産
- 主な国等の支援策：多面的機能支払交付金

<構成員（参考）>

- ・松井地区：109人
- ・日棚地区：136人
- ・栗野地区：102人

取組の概要

- 十石堀周辺に残る豊かな自然、炭鉱跡などの地域資源を活用し、ボランティアによる十石堀の歴史や地質遺産等のエコツーリズムを実施。また、教育機関との連携により、小学校の校外学習の実施や副読本の作成。
- 伝統継承を目的とし、平成29年度より古文書の解読、地域勉強会、他県先進事例視察などを実施。十石堀は平成31年1月に市の史跡指定、令和元年9月には世界かんがい施設遺産に登録。
- 世界かんがい施設遺産登録を機に地域内外で関心が高まり、来訪者数が増加。行政と連携した市民講座や県民大学講座（現地研修）のほか、海外からの視察受入れ。



小学生の校外学習



親子参加のウォーキング



県民大学講座



海外からの視察

体制図

組織図：



取組の成果

- 小学校の地域学習：23人（H27）→143人（R元）
- エコツーリズム参加人数：40人（H27）→77人（R元）
（ボランティアによる十石堀ウォーキング、地質遺産ツアー等）
- 講座参加者数・国内外からの視察受入れ数：54人（R元）

所在地▶茨城県北茨城市磯原町1630

連絡先▶TEL:0293-43-1111 FAX:0293-43-1108

E-mail:nousei@city.kitaibaraki.lg.jp

ウェブサイト▶<http://www.city.kitaibaraki.lg.jp/docs/2019082700010/>

※上記は北茨城市役所

- 平成11年に会社を設立。いちごの観光資源化を目指しいちご狩り開始。未収穫分は加工販売のほかレストランやカフェも併設し6次化を推進。更には就労継続支援事業により農福連携の取組。



キーワード

内発的

JGAP指導員

6次産業化

農福

都市農村交流

基本情報

- 所在地：栃木県小山市大川島
- 地域指定：平地地域
- 団体名：株式会社いちごの里ファーム
- 選定表彰：
 - 第6回関東農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定
 - 第39回プロが選ぶ観光食事土産物施設100選（R1）
- 主力商品・イベント：いちご、果実類及び同加工品、観光農園、カフェレストラン
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- 県の代表的な作物「いちご」を始めとするフルーツ狩りのほか、収穫しきれなかったいちご等を活用し、ジャムやケーキの製造販売を開始。現在はそれらのほか地元野菜を使った料理を提供するカフェ、レストランを開設。多くの来客数を実現し、売上も向上。また、多くの雇用も創出。
- 平成30年には（一社）いちごの里めぶきファーム（就労継続支援事業所）を開設。令和2年に社会福祉法人「めぶき会」として継承。多くの障害者を雇用し、農福連携農園として地域社会に貢献。
- 平成30年にJGAP認証を取得。食の安全、環境保全、人権と福祉の配慮への取組。



いちご狩りの様子



自社いちごを使用



160棟のいちごハウス



農福連携で働く方々

体制図

株式会社いちごの里ファーム

観光農園

地域社会への
貢献就労継続支援施設
(社会福祉法人)
めぶき会レストラン、カフェ
等（県内4店舗）

取組の成果

- 売上：4.2億円（H20）→ 8.4億円（R元）
- 来場者数：10万人（H20）→ 16万人（R元）
- 雇用者数：140人（R元）
- 障害者雇用人数：40人（R元）
- 観光農園面積：3ha（H20）→ 5ha（R元）

障害者の方々が製造した
「ひだまりゼリー」

所在地▶栃木県小山市大川島

連絡先▶TEL:0285-33-1070 FAX:0285-33-1071

E-mail:yoyaku@itigo.co.jp

ウェブサイト▶https://www.itigo.co.jp/

【取組のプロセス】

日本一の生産量を誇る栃木のいちごを観光資源として活用を思いつく

1998年～

きっかけ

○ 栃木県の代表的な作物「いちご」を観光資源としての活用を思い立ち、観光農園を開始

収穫仕切れなかったいちごの活用と来客者の要望に応えた商品の提供

1999年～

観光農園を開始

- 平成12年より、観光としてのいちご狩りを開始。同時に余ったいちごを加工し、ジャムやケーキ等の製造販売を開始するとともにレストランやカフェも併設。令和元年には県外に新レストランをオープン
- 平成26年の観光農園利用者は12万5千人、売上約5億7千万円、雇用者110人



直売所「ベリーベリーマルシェ」

地域社会により密接に貢献したいという思いから、めぶきファーム設立

2018年～

農福連携の取組

- 平成30年、「一般社団法人 いちごの里めぶきファーム」を開設。一般就労型A型事業として農福連携を開始。現在は約40名の障害者を雇用。令和2年に社会福祉法人化
- 観光農園で働くほか、自社で栽培したいちごやももの加工品を製造、販売



社会福祉法人めぶき会

地域やお客様に愛されつつ、栃木県の魅力度を向上させたい思いで取組を促進していく

2020年～

安心安全ないちごの提供と地域への貢献

- 令和元年の観光農園利用者は16万人、売上は約8億4千万円まで上昇、雇用者は180人（内障害者40人）に増加
- 平成30年にJGAP認証取得。継続的な取組とするため農場担当者4名がJGAP指導員資格を取得



JGAP認証取得

今後の展望

国内最大級の農福連携農園へ

- いちごの里ファームは国内最大級の観光農園であるが、今後はいちごハウス増設による、国内最大級の農福連携農園を目指す
- 世界的ワイン産地、アメリカ合衆国ナパバレーを参考に6次産業化を促進させ、世界中からの来客により、地域、栃木の魅力を発信する



いちごの里カフェ日光店オープン

- 平成6年、北軽井沢にキャンプ場をオープン、平成12年に有限会社設立。キャンプ場における地場産木質エネルギーの循環活用を開始。通年の集客数確保と薪の自社生産により雇用の場を創出。



キーワード

内発的

地域住民

木質エネルギー

ソーシャルビジネス

6次産業化

基本情報

- 所在地：群馬県吾妻郡長野原町
- 地域指定：山間地域
- 団体名：有限会社きたもっく
- 選定表彰：
 - 第7回関東農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定
 - R2年 群馬県6次産業化チャレンジ支援事業1位
 - H30年「家族で冬キャンプ」東日本ランキング1位
 - H26年「お勧めのキャンプ場」東日本ランキング1位
- 主力商品・イベント：自社製薪、冬キャンプ、蜂蜜
- 活用している地域資源：山林、農林水産物
- 主な国等の支援策：地域資源活用事業

取組の概要

- 冬期間は休業せざるを得なかったキャンプ場の冬の集客案として、場内の全宿泊施設に薪ストーブを設置。「寒いからこそ楽しめるアウトドア」の提案により、宿泊者の呼び込みや従業員（通年雇用）を創出。
- 地域の豊富な森林資源を活用すべく、採暖や食事づくりで活用する「薪」の生産を自社内で開始。また、アーボリカルチャーを取り入れた計画栽培など地域内木質エネルギーの循環活用への取組。
- 耕作放棄地を再生し養蜂業を開始。地元農家との協業による蜂蜜加工品の企画販売など、ブランド地域農産物の発信。



冬場のアウトドア

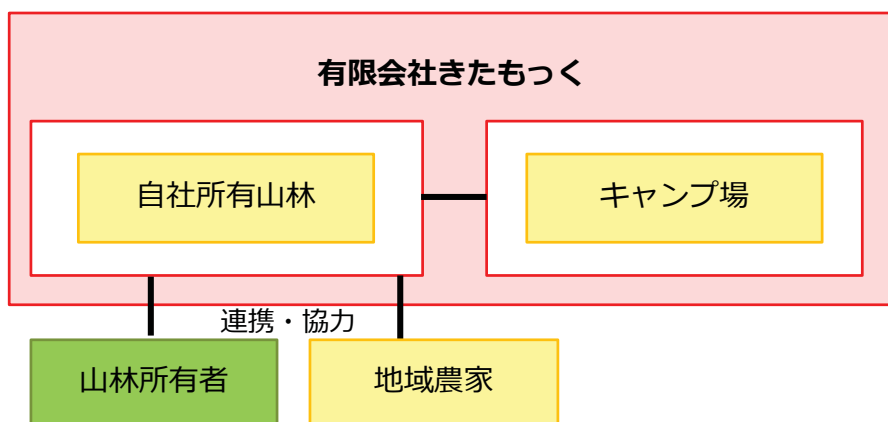


薪はすべて自社生産



養蜂とブランド蜂蜜

体制図



取組の成果

- 年間キャンプ場宿泊者数：約7万人（H27）→約8万3千人（R元）
- 従業員数：46人（H12）→113人（R元）
- 年間薪消費量：約863m³
- 企業売上：約4.8億円（R元）
- 年間蜂蜜生産量：1.2トン

所在地▶群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢

連絡先▶TEL:0279-84-6633 FAX:0279-84-3533

E-mail:contacts_kitamoc@kitamoc.com

ウェブサイト▶<https://kitamoc.com/>

- 平成23年、沼田市の特産品を活用した商品「えだまメンチ」を開発。イベント販売や学校給食への提供により地域活性化に貢献。市内の福祉施設に鞆むきを依頼し、農福連携の取組も開始。



キーワード

外部との連携

学生

6次産業化

教育

農福

えだまメンチ

基本情報

- 所在地：群馬県沼田市栄町
- 地域指定：都市的地域
- 団体名：群馬県立利根実業高等学校 食品文化部
- 選定表彰：
群馬ふるさとづくり賞（H26年度）
FANアワード2014（H26年度）
ふるさとづくり大賞総務大臣賞（H27年度）ほか
- 主力商品・イベント：えだまメンチ、各種イベントで出店・販売
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- 沼田市から商品開発の依頼を受け、規格外等の理由で出荷できないえだまめに着目。これを活用した「えだまメンチ」を開発。
- 市内外のイベントで販売し、地域特産品のえだまめを大きくPR。平成24年度からは市内の全小中学校の学校給食に「えだまメンチ」を提供。高校生が小、中学校に出向き、食農教育も実施。
- 平成27年度からは市内の福祉施設に鞆むきを依頼。農福連携による雇用の創出。



えだまメンチ

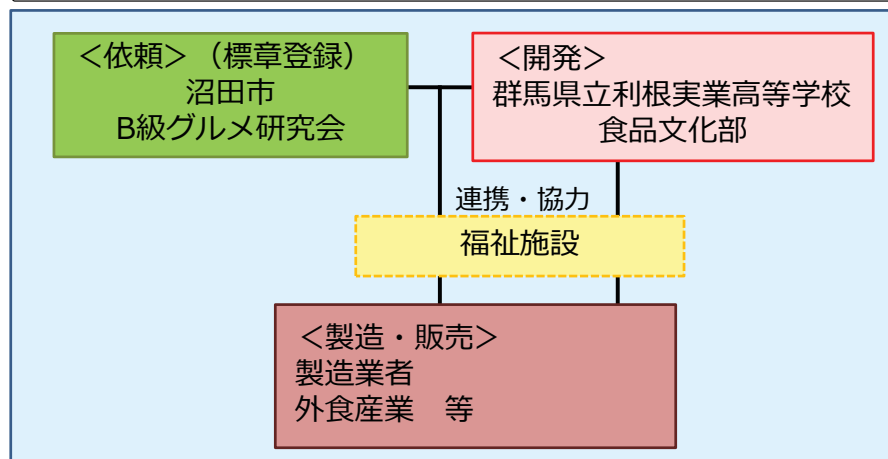


市内全小中学校の給食に提供



えだまメンチ教室

体制図



取組の成果

- H30年度販売額：約1,500万円
- 累計販売額（R2年度見込み）：約1.2億円



イベントでの販売

所在地▶群馬県沼田市栄町

連絡先▶TEL:0278-23-1131 FAX:0278-22-5136

E-mail:tonejitu1902@edu-g.gsn.ed.jp

ウェブサイト▶<http://edama-menchi.com/>

- 平成18年、秩父地域に自生するカエデに着目し、国産メープルシロップ事業を開始。樹液の採取、シロップ化（秩父カエデ糖）のほか、加工品の開発など、6次産業化と林商工連携によるお菓子創りを推進。



キーワード

外部との連携

学生

6次産業化

ソーシャルビジネス

輸出

カエデ

基本情報

- 所在地：埼玉県秩父市
- 地域指定：都市的地域
- 団体名：お菓子な郷推進協議会
- 選定表彰：
第2回関東農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定
世界食品オリンピックモンドセレクション
第6回WOODデザイン賞受賞（R2年） など
- 主力商品・イベント：秩父カエデ糖、海外でのプロモーション など
- 活用している地域資源：農林水産物（メープルシロップ）
- 主な国等の支援策：秩父メープルシロップ生産体制整備支援事業（埼玉県）ほか

取組の概要

- 秩父の山々に自生しているカエデを活用し、シロップ化のほか、カエデ酵母菌使用パンの開発、カエデのラムネ販売など6次産業化と林商工連携による菓子づくりを開始。同時に荒廃が進む山林へのカエデ植樹を開始、地域と連携した山林の再生活動。
- H23年より、流通大手や通信販売業と連携した事業展開を開始。売上は大幅に増加し、雇用者数も増加。
- H29年より、商社と連携して米国でのプロモーション及び日系スーパーで秩父カエデ糖使用菓子類の販売を開始。R2年には秩父カエデ糖が食品として世界初の森林認証を取得するなど、秩父の地域資源を世界に向け発信。



樹液の採取



地元中学生との植樹事業

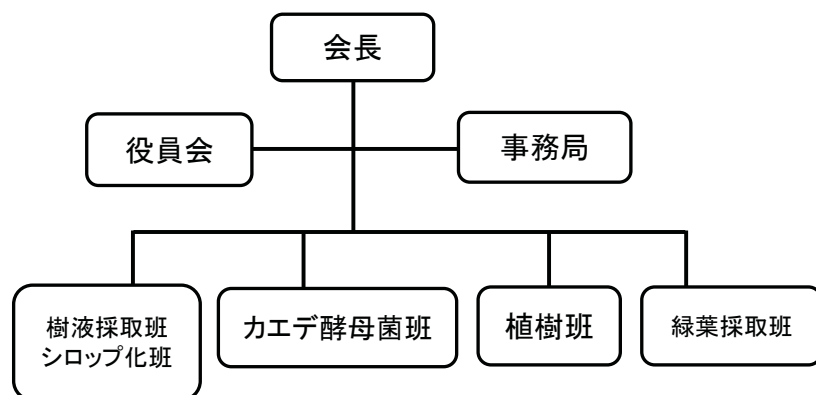


秩父カエデ糖使用商品



米国のスーパーで販売

体制図



取組の成果

- カエデ糖使用商品売上：
(H22) 1,300万円→(H24) 3,200万円→(R元) 3,900万円
- 植栽本数：累計1万本（R元時点）
- 雇用者数：(H22) 20人→(H24) 50人→(R元) 60人

所在地▶埼玉県秩父市宮側町1-7

連絡先▶TEL:0494-25-0088 FAX:0494-22-3384

E-mail:okashinakuni@gmail.com

ウェブサイト▶<http://www.okashinakuni.jp/>

- 平成26年、地域活性団体「ようこそ鋸南プロジェクト」を設立し、廃校利用の道の駅を拠点として交流活動を開始。平成29年、株式会社を設立し、農泊推進協議会を設立。クラフトビール醸造所を整備。



キーワード

外部との連携

学生

移住者

農泊

都市農村交流

ビール

基本情報

- 所在地：千葉県安房郡鋸南町吉浜
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：きよなん株式会社
- 選定表彰：
関東農政局第4回
「ディスカバー農山漁村の宝」
ジャパン・グレートビア・アワーズ2019
- 主力商品・イベント：クラフトビール、農泊
- 活用している地域資源：農林水産物、廃校
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金
(農泊推進対策)、都市農村共生・対流総合対策交付金

取組の概要

- 地域住民や移住者、首都圏大学生と連携して地域活性団体を設立。町が廃校を改修した「道の駅 保田小学校」を拠点として子ども農山村交流など多様な交流機会を創出。
- 株式会社後、地域の農業・加工・観光団体と連携して「鋸南町農泊推進協議会」を設立。交流や移住・定住促進のほか雇用を創出。インバウンドも増加。
- 地元素材を副原料としたクラフトビールを開発。直販のほか、宿泊施設、飲食店などで販売。



道の駅 保田小学校



インバウンドの甲冑体験

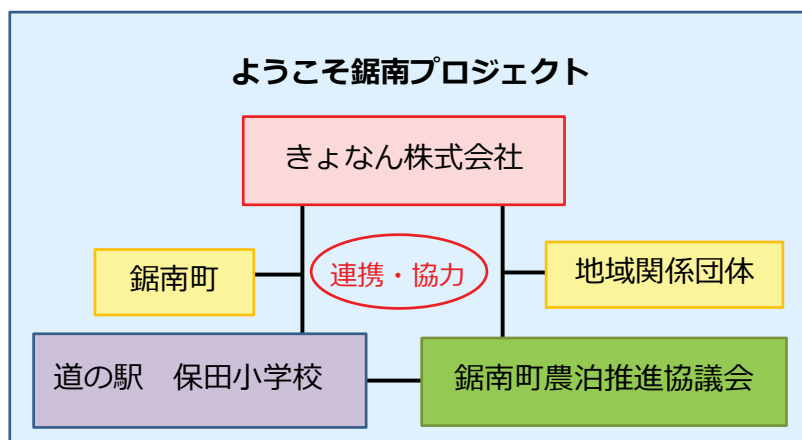


クラフトビール



イベントでPR

体制図



取組の成果

- 年間交流人口：857人（H26）→3,188人（H30）
- 協議会等売上（体験等）：約77万円（H27）→約190万円（H30）
- ビール販売金額：約1,600万円（R元年）
- 移住者のべ就労数：常勤2名、非常勤6名



ビール副原料の甘夏と米

所在地▶千葉県安房郡鋸南町吉浜517-1鋸南町観光物産センター内

連絡先▶TEL:0470-29-5454 FAX:0470-29-5455

E-mail:info@kyonanbeer.com

ウェブサイト▶<https://kyonanbeer.com/>

○ 多様な森林活用を組み込んだ新しい森林経営を実践。 【森林サービス産業】



キーワード

内発的

企業

森林体験

基本情報

- 所在地：神奈川県小田原市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：(株)T-FORESTRY（山林150haを所有し経営を行う辻村家が設立）
- 選定表彰：－
- 主力商品・イベント：フォレストアドベンチャー
フォレストバイク
- 活用している地域資源：森林



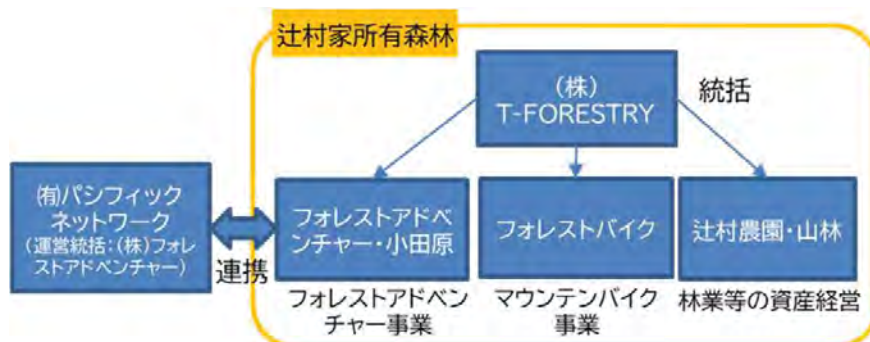
樹齢100年の杉

取組の概要

- 神奈川県小田原市の「辻村農園・山林」では、(株)T-Forestryを設立し、「森は悠久の産物、里山は地元の恵みの源泉」「今ある良い森を壊さない」との観点に基づき、多様な森林活用を組み込んだ新たな森林所有者の経営モデルを提示。
- 江戸時代からの森林経営の歩みを継承し、その地域の歴史を体感できる遺構の保存やウォーキングトレイル整備を実施。
- 近年は、所有森林内で樹上での冒険を楽しむ「フォレストアドベンチャー」や、マウンテンバイクによる「フォレストバイク」を導入。



体制図



取組の成果

- 株式会社T-FORESTRY：役員/社員10名、臨時雇用20名
- フォレストアドベンチャー・小田原来場者数：約25,000人／年
- フォレストバイク来場者数：約2,000人／年



所在地▶神奈川県小田原市荻窪4385

連絡先▶TEL:0465-22-2934

FAX：

E-mail:odawara@t-forestry.co.jp

ウェブサイト▶<https://fa-odawara.foret-aventure.jp/>

○ 女子サッカー選手など多様な人材による棚田保全、アートによる地域活性化、新たなライフスタイルの提案



キーワード

外部との連携

アスリート

農村

観光

スポーツ

芸術・文化

半農半×

基本情報

- 所在地：新潟県十日町市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構
- 選定表彰：
 - 第10回エコツーリズム大賞特別賞受賞(H27)
 - 第15回NIKS地域活性化大賞受賞(H30)
- 主力商品・イベント：大地の芸術祭、棚田オーナー制度「まつだい棚田バンク」
- 女子サッカーチーム「FC越後妻有」
- 活用している地域資源：棚田・農村集落
- 主な国等の支援策：中山間地域等直接支払交付金、農の雇用事業

取組の概要

- 「大地の芸術祭」のプロジェクトの1つとして、2003年「まつだい棚田バンク」を発足し、その後本格組織化。松代地域では、過疎高齢化による棚田放棄が深刻化していたため、芸術祭を通じて都市住民や企業など多様な人が棚田を保全する活動を開始。
- 2015年からは、耕作放棄地増加を見据え、新たな担い手として女子サッカー選手が農業をしながらプロリーグを目指すサッカーチーム「FC越後妻有」を発足。
- 2020年からは、鹿島建設株式会社と十日町市や新潟県などが中心となり複数メーカーと連携して行うスマート農業実証プロジェクトに参加。



芸術祭のアートがある風景



FC選手が田植えイベントに参加

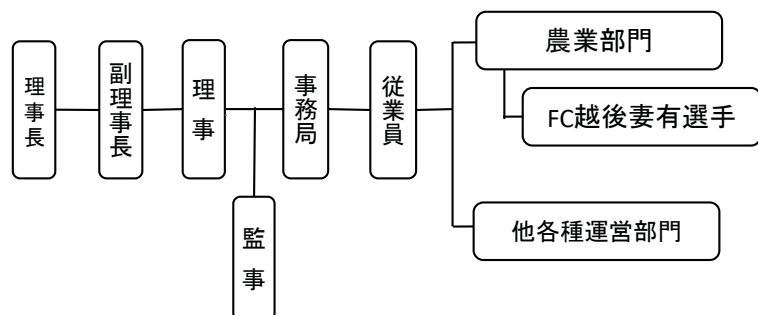


FC選手の日頃の練習風景



ドローンを活用したスマート農業

体制図



取組の成果

- 「大地の芸術祭」は、本祭としてH12年から3年ごとにトリエンナーレを開催、期間中の来場者数約55万人(H30)。通年で企画展やイベントを開催し、関係人口を拡大。
- 「まつだい棚田バンク」は、棚田オーナー制度の中で保全面積、会員数共に日本一(H28年)。R2年度現在、保全面積は7.6ha、会員数は350口。
- 「FC越後妻有」は、地方における農業の若者の担い手不足と、都市部でのスポーツ職雇用の厳しさに対し、解決策となる新しいライフスタイルを提案。
- スマート農業実証プロジェクトは、若い担い手間での農業イメージを改善、作業時間を軽減。

所在地 ▶ 十日町市松代3743-1

連絡先 ▶ TEL : 025-595-6180 FAX : 025-595-6181

E-mail: info@tsumari-artfield.com

ウェブサイト ▶ http://www.echigo-tsumari.jp/activity/tanada_owner

○ 若手異業種の経営者と農家がそれぞれの経営資源を連携、お互いの課題解決を図ることによる地域振興。



キーワード

外部との連携

若者

食品

6次産業化

企業連携

基本情報

- 所在地：新潟県阿賀野市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：あがの衆
- 選定表彰：「ディスカバー農山漁村の宝」第7回全国選定
- 主力商品・イベント：「あがの姫牛」、野菜ブランド「はたけの座」、「飲食店への生産者見学ツアー」、「あがの風土キャラバン」
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- 異業種の若手経営者4名が連携し、H28年に「あがの衆」を設立。ブランド牛の開発に着手。
- 廃棄ビール粕を発酵技術で牛の飼料に加工し、当該飼料を牛に与えることで餌代を削減。こうして生産した「あがの姫牛」のPRのため、生産者見学ツアーなどを企画・広報。
- 10軒の若手農家と連携し、野菜ブランド「はたけの座」を立ち上げ。



食の匠集団「あがの衆」集合！



「はたけの座」誕生

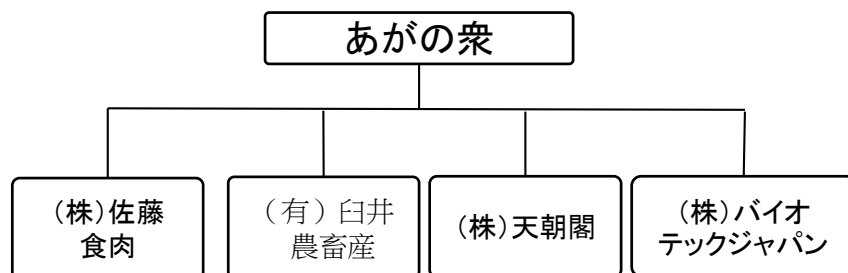


飲食店への生産者見学ツアー



あがの風土キャラバン

体制図



取組の成果

- 「あがの姫牛」の売上は、0.5億円から約1.5億円に増加（H28～H30）。
- 市内の農家や食に関わる20名で発足した「あがの風土キャラバン」と連携し、「あがの姫牛」を使用したBBQイベント、消費者とのふれあいが定着。

所在地▶新潟県阿賀野市山倉1912-1

連絡先▶TEL:0250-63-8086 E-mail:hirokuni.satou@sato-shokuniku.com

ウェブサイト▶<http://aganohimeushi.com/>

- 「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」（平成19年発足）を推進し、再びトキと共生する自然環境を田んぼを中心に作るとともに、佐渡米のブランド化を推進。



キーワード

内発的

トキ

生物多様性

基本情報

- 所在地：新潟県佐渡市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会
- 選定表彰：「ディスカバー農山漁村の宝」北陸農政局選定（H30年）
- 主力商品・イベント：「朱鷺と暮らす郷」認証米・田んぼアート
- 活用している地域資源：トキ
- 主な国等の支援策：
 - 食と地域の交流促進対策交付金（平成23～24年度）
 - 生物多様性保全推進交付金（平成25～27年度）

取組の概要

- 農家自らが「生きものを育む農法」を推進し、安心・安全な米づくりに取組む。
- 首都圏での情報発信活動や消費者との交流により、販路を拡大。
- 田んぼ自体の愛着醸成と賑わうほ場に向け、田んぼアートを実施。



着実に進むトキの野生定着

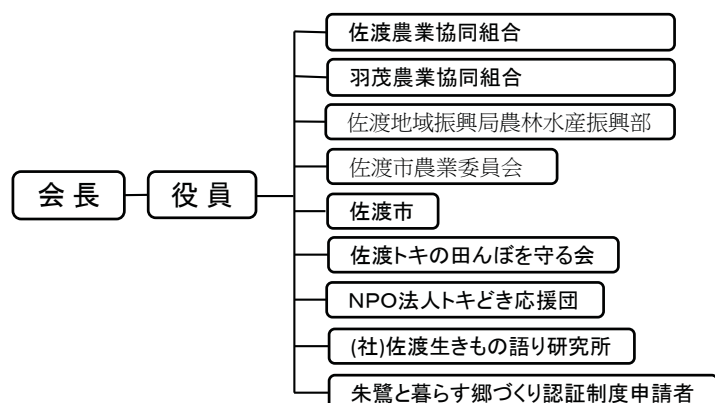


生きものの調査



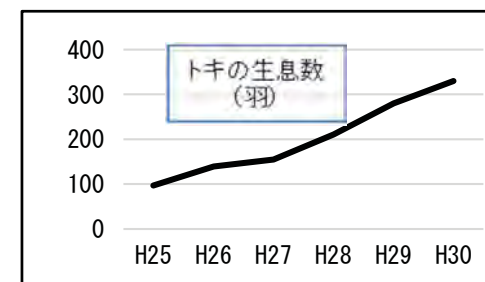
田んぼアート

体制図



取組の成果

- 生物多様性豊かな田んぼが拡大し、トキの野生復帰が進んだ。（トキの生息数約97羽（H25）→約330羽（H30））
- 佐渡市認証米「朱鷺と暮らす郷」の取扱店数。350店（H30）



所在地▶新潟県佐渡市千種232番地

連絡先▶TEL:0259-63-5117（佐渡市農業政策課内）

E-mail:u-satoyama@city.sado.niigata.jp

ウェブサイト▶http://www.toki-mai.jp/（朱鷺と暮らす郷公式HP）

- 地域資源を宝と捉え農業体験活動に取り組み、耕作放棄地など資源の有効利用、集落環境の改善、獣害対策、集落再生と地域活性化を目指す。



キーワード

内発的

地域おこし協力隊

都市農村交流

多面的機能支払

基本情報

- 所在地：新潟県新発田市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：上三光農村環境保全・清流の会
- 選定表彰：
 - ディスカバー農山漁村の宝第7回選定（個人部門）
 - 農村の多面的機能支払活動で局長賞(H30)
 - 獣害対策優良事例で農村振興局長賞(H31)
- 主力商品・イベント：農業体験交流
- 活用している地域資源：農地、野生鳥獣、ビオトープ
- 主な国等の支援策：農地・水保全管理支払交付金（現：多面的機能支払交付金）

取組の概要

- 農業体験交流活動やGISによる集落資源の情報共有と有効利用。
- 集落内外の多様な主体の協力の下、集落環境診断に基づく効果的なサル等の獣害対策。
- 都市住民を対象とした体験イベントや研修会、農地等の資源管理とその活用に取り組み、持続可能な集落づくりを実践。



GISを使って農地の管理



集落環境診断

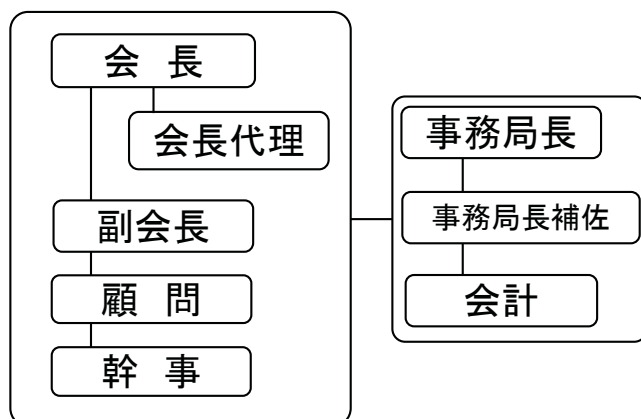


都市農村交流



集落環境が改善

体制図



取組の成果

- サル被害額が減少（約249万円（H27）→ 約164万円（H30））
- 体験交流型の獣害対策研修会を開催し、年間約50人の都市住民を受け入れ。
- 都市部から年間延べ約200人が参加、交流人口の増加で集落が活性化。

所在地▶新潟県新発田市上三光622

連絡先▶TEL:0254-25-2763 E-mail:takemata.p@gmail.com

ウェブサイト▶<https://ja-jp.facebook.com/kamisanko/>

【取組のプロセス】

鳥獣被害防止総合対策の活用

管理の行き届かない里山
や耕作放棄地の増加で野
生動物被害が拡大・農家
減少、少子高齢化で集落
の共助意識が低下

2011年～

きっかけ

○サルによる被害防止対策のため、集落に約20kmの電気柵を設置

集落の結束力の高まり
・電気柵の管理の必要性

2012年

上三光農村環境保全・清流の会を設立

○「持続可能な農村づくり」を目指し、地域資源の保全・活用、獣害対策の取組を開始

農地・水保管理支払
交付金（現：多面的機
能支払交付金）の活用

2012年～

農業体験交流の実施

○都市住民を受け入れ、田植え、稲刈り、青空レストラン、生き物調査等を実施を契機に、耕作放棄水田を
ビオトープに再生

・地域資源が使われてい
ない
・農村を知る機会や交流
が少ない

2013年～

GISによる集落の見える化

○農地の所有者、耕作者、用水路や電気柵の位置、耕作放棄地、集落の歴史、文化等の集落資源の情報を
GISで可視化し一元管理。住民間で情報の共有化が図られたことで、資源管理等の合意形成がスムーズ
になる。

体験交流型の獣害対策研修会の開催

○NPO、市、JA等と共同で、都市住民を対象に電気柵・イノシシ掘り起こし跡の見学、ジビエ試食といっ
た体験交流型の獣害対策研修会を開催

・集落資源の情報と体験
の共有による住民の集落
への関心の高まり
・サルの出没が減らない

2016年～

集落住民参加による環境診断結果による環境整備・体験交流活動

- NPO等の協力の下、住民総出で集落環境診断を実施し、被害等の要因等の問題を共有
- 従来対策の他に、山林の伐採・整備による緩衝帯の整備(約13ha)、荒廃農地の再生・共同管理(2ha)、
電気柵管理隊の結成等を実施し被害額が減少(2015年：約249万円→2018年：約164万円)
- 放置果樹対策としての柿酢づくり体験、農村環境を楽しむ憩いの場づくりに取り組み、サル等が近づき
にくい環境創出にも寄与。都市部から年間延べ約200人が体験交流活動に参加

・都市住民とのつながり
拡大

2017年～

地域おこし協力隊の導入

○農業体験を契機とした地域への移住者を地域おこし協力隊として受け入れ、体験交流をさらに充実

2020年～

地元大学や他団体との資源開発交流

- 敬和学園大学との交流を通して集落の資源開発を推進
- 花嫁プロジェクトの食用菊「花嫁」の栽培と活用

今後の
展望

体験と共有をテーマに持続可能な集落に

- 持続可能な農村をテーマとした資源活用と獣害に強いむらづくりの推進
- 都市農村交流や移住を促進するための新たな土地活用と交流拠点を整備



(青空レストラン)



(GISを使って農地の共同管理)



(環境診断)



(伐採等作業)



(上三光集落の住民)

○ 魚問屋が耕作放棄地を再生し農園レストランとワイナリーを開設するなど、地域活性化に取り組む。



キーワード

内発的

観光

6次産業化

ワイン

基本情報

- 所在地：富山県氷見市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：SAYS FARM
- 選定表彰：日本ワインコンクール金賞（H29）
- 主力商品・イベント：ワイン
- 活用している地域資源：農産物

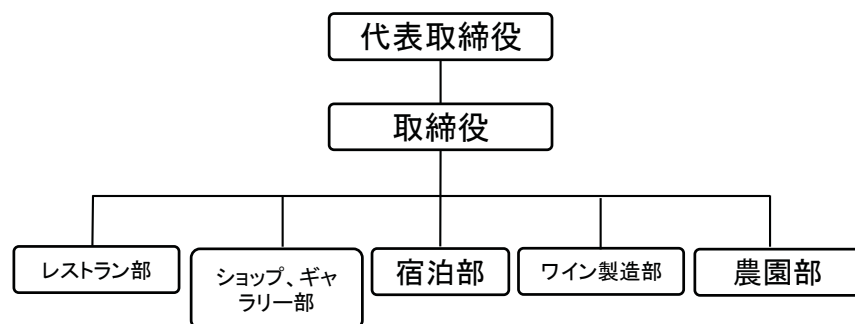
取組の概要

- 江戸時代から続く魚問屋「釣屋」が氷見の魚に合うワインを作りたいとスタート。（SAYS FARM設立（H19））
- 耕作放棄地を再生した約9haの農地にブドウ、桃、リンゴ、野菜、ハーブ等を栽培。ほかにヤギ・ニワトリを飼育。ぶどう畑での農作業体験を実施。
- 100%自社原料のブドウでワインを製造・販売。レストラン、ギャラリー、ゲストハウスを併設。
- レストランでは、農園で育てた野菜、果物と氷見の魚介を
- 中心とした料理を提供する地産地消に取り組む。氷見特産の
- 寒ブリによく合うロゼワインも生産。



販売しているワイン

体制図



取組の成果

- 日本で最も権威のある品評会日本ワインコンクールの欧州種系白ワイン部門で金賞受賞（H29）



ぶどう畑と収穫されたぶどう

所在地▶富山県氷見市余川字北山23

連絡先▶TEL:0766-72-8288 E-mail:info@saysfarm.com

ウェブサイト▶<https://www.saysfarm.com/>

○ 最終処分場の跡地の有効活用、廃棄物由来の再生エネルギーの有効活用によるトマト等の周年栽培、循環型農業の実践。



キーワード

内発的

異分野連携

エネルギー

基本情報

- 所在地：富山県富山市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社 富山環境整備
- 選定表彰：第15回農家・オブザイヤー 最高金賞（平成30年度）
- 主力商品・イベント：トマト、トルコキキョウ
- 活用している地域資源：廃棄物由来エネルギー
- 主な国等の支援策：次世代施設園芸導入 加速化支援事業（H26）

取組の概要

- 廃棄物から生み出されたエネルギーを有効活用し、トマトと花卉を中心とした周年栽培に取組むなど、循環型農業を実践。
- 高品質な農産物の安定供給と県内産業の振興・雇用創出に取組む。



トマト フルティカ栽培の様子

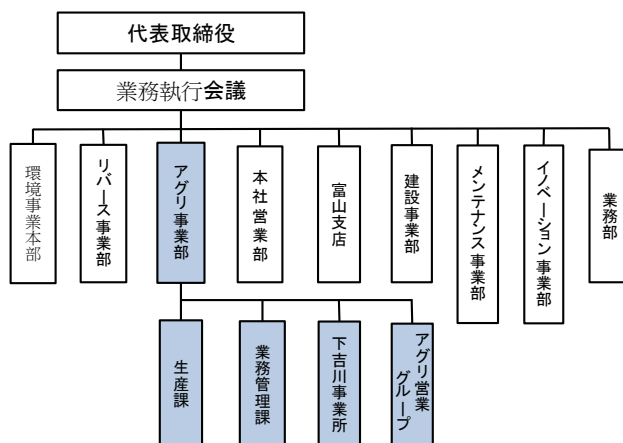


商品フォレストフルティカ



トルコギキョウ調整の様子

体制図



取組の成果

- 廃棄物から生み出されたエネルギー（電気、熱）をハウスへ供給し、冷暖房設備やLED照明に利用することでエネルギー使用経費削減。
- フルーツトマト、トルコキキョウ等の農作物栽培を開始、雇用者を80名増加(新規雇用)。
- 施設園芸拠点の整備に合わせ、施設見学者が、毎年1,000人。



ハウスでの見学者案内

所在地▶ 富山県富山市婦中町吉谷3-3

連絡先▶ TEL:076-469-5356 FAX : 076-469-5635

E-mail:yositani@tko-co.jp

ウェブサイト▶ <https://www.tks-co.jp/>

○SCOT（旧早稲田小劇場）が、利賀村を演劇拠点として活動を開始。以来、利賀村は、世界的演劇の聖地として有名になり、交流人口の拡大等、演劇が地域振興に貢献。



基本情報

- 所在地：富山県南砺市（旧利賀村）
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：劇団SCOT
富山県利賀芸術公園、南砺市、
南砺市商工会利賀村支部 他
- 主力商品・イベント：
演劇、芸術公園等
- 活用している地域資源：
利賀の自然、山村集落、農産物等

取組の概要

- 昭和51（1976）年、鈴木忠志氏が率いるSCOT（旧早稲田小劇場）が、利賀村を演劇活動の本拠地として活動開始。
- 世界演劇祭（利賀フェスティバル等）を昭和57（1982）年から開催し、令和元（2019）年には、日本とロシアとの共同開催となった「第9回シアター・オリンピックス」の日本側の主会場となり、16の国・地域の舞台芸術を上演。
- 2020年より、コロナ禍を踏まえ、自給的農業の取組を開始。劇団の「農業班」が中心的に担当し、住民の指導も受けつつ、ピーマン、セロリ、ナス、白菜、ブロッコリー等を栽培して収穫。地方を拠点とする劇団の新モデルとして新たな生活様式を発信。



野外劇場



利賀山房



上演風景

体制図

劇団の演劇活動と過疎対策事業が一体となった取組



取組の成果

- 演劇の取組が波及的に地域活性化に大きく貢献
 - ・ 交流人口の拡大 利賀芸術公園入園者数（年間）約3万人
旧利賀村一帯の観光客数（年間）約17万人
 - ・ 商工会と大学ゼミの共同プロジェクトによる学生等の来訪、民泊17軒増、移住者22人。※1
 - ・ 世界ブランドTOGAとしての発信が県民の誇りの醸成等にも寄与。

※1：2017年度 第15回オーライ！ニッポン大賞：南砺市商工会利賀村支部&慶応大生島ゼミ利賀プロジェクト

所在地▶富山県南砺市利賀村上百瀬70-2

連絡先▶TEL:0763-68-2356 E-mail:

ウェブサイト▶<https://www.scot-suzukicompany.com/>

- 耕作放棄地を積極的に再生して、環境にやさしい有機農業を通じて地域の雇用創出、食料自給率向上、食料安全保障への貢献を目指す。



キーワード

内発的

6次産業化

有機農業

基本情報

- 所在地：石川県金沢市及び鳳珠郡能登町
- 地域指定：平地農業地域及び中山間地域
- 団体名：(株)金沢大地・アジア農業(株)・金沢農業・(株)金沢ワイナリー
- 選定表彰：全国優良経営体表彰 個人経営体部門 農林水産大臣賞（平成25年度）、フード・アクション・ニッポン アワード プロダクト部門 優秀賞（H21年度）、「ディスカバー農山漁村の宝」第1回全国選定
- 主力商品：有機六条大麦茶、わたしのぬか床、有機しょうゆ、有機きな粉、有機純米酢
- 活用している地域資源：有機農作物、加工商品(みそ、ワイン等)
- 主な国等の支援策：耕作放棄地再生利用緊急対策交付金、食料産業・6次産業化交付金

取組の概要

- 河北潟干拓地及び奥能登地区で米、麦、大豆、蕎麦、野菜等を有機栽培し、日本最大規模の有機農業経営体。
- 6次化を推進し、伝統製法にこだわった調味料、納豆、スイーツ等、約80品目の加工商品を自社Webサイト及び全国の販売チャネルで継続販売。金澤町家を改修したワイナリーやフレンチ農家レストランを開設。



有機大豆圃場



耕作放棄地再生後、有機蕎麦の収穫

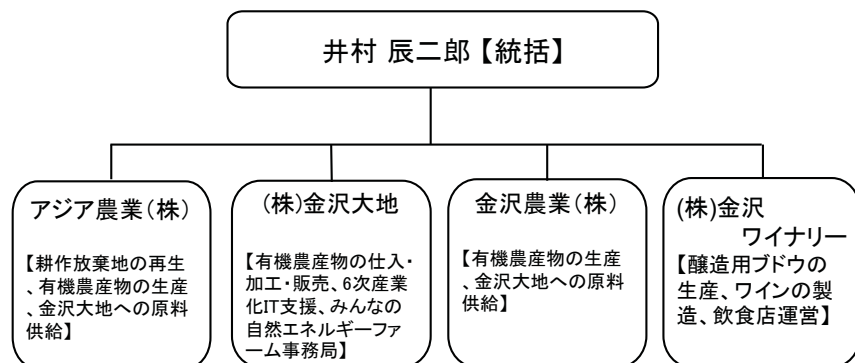


金澤町家を改修したワイン醸造所



フレンチ農家レストラン

体制図



取組の成果

- 経営面積は、就農時点45ha（H9）から、300ha（H30）に増加。
- ネットショップの売上げが8百万円（H20）から29百万円（H30）へ増加。
- 金澤町家を改修し、石川県産ブドウ100%のワインを醸造する都市型ワイナリーや自社及び地域農産物を提供する地産地消型フレンチ農家レストランを開設。



能登産原材料を活用した商品例

所在地▶石川県金沢市八田町東9番地

連絡先▶TEL:076-257-8818 FAX: 076-257-8817

E-mail:home@k-daichi.com

ウェブサイト▶https://www.k-daichi.com/

○ 遊休地を再生して行うブドウ栽培と、能登の新しい特産品となるワイン製造・販売。



キーワード

内発的

6次産業化

企業連携

ワイン

基本情報

- 所在地：石川県鳳珠郡穴水町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：能登ワイン株式会社
- 選定表彰：日本ワインコンクール 金賞（H25年度）
日本で飲む最高のワインコンクール
プラチナ賞（H26年度）
「ディスカバー農山漁村の宝」第6回全国選定
- 主力商品・イベント：能登ワイン
- 活用している地域資源：ブドウ畑・ワイナリー

取組の概要

- 平成12年、農業法人を含む4件の農家が遊休地において、新たにワイン専用ブドウ約20種類18haの栽培を開始。
- 平成16年、能登ワイン株式会社を設立。18年に約5万本のワインの製造・販売を開始。
- 地元小中学校の「社会学習」の一環として、ブドウ畑で収穫体験やワイナリーでワインの製造見学を実施。



ワイナリー周辺の自社畑

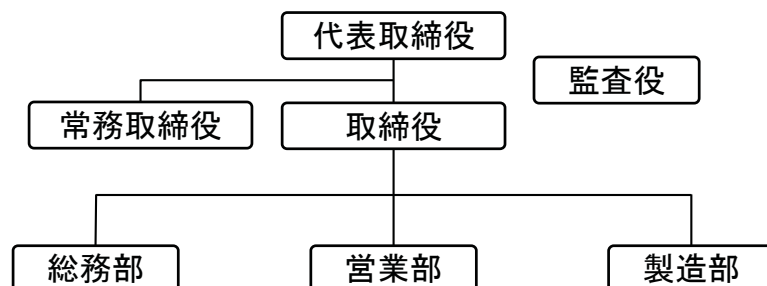


収穫体験会における参加者の収穫の様子



能登ワイン—商品ラインナップ

体制図



取組の成果

- ワインの売上は1.3億円から1.9億円に増加（H26～H30）。
- 日本で最も権威のある品評会「日本ワインコンクール」で金賞受賞の他11年連続で入賞。
- 地元の観光業者と連携し「能登周遊ツアー」の誘致により、年間来場者数は2.7万人から約5万人に増加（H26～H30）。



社会学習のブドウ収穫体験

所在地▶石川県鳳珠郡穴水町字旭ヶ丘5番1

連絡先▶TEL:0768-58-1577 E-mail:info@notowine.co.jp

ウェブサイト▶<https://notowine.com/>

○ 農業（ナシ・ブドウ栽培と農産物等の販売）に特化した就労継続B型事業とした農福連携の取組。



キーワード

内発的

農福

6次産業化

梨ジュース

基本情報

- 所在地：福井県あわら市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：NPO法人ピアファーム
あわら市認定農業者(H23.9.25)
ASIAGAP認証 (R2.2.23)
- 選定表彰：第6回耕作放棄地発生防止・解消表彰
事業・全国農業新聞賞(H26.5.27)
第16回ヤマト福祉財団小倉昌男賞
「デイカバ」農山漁村の宝」第4回全国選定
- 主力商品・イベント：梨、ナシジュースぶどう、
ブドウジュース
- 活用している地域資源：果樹園

取組の概要

- 高齢化で担い手不足のナシ農園を引き受けて耕作放棄地を再生。ブドウ及び野菜の栽培を開始。現在の耕作面積は7,1haで次年度以降も増えていく予定。
- ASIAGAP認証を取得して、安全な農産物生産、環境に配慮した農業、生産者の安全確保と事故防止を実施。
- 梨ジュースを製造販売（H28）するほか、ゼリーやジャムなどの加工も実施。
- 観光農業公園として「癒しの果樹園あわらベルジェ観光ブドウ園」を開設、4,600人の来苑者や修学旅行の生徒も受入れ。
- 市内外の農業者180戸が出荷する地産地消を推進する農産物直売所3か所の設置、地域に愛されるスーパー(お店)を展開。



ナシの栽培、収穫作業をするメンバー

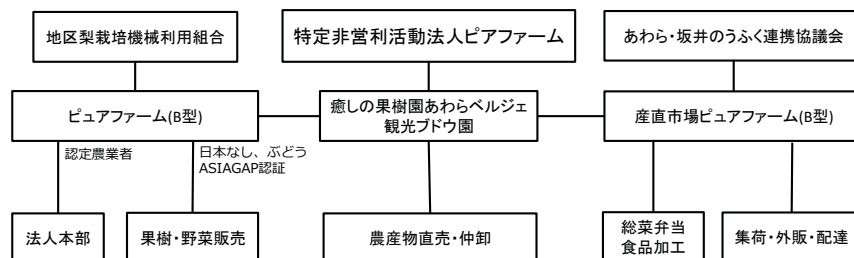


観光ブドウ園で子どもたちの収穫体験



耕作放棄地の開墾作業

体制図



取組の成果

- 生食ブドウについては、22品種を栽培。年間90日以上の出荷。
- 梨とぶどうのジュースは、H28年以降、毎年約1,000本～1,500本を販売、ふるさと納税の返礼品として好評。
- 平均事業収入は、栽培と販売を合わせて年間1億3千万円程度。



6次化、ナシジュース



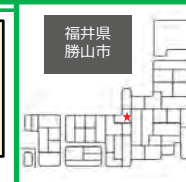
直売所店内で働くメンバー

所在地▶福井県あわら市二面45-19-1

連絡先▶TEL:0776-77-2930 FAX : 0776-77-2931 E-mail:info@peerfarm.jp

ウェブサイト▶http://peerfarm.jp/

○小原集落を拠点とし、都市住民との交流による地域活性化、自然資源の保全・保護等の取組。



キーワード

外部との連携

農泊

環境保全

棚田

古民家

基本情報

- 所在地：福井県勝山市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：小原ECOプロジェクト
- 選定表彰：オーライ！ニッポン大賞（H24年度）

ふるさとづくり大賞（H27年度）

地域再生大賞

「ディスカバー農山漁村の宝」第7回全国選定

- 主力商品・イベント：エコツアー
- 活用している地域資源：農村景観

取組の概要

- 小原集落を拠点とし、都市住民との交流による地域活性化、自然資源の保全・保護等を目的に活動。
- 明治時代以降に建築された県内唯一の建築様式を取り入れた古民家を福井工業大学の学生と協力して修復。



福井工大生による伝統的古民家の修復再生活動



国際ワークボランティアの棚田保全・農作業支援



希少種ミチノクフクジュソウ保全活動

体制図



取組の成果

- 過去5年間、毎年1,300人以上（令和元年度：1,350人）が地域に来訪しており、エコツアーには毎年300人以上（令和元年度：320人）が参加。
- 地域に生息する絶滅危惧種のミチノクフクジュソウの保全活動に、NPO関係者や小学生など毎年130人以上が参加。

所在地▶福井県勝山市北谷町小原 3 3 - 8

連絡先▶ TEL:080-6359-5127 FAX: 0779-88-1517

E-mail:ohara-eco@nifty.com

ウェブサイト▶<https://www.ohara-eco.com/>

- 平成18年、山梨県全域の歴史的景観・建物の消失回避を目的にNPO法人を設立、調査を実施。活動を通して「上条集落」に出会い、保全活動を開始。現在、古民家の利活用による農泊施設を運営。



キーワード

内発的

地域住民

農泊

都市農村交流

郷土食

インバウンド

基本情報

- 所在地：山梨県甲州市塩山
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：特定非営利活動法人
山梨家並保存会
- 選定表彰：美しい県土づくり大賞（H25年）
- 主力商品・イベント：農泊、郷土食づくり体験
- 活用している地域資源：郷土食、古民家、自然景観
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）



取組の概要

- 平成27年、上条集落は文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、見学客が増加。平成21年より整備してきた古民家2棟を活用し、宿泊者の受入れを平成29年より開始。インバウンド旅行者も増加し、外部との交流促進。
- 収穫体験等のイベントに加え、地域食材を活用した郷土食「ほうとう」づくりメニューを開発。伝統食文化や地産地消の啓発。
- 地域企業と連携したモニターツアーなどにより、地域経済の循環。



インバウンド宿泊体験

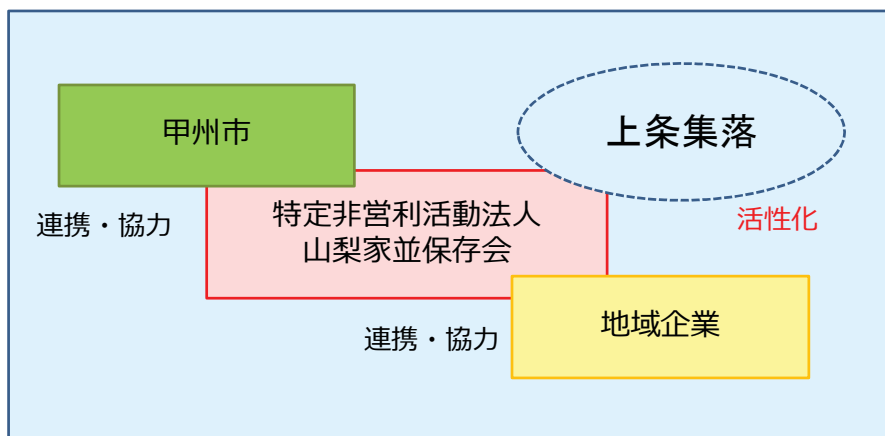


ほうとうづくり体験



姉妹都市訪問団と集落住民の交流

体制図



取組の成果

- 農泊施設(宿泊)売上：約140万円（H30）
- 農泊施設宿泊者数：226人（H30）
- 食体験プログラム利用者数：170人（H30）
- 農泊施設見学者数：897人（H30）



所在地▶山梨県甲州市塩山上於曾（本部）、甲州市塩山下小田原（農泊施設）

連絡先▶TEL:0553-32-4748 FAX:0553-32-2171

E-mail:ienamihozonnkai@gmail.com

ウェブサイト▶<https://koushu-minka.jp/npo/>

- 平成16年、協議会を設立し棚田保全や耕作放棄地再生を開始。その後企業とのCSR協定に基づく活動を開始し、都市住民との交流が促進。平成30年には市営複合施設の管理者に指定され、売上と雇用創出に貢献。



キーワード

外部との連携

企業

学生

都市農村交流

教育

CSR

基本情報

- 所在地：山梨県甲府市上帯那町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：帯那地域活性化推進協議会
- 選定表彰：
「豊かなむらづくり表彰事業」関東農政局長賞（H24年度）
- 主力商品・イベント：棚田米、各種農業体験イベント
- 活用している地域資源：農地（棚田）、農林水産物
- 主な国等の支援策：
「多面的機能支払交付金」
「農地環境整備事業 帯那棚田の里地区」

取組の概要

- 平成23年、大手コンビニエンスストア本社との「企業の農園造りに関する包括協定」により、耕作放棄地の再生、棚田保全等の取組が加速化、都市住民との交流促進。
- 甲府市より、複合宿泊施設「創作の森おびな」の管理者に指定、子どもプロジェクトや都市住民、大学等との宿泊滞在型企画を拡充。施設利用料（売上）の向上や雇用の創設に貢献。
- 耕作放棄地再生農地で収穫祭等のイベントを開催し、幼稚園や小学校、都市住民等との農業体験・食農教育を実施。また、拓殖大学との交流事業により、海外からの留学生に棚田での田植え等を体験してもらい、日本の農業、農村の文化を世界に発信。



菜の花摘取り体験



じゃがいも収穫体験

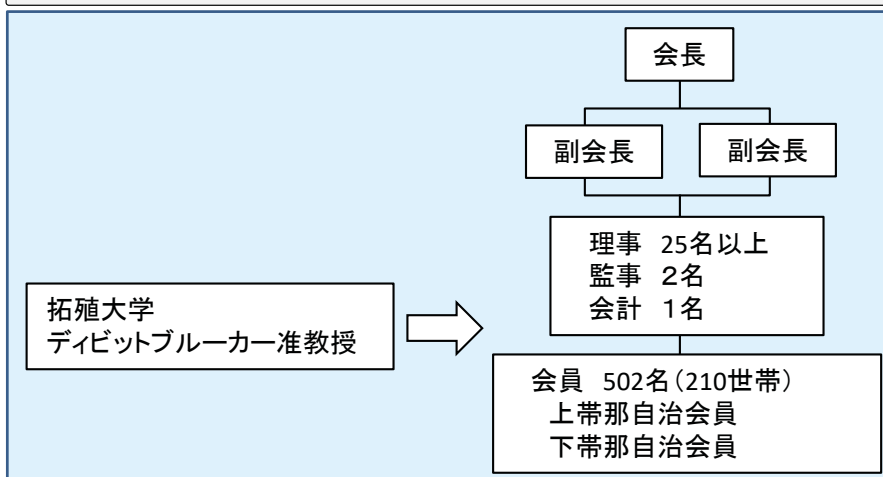


コンビニ本社職員の活動



拓殖大留学生との交流

体制図



取組の成果

- 各種イベント交流人口：710人（H26）→870人（H30（留学生含））
- CSR協定による参加数：200人（H30）
- 創作の森おびな利用料金（売上）：140万円（H30）
- 創作の森おびな交流人口：1,117人（H30）

所在地▶山梨県甲府市上帯那町

連絡先▶E-mail:info@obina.jp

ウェブサイト▶http://obina.jp/

○ 森林セラピーを核にした「癒しの森事業」の展開と協定締結による企業誘致・受入。 【森林サービス産業】



キーワード

内発的

町民有志

森林セラピー

基本情報

- 所在地：長野県信濃町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：信濃町、
しなの町Woods-Life Community
- 主力商品・イベント：
森林セラピー
森林メディカルトレーナー認定制度
癒しの森の宿（認定）
- 活用している地域資源：
森林



取組の概要

- 長野県信濃町では、合併しないまちづくりを選択する中で、地域グループが主体となって「癒しの森」事業を提案。町独自で「森林メディカルトレーナー」と「癒しの森の宿」の育成・認定等を行い、地域の民間のガイドと宿泊施設を主体化。
- 事業化段階の初動期には地域住民向けの健康講座を通して体験プログラムの上質化・ガイドのスキルアップを図り、その後、企業との協定締結を促進し、社員研修・福利厚生等で年間4,000泊を超える需要を創出（現在では35の企業等と協定を締結）。

森ヨガ



アロマ



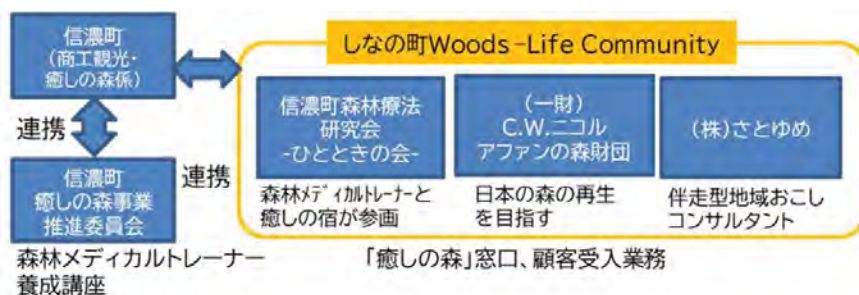
マクロビ弁当



森の中の癒しの空間



体制図



取組の成果

- 森林メディカルトレーナー：講座受講・認定数180人、登録数：16名
- 癒しの森の宿認定数：延べ30軒（2019年度現在14軒）
- 提携企業数：35社
- 宿泊者数：4,000人／年、森林セラピー利用者：6,000人／年
- 地域への経済波及効果：
直接効果約2億1,890万円/5年間・総合効果3億972万円/5年間

所在地 ▶ 長野県上水内郡信濃町大字大井2742-2041

連絡先 ▶ TEL:0465-22-2934 FAX :

E-mail: odawara@t-forestry.co.jp

ウェブサイト ▶ <https://fa-odawara.foret-aventure.jp/>

○昭和48年、有限会社を設立。平成27年、飛騨えごま本舗を開設。「飛騨えごま」の栽培農家の増加と栽培面積の拡大を行いブランド化を図るため、えごま搾油所の開設と自社栽培を行うとともに、障がい者や高齢者の雇用にも貢献。



キーワード

内発的

障がい者

6次産業化

農福

都市農村交流

都市農村交流

えごま

基本情報

- 所在地：岐阜県高山市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：有限会社萬里 飛騨えごま本舗
- 選定表彰：
 - H29「メイド・バイ飛騨高山」認定
 - H29、H30、R1、R2「食の3重丸」認定
 - R1「東海農政局ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：飛騨生搾りえごま油、飛騨えごま実・えごま栽培体験
- 活用している地域資源：農林水産物（えごま）

取組の概要

- 飛騨の伝統食である「飛騨えごま」を全国ブランドとして展開し、完全受注生産により新鮮な搾りたてえごま油を提供。
- 飛騨全域の飛騨えごま栽培農家・面積の増加を目指す「飛騨えごまバレー構想」で地域活性化に取り組む。
- 福祉施設と連携し、障がい者の収入増と高齢者の活躍など地域活性化に寄与。



方言で「あぶらえ」と呼び、親しまれる飛騨えごま

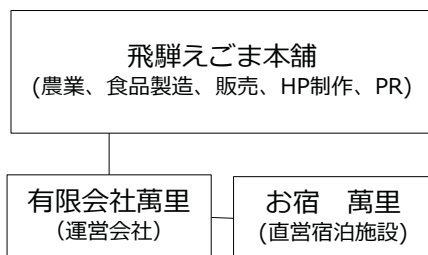


飛騨高山で唯一、HACCP導入認定の搾油所



障害者との連携

体制図



飛騨生搾りえごま油と飛騨えごま実

取組の成果

- 飛騨えごま商品の売上は、約170万円から約2,400万円に増加（H27～R1）。
- 取引するえごま栽培農家は、4軒から90軒に増加（H27～R1）、飛騨えごまの取扱量も190kgから2,400kgに増加（H27～R1）。



所在地 ▶ 岐阜県高山市石浦町7-586

連絡先 ▶ TEL:0577-57-7801 FAX : 0577-57-7802

E-mail: info@hidaegoma.jp

ウェブサイト ▶ <https://hidaegoma.jp/>

- 平成23年に株式会社D A I が設立した就労継続支援 A 型事業所。平成28年からサトイモ農業者の組合に加入し、岐阜県特産の「円空里芋」を生産。また、組合員から手間のかかる調整作業を受託し、安定的な工賃を確保。



キーワード

外部との連携

障がい者

農福

円空里芋

基本情報

- 所在地：岐阜県関市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：株式会社D A I
- 主力商品・イベント：円空里芋、黒にんにく、美濃蜜芋（干し芋、焼き芋）・感謝祭、農業祭、各種イベントやお祭りに出店
- 活用している地域資源：農林水産物（サトイモ、ニンニク、サツマイモ、タマネギなど）

取組の概要

- 約1haの農地において、ニンニク、サツマイモ、タマネギなどを生産。にんにくは黒にんにく、さつまいもは干し芋や焼き芋に加工。
- サトイモ農業者の組合員から岐阜県特産品「円空里芋」の収穫作業、毛羽取り、選別作業を請負。
- 関市内の農業者から借りた圃場30aで、自社でもサトイモの栽培を実施。



円空里芋の収穫作業



調整作業（規格選別）



委託農家との撮影

体制図

株式会社D A I
(生産管理、農業部、委託請負部)

就労継続支援 A 型事業所
「それいゆ」

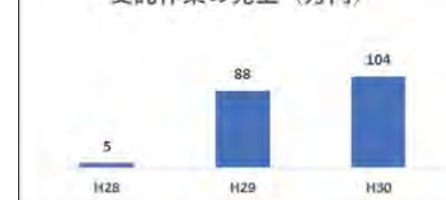


美濃蜜芋（干し芋）

取組の成果

- 丁寧な作業が信頼を得て、受託作業の売上は、5万円から104万円に増加（H28～H30）。
- 障害者の平均賃金は約88,000/月（H30）と、岐阜県内A型事業所の平均を上回る。

受託作業の売上（万円）



所在地▶岐阜県関市平和通3丁目12番地

連絡先▶TEL:0575-23-1101 FAX:0575-23-1166

E-mail:dai-farm.non@biscuit.ocn.ne.jp

ウェブサイト▶<https://www.dai2011.com/>

- 平成18年に設立し、森林再生や人口減少対策といった地域の諸課題解決の向けて、地域環境の保全を担う森林管理部門と、地域の魅力発信を担う観光振興部門に区分した体制で各種活動に取り組む。



キーワード

内発的

ボランティア

都市農村交流

農泊

移住・定住

古民家

基本情報

- 所在地：岐阜県恵那市
- 地域指定：山間農業地域
- 団体名：NPO法人奥矢作森林塾
- 選定表彰：
 - H25「全国過疎地域自立促進連盟会長賞」
 - H30「ふるさとづくり大賞」
 - R1「全国林業経営推奨行事林野庁長官賞」
- 主力商品・イベント：体験プログラム（林業体験、カヌー体験、五平餅づくりなど）・リフォーム塾
- 活用している地域資源：里山、木質資源、古民家
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）・（山村活性化対策）

取組の概要

- 移住希望者が購入・賃借した空き屋を、地元大工の指導のもと古民家リフォーム塾参加者やボランティアが改修。
- 移住後は、就農・就労のほか、田舎暮らしを支援するとともに、地域の山林再生に取り組む。



古民家リフォーム塾：床の張替え作業

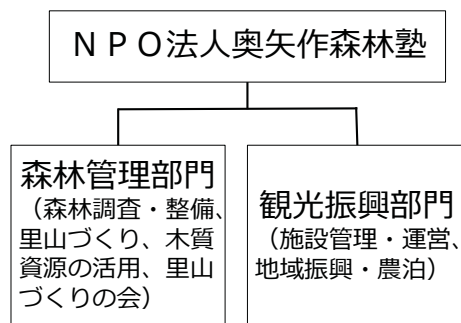


古民家リフォーム塾：第1号物件「田舎暮らし体験館結の炭家」



里山づくり活動：施業技術講習会の様子

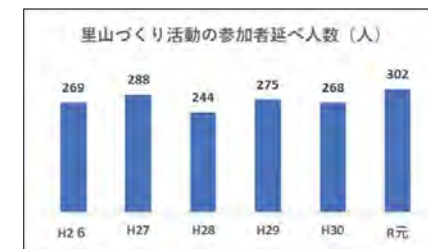
体制図



交流イベント：カヌー体験

取組の成果

- 28軒の空き家を改修し、70名の移住者を迎え入れ（H23-R1）。
- H26からの里山づくり活動により、新たに約300人の雇用を創出（R1）。
- その結果、約57haの森林整備を実施。



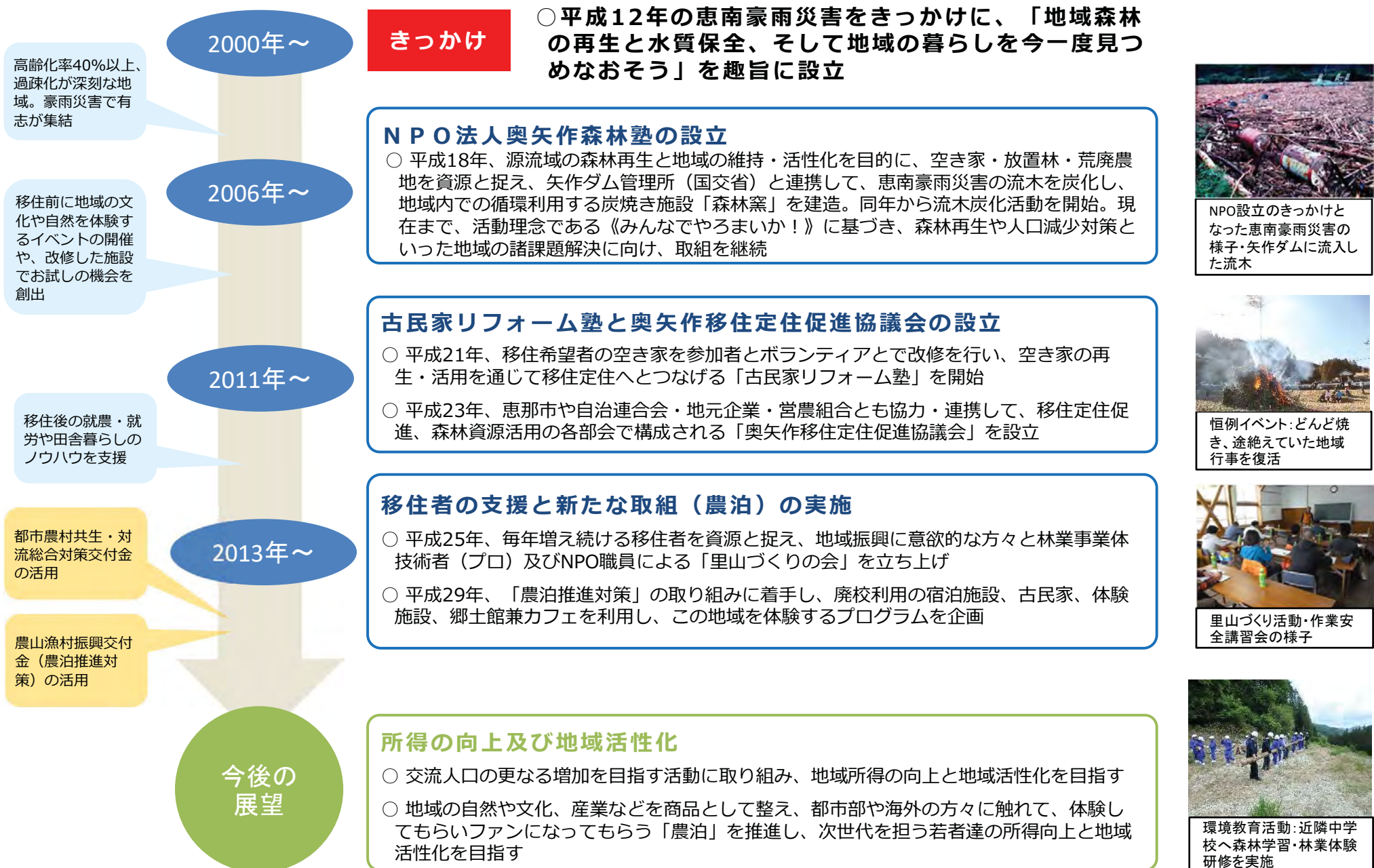
所在地▶岐阜県恵那市串原1149-2

連絡先▶TEL:0573-52-2808 FAX:0573-52-2808

E-mail:info@shinrinj.enat.jp

ウェブサイト▶<https://okuyahagi-shinrinjuku.com/>

【取組のプロセス】



- 平成27年設立の飛驒市が出資する第三セクター、通称「ヒダクマ」。これまで向き合っていなかった広葉樹を地域資源として安定かつ継続的にその価値を高め、商品として加工、流通。また、飛驒の匠の技を歴史・文化として発信。



キーワード

内発的

企業

都市農村交流

教育

デザイン

基本情報

- 所在地：岐阜県飛驒市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：株式会社飛驒の森でクマは踊る
- 選定表彰：
H27「東海農政局ディスカバー農山漁村（むら）の宝」選定
- 主力商品・イベント：広葉樹・体験ツアー
- 活用している地域資源：農林水産物（木材）
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

取組の概要

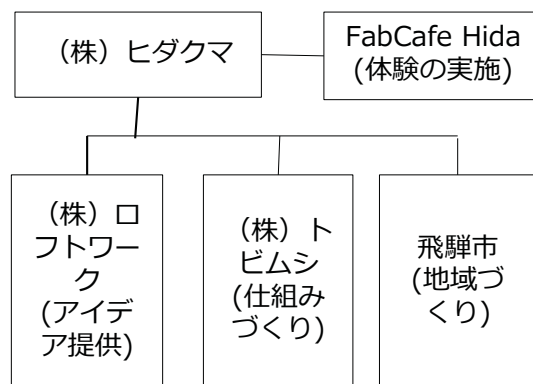
- チップにしかならず安価で飛驒市外に流出していた小径の広葉樹を、民間企業が有するデザインやクリエイティブの力で斬新な家具、什器、内装材等の商品を開発し販売。また、そうした取り組みを国内外に向けて積極的に発信。
- これまで地域になかった森林・木材に関する体験ツアーを企画・実施。また、海外の建築家を目指す学生等に学びの場を提供。

企業による木材関係
商品開発合宿

木工体験ワークショップ

海外大学のものづくり合宿
（インバウンド）

体制図

チップになる小径広葉樹から
作ったスツール

取組の成果

- 木製品等の売上は約430万円から約9,300万円（H27～R1）に増加。
- これまでに開催した体験プログラムの参加者は延べ約3,000人。宿泊者は延べ約1,000人。海外からはこれまでに約15か国、延べ約300人が滞在。

木製品等売上高（千円）



所在地▶岐阜県飛驒市古川町式之町6-17

連絡先▶TEL:0577-57-7686 FAX: 0577-57-7687

E-mail:info@hidakuma.com

ウェブサイト▶https://hidakuma.com

- 平成17年、下呂市合併後も地域の取り組みを継承するため任意組織を設立。平成元年に一般社団法人化。集落の野外を博物館に見立てた「里山ミュージアム」、馬瀬川の伝統魚法の観光ツアー化等に取り組み、名産の「鮎」を活かしたイベント開催、加工品開発など、地域の食としての魅力を引き出し。



キーワード

内発的

観光協会

都市農村交流

農泊

移住・定住

基本情報

- 所在地：岐阜県下呂市
- 地域指定：山間農業地域
- 団体名：一般社団法人馬瀬地方自然公園づくり協議会
- 選定表彰：
 - H19「立ち上がる農山漁村」認定
 - H20「平成の名水100選」、「第4回美の里づくりコンクール」農村振興局長賞
 - H24「グリーンツーリズム商品コンテスト2012」優秀賞
 - H27「第2回ディスカバー農山漁村の宝」選定
 - H28「SAVOR JAPAN」認定
- 主力商品・イベント：馬瀬川上流鮎、水源米馬瀬ひかり・ウォーキング、体験ツアー
- 活用している地域資源：農林水産物（米・鮎）、農村環境（自然・景観）
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- 地域食材のブランド強化のため、馬瀬地域産品認定制度を創設し販売拡大、地域を活かした食の提供（馬瀬川上流鮎、水源米馬瀬ひかり、馬瀬鮎ドリア等）。
- 景観を活かした体験プログラム開発、ガイドツアーの造成（五平餅づくり体験、レンタサイクル里旅体験、ウォーキングイベント等）。
- （一社）下呂温泉観光協会と連携し観光客やインバウンドの誘致、メディアに対する情報発信。



里山ミュージアム



馬瀬川上流鮎

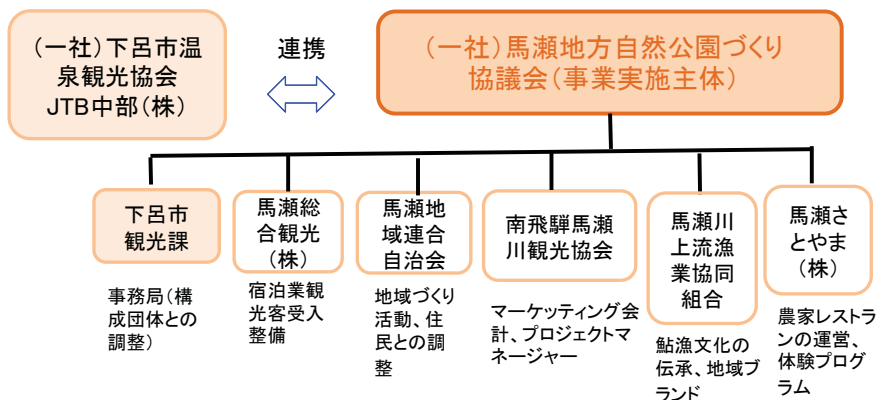


火ぶり鮎



紅葉巡りツアー

体制図



取組の成果

- 馬瀬地域の日帰り及び宿泊による観光消費額が13%増加（H28年1.2億円→R1年1.3億円）。
- H28年からR元年までの間の馬瀬地域における観光関連企業等への採用者は8名で、すべて定住者。



所在地▶岐阜県下呂市馬瀬名丸406下呂市役所 馬瀬振興事務所

連絡先▶TEL:0576-47-2111 FAX:0576-47-2621

E-mail:info@mazekanko.jp

ウェブサイト▶http://www.maze-shizenkouen.jp/index.php

【取組のプロセス】

自然生態系（馬瀬エコリバーシステム）の保全に取り組む

1995年～

きっかけ

○ 過疎化対策として、豊かな自然環境、美しい農村風景などの地域資源を活用し、人と自然が共生した地域づくりを開始

地域活性化を図るため、地域の自然生態系を保全し、地域住民、行政等が一体となった取組が実現

1996年～

馬瀬地方自然公園と委員会の設立

- 平成9～13年、農林業と観光の調和を図るフランスの「地方自然公園制度」を視察
- 平成16年、下呂市への合併後も馬瀬地域の取り組みを継承するため「馬瀬地方自然公園」を設立
- 平成17年、馬瀬地方自然公園づくりを推進するため住民有志で「馬瀬地方自然公園づくり委員会」を設立

食と地域の交流促進対策交付金の活用

2009年～

地域資源の観光化と味の景勝地モデル地区づくり

- 平成21年、特産品や郷土料理を活用した観光メニューを作成。また、所得向上のため、ブランド化を推進する収益性の高い流通体制（ネット通販）を確立
- 平成26年、商品のブランド化を推進するため、地域産品認証制度を創設。また、インバウンド誘致の体制づくりを推進

都市農村共生・対流総合対策交付金の活用

2016年～

着地型観光の推進

- 平成28年、観光地域づくり事業体（DMC）「馬瀬さとやま株式会社」を設立し、本格的なビジネス化を開始
- 平成29年、「農泊推進対策」の取り組みに着手し、食や景観を活かした滞在型観光の推進、インバウンド客の誘致、また、令和元年度に組織体制強化のため一般社団法人化

特産（馬瀬川上流鮎・水源米馬瀬ひかり）をブランド化

農山漁村振興交付金（農泊推進対策）の活用

今後の展望

持続可能な地域づくり

- 景観保全活動、地域の食の魅力向上、着地型観光のあり方を改善し、持続可能な地域づくりに取り組む
- 元年度5カ年計画（テーマ：関係人口の確保）を作成し、定住人口の確保を開始。「安全安心で居心地のよい馬瀬地域」を目指す



集落の景観整備：水仙の球根植え



地域ブランド化認定商品【水源米馬瀬ひかり】



着地型体験 郷土食である五平餅作り体験



外国人客対象バイクツアー

- 平成23年、伊豆市による公営ジビエ食肉加工施設「イズシカ問屋」を開設、有害鳥獣の食肉利用を開始。ジビエを市の新たな地域ブランドとして創出、地域の活性化を推進。



キーワード

内発的

猟友会

ジビエ

教育

ソーシャルビジネス

基本情報

- 所在地：静岡県伊豆市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：伊豆市役所
- 選定表彰：第7回「ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：「イズシカ肉」「イズシシ肉」（ジビエ）
- 活用している地域資源：野生鳥獣（ニホンジカ、イノシシ）
- 主な国等の支援策：鳥獣被害防止総合対策交付金

取組の概要

- 市内のシカ、イノシシによる農作物被害は年間1億円を超え、市では猟友会と連携して捕獲してきたが、「食べて守る」を理念として「イズシカ問屋」を設立。「イズシカ」を市の新たな特産として販売開始。
- 地元高等学校の部活動へ積極的に支援し、イズシカを活用したメニューを開発。また、小中学校への出前授業など、若年層への啓蒙・PR活動。
- 捕獲頭数、イズシカ取扱い販売店は年々増加、猟師への報酬など地域活性化に貢献。



イズシカ肉

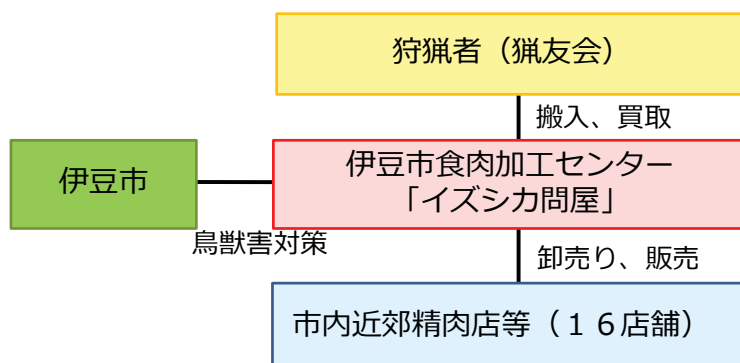


イズシカ問屋と作業員



イベントでイズシカをPR

体制図



取組の成果

- 売上：400万円（H23）→2,600万円（R元）
- 販売店：4店舗（H23）→16店舗（R元）
- シカ・イノシシ搬入頭数：980頭（R元）



イズシカ問屋シンボルマーク

所在地▶静岡県伊豆市小立野24-1（伊豆市役所産業部農林水産課）

連絡先▶TEL:0558-72-9895 FAX:0558-72-9909

E-mail:nousui@city.izu.shizuoka.jp

ウェブサイト▶<http://www.city.izu.shizuoka.jp>

- 平成6年、任意団体を組織し消滅の危機にあった棚田の保全活動を開始。平成22年に法人化し、同時に棚田オーナー制度を導入。学生や企業との連携、女性の活躍により、来客数が大幅に増加。



キーワード

外部との連携

オーナー制度

学生・ボランティア

都市農村交流

棚田保全

基本情報

- 所在地：静岡県菊川市
- 地域指定：平地地域
- 団体名：特定非営利活動法人 せんがまち棚田倶楽部
- 選定表彰：
 - 豊かなむらづくり表彰事業農林水産大臣賞（R2年）
 - 第7回関東農政局ディスカバー農山漁村の宝（R2年）
 - 地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰（H29）
- 主力商品・イベント：棚田保全活動、棚田オーナー制度
- 活用している地域資源：棚田、農林水産物、自然景観
- 主な国等の支援策：中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金

取組の概要

- 消滅の危機にあった「千框の棚田」は、法人化と同時にオーナー制度を導入。年間50組を受入れ、棚田保全と都市農村交流に大きく寄与
- 棚田保全活動に必要な人力、知恵や活力を静岡大に求めた結果、大学内にサークルが発足。現在では60名を超え大変貴重な存在。また、地元企業との連携により棚田の再生が促進
- 棚田を介したイベントは年間25回開催され、来客数は2,700名。地場産農産物の販売や体験型イベントなど、学生や地域住民、地元女性組織等の活躍により地域の賑わい



静岡大サークル「棚田研究会」

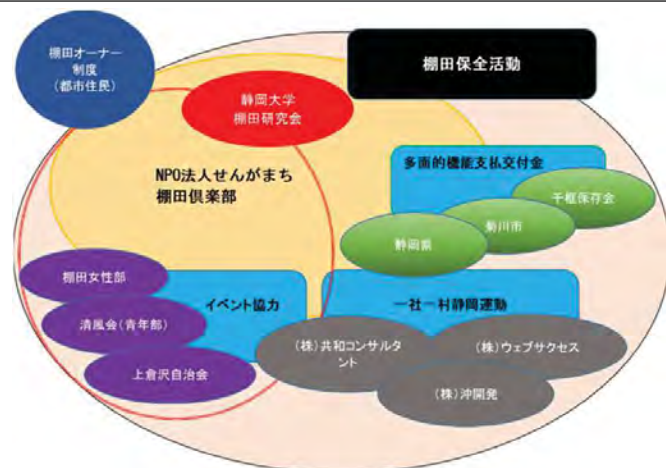


棚田オーナーの稲刈



棚田イベント「あぜ道アート」

体制図



取組の成果

- 棚田再生面積：1 ha（H22）→3.5ha（R元）
- 棚田オーナー：100人（H22）→1,200人（R元）
（田植え、稲刈り等参加のべ人数）
- 体験プログラム、イベント参加者数：300人（H22）→2,700人（H26）



昭和40年頃の棚田

所在地▶静岡県菊川市倉沢 連絡先▶ E-mail:sengamachi@tanada1504.net
ウェブサイト▶<https://www.tanada1504.net/>

【取組のプロセス】

最盛期（昭和40年頃）には約10haあった棚田が消滅の危機。このままでは地域としての活力も失う可能性

1994年～

きっかけ

○当時の青年農業者が中心となり、戦国時代より続く「千框の棚田」の
人力による再生作業を開始

有志で再生作業を開始

- 平成6年、「千枚田を考える会」を設立し、棚田保全活動を開始
- 平成11年、地道な活動が認められ、静岡県の「棚田等十選」に認定。市内外から多くのボランティアが訪れるようになった事を契機に、名称を「上倉沢棚田保全推進委員会」に変更



法人設立当初の棚田の状況

ボランティアが増加、かつての美しい棚田景観を少しずつ取り戻す

1999年～

非営利活動法人 せんがまち棚田倶楽部設立

- 平成22年、地元合意の基「非営利活動法人 せんがまち棚田倶楽部」を設立。本格的な保全活動を開始。法人化と同時に棚田オーナー制度を導入
- 必要な人力・活力を静岡大学に求めた結果「静岡大学棚田研究会」が発足。貴重な存在に。また、地元企業3社との連携を開始。水稻、そば栽培に採草地を含め棚田面積は約6haまでに回復（令和元年）



静岡大生による保全活動

行政、教育機関、企業、地元団体との連携による、むらづくり推進体制確立

2010年～

イベントによる地域活性化、指定棚田地域指定

- 棚田を介した各種イベントや活動は年間25回開催。地域内外の参加・交流人口は2,700名
- 令和2年、棚田振興法に基づく「指定棚田地域」に指定。平成25年には「静岡の茶草場農法」が世界農業遺産認定。地域資源として交流・地域活性化に大きく寄与



イベント「棚田市場」

指定棚田地域の指定により、地域住民の意識が更に向上

2020年～

指定棚田地域指定により、中山間地域直接支払交付金の活用が可能に

今後の展望

「地域の宝物」を次世代につなぐ

- 令和2年度より、県の補助を受け、地元企業、静岡大学等との協働で棚田米や地場産品を活用した和・洋菓子を開発するプロジェクト「千框おもてなし商品づくり」を開始。せんがまち400年の物語が語れる商品づくりに取り組んでいる
- 棚田のある空間づくり、10haの桃源郷「せんがまちツーリズム」の実現により、地域の経済的な豊かさを求めていく。今後は産直・交流施設整備も検討



地域の宝を次世代へ

- 平成13年に水田農業を行う女性らで「T I（豊橋稲作）レディース」を立ち上げ、女性目線での農作業に係る情報交換や、「未来につなげる農業」を合言葉に学校教育活動や消費者との交流を図る。



キーワード

内発的

ボランティア

女性

教育

基本情報

- 所在地：愛知県豊橋市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：有限会社みずほ農産
- 選定表彰：
H20「第36回毎日農業記録賞」優秀賞
R1「愛知農業賞（あいちアグリアワード）」
- 主力商品・イベント：米・農業講座「見たい！食べ隊！豊橋農業！」、「豊橋東部みどり会こども絵画展」
- 活用している地域資源：農林水産物(米)
- 主な国等の支援策：多面的機能支払交付金

取組の概要

- 女性農業者がコミュニケーションをとれる環境づくりとして、平成13年に「T I（豊橋稲作）レディース」を立ち上げ、平成23年には、他市町村の農業委員とともに「農業委員会レディースあいち」を設立。
- 一般消費者に地域農業を理解してもらうため農業講座「見たい！食べ隊！豊橋農業！」を開催。また、地元小学生に水田農業を題材とした「豊橋東部みどり会こども絵画展」を実行。



小学生の水稲作業体験

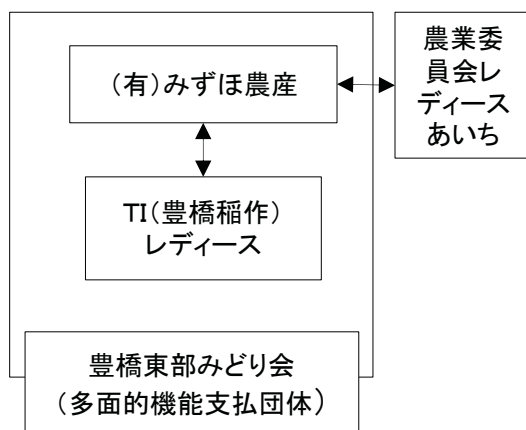


豊橋東部みどり会 こども絵画展応募箱を教頭先生にお渡し



旧多米小学校の木造校舎を活用した子ども絵画展

体制図



家族と社員の皆さん

取組の成果

- みずほ農産の水稲経営面積は、35ha（H27）から55ha（R1）へ飛躍的に増加。
- 年間売上高は、過去5年間で約7.8～9.7千万円（右図参照）。



所在地▶愛知県豊橋市多米中町四丁目19番地10

連絡先▶TEL:0532-62-5414 FAX:0532-62-5418

E-mail:mizauhonousan@gmail.com

ウェブサイト▶http://

- 平成3年、有限会社として設立し、平成31年に株式会社に組織改編。「たまごで人をしあわせに」を経営理念に、付加価値の高い卵を生産。うみたて卵の直売、加工品（洋菓子）販売及びたまご料理店を開店し、消費者へ提供。



キーワード

内発的

企業

6次産業化

教育

洋菓子店

基本情報

- 所在地：愛知県常滑市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：株式会社デイリーファーム
- 選定表彰：
 - H28「6次産業化優良事例表彰」食料産業局長賞
 - R 1「ディスカバー農山漁村の宝」東海農政局選定
 - R 2「高橋養鶏賞」
- 主力商品・イベント：卵、スイーツ、卵料理・食育活動
- 活用している地域資源：農林水産物(卵)
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農山漁村活性化整備対策）

取組の概要

- 養鶏場として大正より営業しており、平成27年6月から洋菓子店（ココテラス）を開店、卵の直売と加工品を販売。
- さらなる卵の可能性を消費者に提供するため、平成30年6月に国家戦略特区を活用して、農家レストラン「レシピヲ」をオープン。
- 地産地消・耕畜連携にも取り組み、学習会を実施。



ココテラスの外観

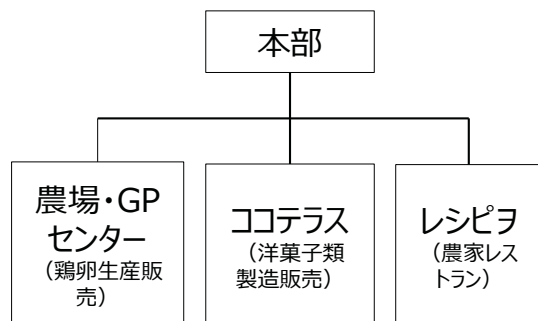


地元の学校での食育活動



地元タクシー会社と連携したデリバリーサービス

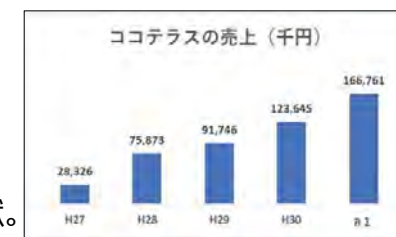
体制図



たまごをたっぷり使用した手作りスイーツ

取組の成果

- 洋菓子店「ココテラス」の売上は約1億6,700万円（R1）、農家レストラン「レシピヲ」は約7,700万円（R1）を売上。
- 来客数は年間約15万人（R1）で、遠方からのファンも多く、知多半島の観光誘客に貢献。



所在地▶愛知県常滑市大谷字芦狭間5番地
 連絡先▶TEL:0569-37-0072 FAX: 0569-37-0256
 E-mail:momo.ichita@dailyfarm.co.jp
 ウェブサイト▶<https://dailyfarm.co.jp/>

- 昭和26年、豆腐機器メーカーとして創業。地場産業の萬古焼きメーカーとの連携をきっかけに原料となる国産大豆の需要拡大に向けた活動を開始。農商工連携を推進し、契約栽培面積の拡大や全国各地の大豆の受託加工、6次産業化などの支援を通じて農業振興に取り組む。



キーワード

外部との連携

企業

6次産業化

教育

機能性食品

基本情報

- 所在地：三重県四日市市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：ミナミ産業株式会社
- 選定表彰：
 - H18「第4回日本環境経営大賞」環境プロジェクト賞
 - H21「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社」
 - H30「第5回もったいない大賞」
 - R1「第6回ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：微粉碎大豆パウダー・海外展示会、食育イベント
- 活用している地域資源：農林水産物（大豆）

取組の概要

- 農研機構などと連携し、高機能性大豆「ななほまれ」の研究を行い、高付加価値大豆の普及を図る。
- 大豆製品の海外販路開拓事業に取り組み、海外28ヶ国へ輸出。また海外で食育イベント等も実施。
- 地方公共団体と連携して食育イベントの開催や、フランス、NY、香港、シンガポール、上海などでも同様のイベントを実施。
- 独自粉碎技術で大豆を20μmに微粉碎、おから無排出化した豆腐、豆乳製造方法の開発。



にがり農法による大豆栽培

海外採用事例
(自家製豆腐作り)海外展示会
(NYセミナー)

体制図

ミナミ産業株式会社

機械事業部

- ・大豆加工食品（豆腐、豆乳、油揚げ等）製造機械
- ・食品機械、プラント
- ・粉碎機、空気輸送装置
- ・ウルトラファインパブル関連機器

電子事業部

- ・検査機器
- ・電子事業

食品事業部

- ・大豆パウダ
- ・受託粉碎
- ・豆乳
- ・その他の食品類



微粉碎大豆パウダー

取組の成果

- 国産大豆製品の輸出額は、約3,600万円から約11,600万円に増加（H26～R1）した他、大豆栽培面積は約160ha（R1）まで拡大。
- 「おからの出ない大豆丸ごと豆腐技術」を開発し、当該技術を活用して、65店舗の新規開業に貢献。

国産大豆関連商品輸出額（千円）



所在地▶三重県四日市市東新町3-18

連絡先▶TEL:059-331-2158 FAX:059-331-7324

E-mail:info@minamisangyo.com

ウェブサイト▶https://www.minamisangyo.com/

- 平成18年開所、平成28年多機能型事業所に移行。知的障害・精神障害を持つ施設利用者18名が、ハウスでのイチゴ栽培を中心とした農作業を通年で実施。平成30年にイチゴ生産でASIA GAP認証を取得。



キーワード

内発的

障がい者

企業

農福

基本情報

- 所在地：三重県松阪市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：社会福祉法人まつさか福祉会
- 主力商品・イベント：イチゴ、イチゴジャム、漬物・委託事業（イベント、秋まつり）
- 活用している地域資源：農林水産物（イチゴ・ナバナ・金ゴマ・ニンニク・カボチャ等）
- 主な国等の支援策：「農」のある暮らしづくり交付金

取組の概要

- 離農した農業者から借り受けたイチゴハウス35aに、高設栽培システムを組み込み、作業負担度の大きい中腰姿勢を避け、作業しやすくしている。
- 高品質のイチゴが販売先から評価され、平成30年には国際線機内食にも提供。また、イチゴジャム等の加工にも取り組む。
- イチゴ栽培技術を信頼され、市内の離農した農業者から空きハウスや農地を借り、生産面積が増加。また、生産量の増加に伴い、県内大手スーパーと直接取引を開始。
- 現在、ブルーベリー等の栽培も開始し商品数が増加。将来の目標は3次産業までつなげて6次産業化に取り組む予定。



イチゴの収穫作業

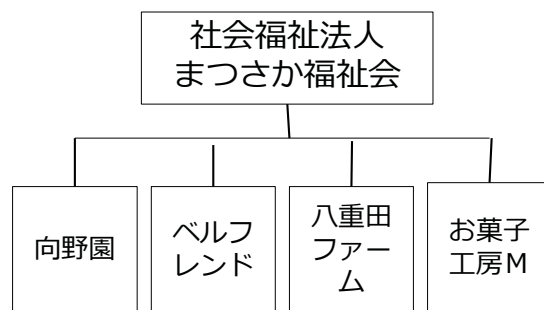


ナバナの収穫作業



漬物の加工作業

体制図



国際線機内食に提供されたイチゴ

取組の成果

- 売上は年々増加し、令和元年度は約2,300万円に到達。
- 安定的な経営により、就労継続支援B型事業の利用者の平均月額工賃は32,544円（H30）と、三重県の平均15,561円を大幅に上回る。

売上（万円）



所在地▶三重県松阪市八重田町31-6

連絡先▶TEL:0598-63-1551 FAX:0598-63-1555

E-mail:mu-yaeda@mctv.ne.jp

ウェブサイト▶<http://www.mukaiyaebell.or.jp/index.html>

○昭和61年、有限会社を設立。平成16年から、野趣あふれる海女小屋で、海女が獲った鮑、サザエ等や海藻を味わい、現役海女の海女漁や生活についての語りを聞き、地元の相違音頭と一緒に踊るなど、海女文化に触れる取組。



キーワード

内発的

企業

都市農村交流

海女

基本情報

- 所在地：三重県鳥羽市
- 地域指定：中間農業地域
- 団体名：海女小屋はちまんかまど 有限会社 兵吉屋
- 選定表彰：
 - H23「第2回地域再生大賞」優秀賞
 - H24「おもてなし経営企業選」選出企業
 - H28「第1回日本サービス大賞」地方創生大臣賞
 - H29「中部運輸局優良事業者等局長表彰」
 - H30「第4回ジャパン・ツーリズム・アワード」入賞
と「第12回産業観光まちづくり大賞」金賞
 - R2「食かけるプライズ2020」食かける賞
- 主力商品・イベント：魚介・海女小屋体験
- 活用している地域資源：農林水産物（魚介）

取組の概要

- H16年に、日本で初めて実際に使用している海女小屋を開放し、現役海女が北米のお客様をもてなしたことをきっかけに、海女小屋体験サービスを開始。
- 発展途上国の若手経営者や公務員の事業研修プログラムの受け入れを行い、次世代の担い手育成に協力。また外国人観光客のために、フリーwi-fi・キャッシュレス化や礼拝堂等を設置。



伊勢志摩サミットプレスツアー

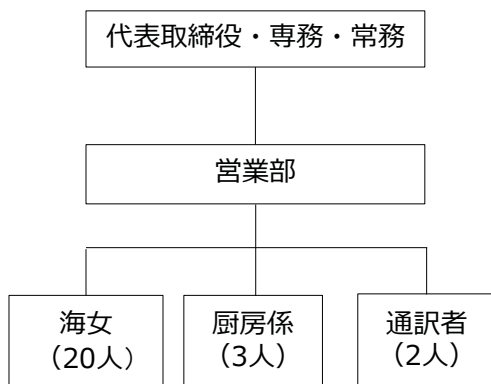


ロシア観光客の海女体験



ロシア観光客の炭焼体験

体制図

海女小屋体験で味わえる
伊勢志摩の魚介

取組の成果

- 海女小屋総受入人数は約2万3,000人（H30）で、うち外国人観光客が約9,300人。
- 海女小屋体験が、海女の生きがい、海女の収入増加、雇用の創出、新たな観光地の誕生等、海女文化と食文化の継承にも貢献。



所在地▶三重県鳥羽市相違町1094番地

連絡先▶TEL:0599-33-6145 FAX:0599-33-7407

E-mail:info@amakoya.com

ウェブサイト▶<https://www.amakoya.com/>

- 平成15年に有限会社を設立。農村料理レストラン、加工所などで地元農産物を使用した料理や商品を生産するほか、大豆などを使った料理体験などを通じ、農村の文化や技術を伝承。



キーワード

内発的

地域住民

6次産業化

都市農村交流

教育

基本情報

- 所在地：三重県多気町
- 地域指定：中間農業地域
- 団体名：有限会社せいわの里
- 選定表彰：
 - H20「第59回全国農業コンクール全国大会」名誉賞
 - H22「豊かなむらづくり全国表彰事業」日本農林漁業振興会会長賞
 - H26「第1回ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：野菜、大豆製品（豆腐、アゲ、みそ、総菜等）・体験学習
- 活用している地域資源：農林水産物（野菜と豆）
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- 農村から生まれる産物・豊かな文化・お年寄りの持つ技術を生かそうと、地元の女性を中心となり地域の賛同者を募り、「有限会社せいわの里」を設立。
- 農村料理レストランと体験工房・加工施設を拠点に、地域の団体と協力した地域活性化活動などに取り組む。



農村料理レストランで働く皆さん



30種類以上のバイキング

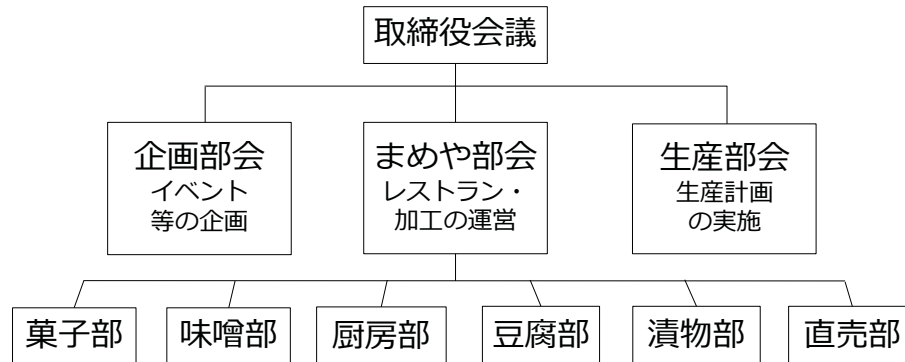


70種類以上の商品



地元中学生と体験学習・商品メニューを開発

体制図



取組の成果

- 農村料理レストランの来客者は年間9.5万人（H30）。農産物を納品する生産者は130人から165人に増加（H26～H30）。
- 地元の農産物買上額や、地元雇用の人件費等の地元への貢献額は約6,000万円（H30）であり、地域に貢献。



所在地▶三重県多気郡多気町丹生5643

連絡先▶TEL:0598-49-4300 FAX:0598-49-4300

E-mail : mameya@ma.mctv.ne.jp

ウェブサイト▶<http://www.ma.mctv.ne.jp/~mameya>

- 平成23年に法人化。約300ha超の経営面積で主食用米を中心に加工用米やジャガイモを生産し、コメは百貨店やスーパー等に販売。杵つき餅の生産販売など、6次産業化にも取り組む。



キーワード

内発的

企業

6次産業化

IoT

基本情報

- 所在地：三重県明和町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：株式会社小林農産
- 選定表彰：
 - H29「アグリフードEXPO輝く経営大賞」優秀賞
 - H30「6次産業化アワード」奨励賞ICT技術活用賞
- 主力商品・イベント：コシヒカリ「宇田ひかり」、杵つき餅・展示会等
- 活用している地域資源：農林水産物(米)
- 主な国等の支援策：農地中間管理事業

取組の概要

- 法人化に伴い「6次産業化・地産地消法」の認定を受け、賞味期限を大幅に伸ばした杵つき餅を開発・販売。その後、賞味期限を1年に延長するなどの改良をし、順調に売上を増加。
- 作業効率向上のため、GPSガイダンス&自動操舵補助付きの田植機と自動直進畦塗機を開発・導入。また、独自に汎用GPSの開発と農機の作業記録管理ソフト・圃場センサーを開発中。
- 減農薬、減化学肥料による特別栽培米コシヒカリ「宇田ひかり」をインターネット販売や大手商社等により販路拡大。



杵つき餅
(醤油味・濃いよもぎ)



GPSガイダンス&自動
操舵補助付きの田植機



若手の登用
(39歳の社長と37歳の課長)

体制図

株式会社小林農産

- 役職員19名
- ・社員の4割が20～30歳代)
 - ・臨時雇用約20名
 - ・H29より情報システム部新設



最高級ブランド米
「宇田ひかり」

取組の成果

- 全体売上高は、1.9億円から8.8億円に堅調に推移(H26～R2)。
- 役職員19名のうち20～30歳代が7名在籍。若手職員を積極的に登用。
- 気候リスク分散を図るため、令和2年度に支社1号店(埼玉県羽生市)を出店。

全体売上高(億円)



所在地▶三重県多気郡明和町金剛坂690

連絡先▶TEL:0596-52-0214 FAX:0596-52-0339

E-mail:info@kobayashi-agri.co.jp

ウェブサイト▶<https://www.kobayashi-agri.co.jp/index.html>

- 安全・安心な米づくりから地産地消へ、「美味しい米」で創造する新たな商品開発、そして、農業を通じた技術習得と就労機会の創出に取り組む。



キーワード

内発的

障がい者

中山間での雇用

6次産業化

基本情報

- 所在地：滋賀県日野町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：社会福祉法人わたむきの里福祉社会
- 選定表彰：R02 米・食味分析鑑定コンクール国際大会（金賞）
H30近畿ディスカバー農山漁村の宝選定
- 主力商品：
農林水産物（米）
- 活用している地域資源：
農林水産物（水稻）
- 主な国等の支援策：
H29農山漁村振興交付金（農福連携対策）



主力商品のチラシ

取組の概要

- 中山間である本地域では、高齢化・後継者不足による耕作放棄地の増加が地域課題であり、その解決に向け、地域の方々との連携により本地域農業活性の一翼を担う。
- 安全安心で環境にも配慮した米づくりと生産したお米は、外部販売・事業所内での給食・高齢者配食サービスにも活用し、地産地消を推進。また「美味しい米」で創造する各種新商品を開発。
- 障害のある方々にとっての職業技術習得の機会創出と個々の就労という目標に向けてのステップアップを推進。農業を通じて、作業所の障害のある方と地域住民の方との交流機会が増え、障害のある方のやりがいや充実感が増大。



苗箱の洗浄の様子



田植え作業



稲刈り作業



「美味しい米」で作られた新商品

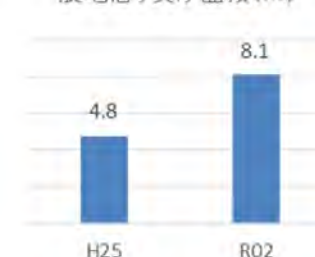
体制図



取組の成果

- 農地の借り受け面積は4.2ha(H25)から8.1ha(R02)に増加。
- 障害のある方の企業等への就労は0人(H25)から、4人(H29)へ増加。
- R01にG-GAP認証を取得（R02に更新）。

農地借り受け面積(ha)



所在地▶滋賀県蒲生郡日野町上野田805

連絡先▶TEL:0748-53-1061 FAX:0748-53-2972

E-mail:s-watamuki@gaea.ocn.ne.jp ウェブサイト▶http://www.wa-sato.jp/

○ 部門間等の連携と乳製品の商品開発による“湖華舞”ブランドの確立とチーズ作り体験など食育を絡めた事業を展開。



キーワード

内発的

6次産業化

食育

雇用創出

乳製品

基本情報

- 所在地：滋賀県竜王町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：有限会社古株牧場
- 選定表彰：
R1全国優良経営体表彰農林水産大臣賞
R2第59回農林水産祭天皇杯（多角経営部門）
- 主力商品：乳製品
- 活用している地域資源：畜産
- 主な国等の支援策：H27総合化事業計画

取組の概要

- 自社で搾乳したミルクを牧場内の直営店でジェラート・チーズに加工し販売。チーズの他に自社で育てた近江牛を使用したランチ等も提供。
- 自社で搾乳したミルクの他、地元の養鶏場の新鮮な卵や養蜂場の蜂蜜を使用したプリン等の洋菓子や、地元果物を使ったジェラートに加工し販売。
- チーズ・バターが出来上がる工程を体験できるプログラムを開発し、食に興味をもって貰えるように発信する事で食育を展開。



店舗の様子

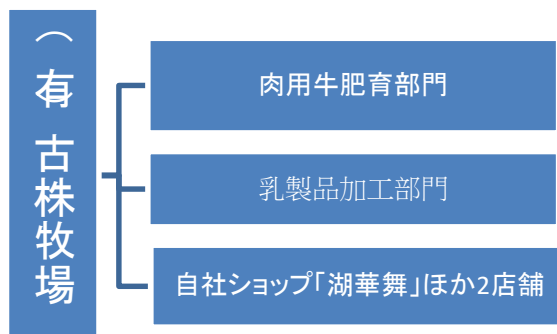


石窯ピザ作り体験



ラクレットチーズランチ

体制図



取組の成果

- 商品については、自社ショップ「湖華舞」をはじめ、直売店2店舗のほか、有名ホテルや百貨店等でも販売され、古株牧場のブランドを確立。
- 常雇・臨時雇を含め27名の雇用を創出。
- 取組は県内畜産農家にとって刺激となり、県内において6次化産業に取り組む者が増加するなどその波及効果は絶大。

所在地▶滋賀県滋賀県蒲生郡竜王町小口1183-1

連絡先▶TEL:0748-58-2040 FAX:0748-58-0004

Email:info@kokabu.co.jp

ウェブサイト▶http://kokabu.co.jp/

- 東近江ムラサキ紫縁（支援）プロジェクトとして、「限界集落」の「耕作放棄地」を開墾し、「絶滅危惧種」の「紫草」の栽培と6次産業化による地域活性化に取り組む。



キーワード

内発的

企業・学生

地域おこし協力隊

オーガニック

耕作放棄地

基本情報

- 所在地：滋賀県東近江市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社みんなの奥永源寺
- 選定表彰：
R1 グッドライフアワード
サステナブルビジネス賞(環境省)
- 主力商品：農林水産物（根）
- 活用している地域資源：
特用作物、耕作放棄地、
絶滅危惧種



紫草（ムラサキ）

取組の概要

- 東近江市の「産地・市役所・農業高校・加工業者等」が連携したプロジェクトにより、「紫根の生産」に成功。
- 紫根を活用した6次産業化商品「オーガニックシコンコスメ」を開発。



紫草の根（シコン）

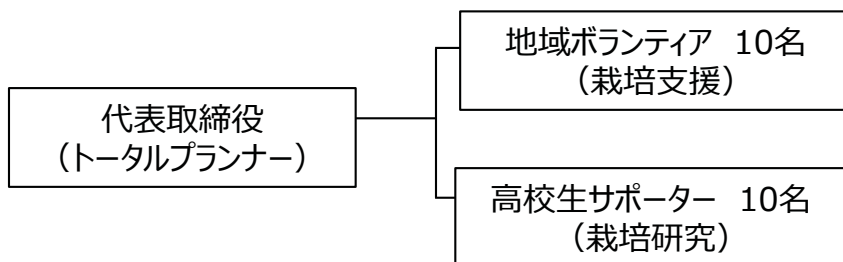


高校生と地域住民共同で紫草の植付



オーガニックシコンコスメ

体制図



取組の成果

- オーガニックシコンコスメの売り上げは、3,800千円(H30)から15,000千円(R01)に増加。
- 全国の百貨店・東急ハンズ・羽田空港の免税店で販売するほか、海外の百貨店等にも進出。



所在地▶ 東近江市君ヶ畑町844番地

連絡先▶ TEL:0748-56-1194 FAX:080-3108-7172

E-mail:shinsan2014@gmail.com

ウェブサイト▶ <https://www.kokocool-shiga.jp/selection/67>

- 「フードリサイクルで究極の地産地消を！」をキャッチフレーズとして、社員食堂から出る生ゴミを堆肥化し、それを用いて野菜を育て再び食堂で提供するフードリサイクルに取り組む。



キーワード

外部との連携

企業・学生

教育

リサイクル

基本情報

- 所在地：滋賀県草津市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：オムロン（株）草津事業所
滋賀県立湖南農業高等学校

● 選定表彰：

R1「滋賀県低炭素社会づくり賞」
(オムロンが受賞)

● 主力商品：生ゴミ

● 活用している地域資源：
食品ロス

● 主な国等の支援策：

生ゴミで作った堆肥
草津市と農業の振興やまちづくりの推進
協力協定の締結（H30・湖南農業高校）

取組の概要

- オムロン（株）草津事業所では、H12年からフードロス削減に取り組み、食べ残しを減らしつつ、野菜くず等の生ごみを敷地内で全て堆肥化し、H13年以降は生ごみ廃棄ゼロを実現。
- 高校では、農業実習においてオムロン堆肥を用いてトマト、ホウレンソウ等の野菜を生産。オムロン見学ツアーで、自らが作った野菜の納品の様子を確認し、野菜作りのモチベーション向上。
- 毎年夏にオムロンで開催する野菜即売会は、オムロン社員が心待ちにするイベントになったほか、社員とその家族が高校生とともに野菜作り体験を実施。



社員食堂で高校産野菜のサラダ販売

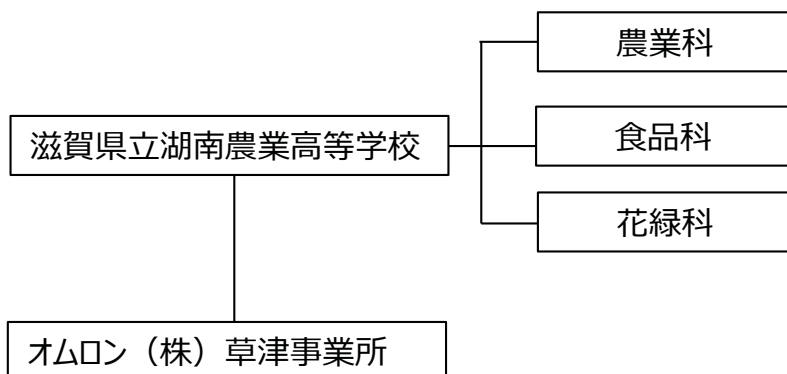


オムロン堆肥を使ったダイコン収穫



市内で実施される販売会の様子

体制図



取組の成果

- オムロン堆肥投入後の野菜部門売り上げは、135万円(H30)から145万円(R01)に増加。
- 販売会は、市内各地で実施され、H30は、22(2)回、R01は25(3)回と増加。
※()内はオムロン草津事業者内で実施



所在地▶滋賀県草津市草津町1839

連絡先▶EL:077-564-5255 FAX:077-562-1186

E-mail: konanno-h@pref-shiga.ed.jp

ウェブサイト▶ <http://www.konanno-h.shiga-ec.ed.jp>

- 聴覚障害者やひきこもり経験者等が宇治茶の手摘みやエビイモの手掘りなど高品質な京都の伝統野菜の生産と加工作業を通年で従事しており、農福連携の普及啓発に取り組む。



キーワード

内発的

障がい者

6次産業化

農福

J G A P

基本情報

- 所在地：京都府京田辺市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：就労継続支援B型・さんさん山城
(社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会)
- 選定表彰：
R2グッドライフアワード
環境大臣賞（NPO/任意団体部門）
R1ディスカバー農山漁村の宝選定
H31京都府スイーツコンテスト
最優秀賞（濃茶大福）
- 主力商品：農林水産物
(茶・エビイモ・万願寺
唐辛子・田辺ナス)
- 活用している地域資源：
茶、エビイモ



濃茶大福

取組の概要

- 宇治茶の手摘みや「エビイモ」の手掘りなど、障がい者の手作業等により、高品質な京都の伝統野菜等を生産。また、これらを活用し付加価値性の高い加工品の開発、販売も行っている。
- 併設のコミュニティカフェでは、メニュー作りから接客、調理まで障がい者が中心となり行う。
- R1年にノウフクJ A S(第1号)認証の取得。R2年、新たに仲卸業者との取引が始まり、祇園の料亭や高級ホテルに食材を卸すなど、販路が拡大。J G A P 認証も取得し持続可能な農業を推進。



エビイモの収穫作業

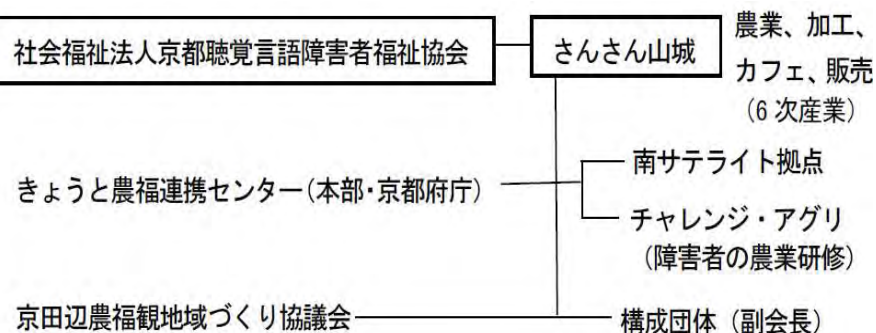


宇治茶の手摘み作業



さんさん山城コミュニティカフェ

体制図



取組の成果

- 野菜、加工品、コミュニティカフェなどの売上げは570万円(H26)から1,620万円(H31)へ増加。
- さんさん山城を利用する障害者の年間延べ人数も3,486人(H26)から5,029人(H31)へ増加。



所在地▶京都府京田辺市興戸小毛詰18-1

連絡先▶TEL:0774-39-7113 FAX:0774-65-4102

E-mail:shinmen@kyoto-chogen.or.jp

ウェブサイト

▶<http://www.kyoto-chogen.or.jp/communityplaza/sunsunyamashiro/>

【取組のプロセス】

都市開発と高齢化で農業の衰退が著しく、障害者が地域の一員として活躍・貢献できる仕事として農業にチャレンジ

2011年～

きっかけ

○事業所開設 地域特産の農作物の栽培、地元に根差した活動を開始

地域特産を活かした加工品製造に着手し、収益向上

○規格外のえびいもを活用した「えびいもコロッケ」や手摘みの高級宇治抹茶を使った「濃茶大福」「濃茶クッキー」など、付加価値性の高い加工品を開発し、販路を拡大。地域の人気商品に。



(えびいもコロッケ)

2014年～

2016年 地産地消に取り組み「京都やましろ食材提供店」認定

市民が集うコミュニティカフェをオープン

○さんさん山城産の新鮮野菜をふんだんに使った日替わりランチをワンコインで提供。毎日多くの市民で賑わう。開店から3年でランチ提供数3万食を突破。ランチ以外の時間帯もカフェを開放し、障害のある人もない人も子供から高齢者まで多種多世代の人達が集う、今や地域になくてはならない場所となっている。



(濃茶クッキー)

2017年～

2018年 全国初、障害者のキャリア認定制度「チャレンジアグリ」を開講

農福連携を世界に発信

○ HPを英語、中国語（簡体、繁体）、韓国語の4言語対応に。農福連携を世界に発信。
○2019年6月に韓国済州島で開催された「SDG s 済州国際会議」で取組実践を報告。国連高官ら世界各国の関係者から高い評価を受けた。



(日替わりワンコインランチ)

2019年～

2019年「農福連携等推進会議」に有識者として参画

○これまで築き上げた地域との関係や作業ノウハウを活かして、人手のかかる農作業ならびに農地管理など、地域が抱える農業課題を地元の福祉事業所間で共有・連携を行い解決に繋げていくシステムを構築する

○障害者だけでなく引きこもりや触法者などの受け入れも行い、「誰もが社会の一員として活躍できる農福連携」を実践する。

○各方面の研究機関と連携をはかり「農福連携」が学問分野の一つとなって、障害者も高等教育機関で学ぶことができ、ひいては障害者が地域で活躍できる社会を創造する。



(SDG s 済州国際会議)

今後の展望

○京野菜のなかでも周年栽培可能な「九条ねぎ」に特化した生産と多様な販路の開拓に取り組む。



キーワード

内発的

女性の活躍

6次産業化

九条ねぎ

基本情報

- 所在地：京都府京都市
- 地域指定：平場農業地域
- 団体名：農業生産法人こと京都株式会社
- 選定表彰：
H29全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞受賞
H30第57回農林水産祭天皇杯（多角経営部門）
- 主力商品：九条ねぎ
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- ねぎ生産者団体「ことねぎ会」を立ち上げ、会員生産農家が策定した生産計画を基に契約を結び周年安定供給を実現。
- 商工系カット業者には真似のできない加工を実現し、乾燥ねぎや料理店のシェフと提携したねぎ油等の付加価値のある加工生産を実施。
- 新規就農者等を対象に「独立支援研修生制度」を設け、栽培技術だけでなく「農業経営者」を育成。また、女性社員の管理職への登用等、あらゆる場面で女性の活躍を推進。



ねぎ栽培の様子

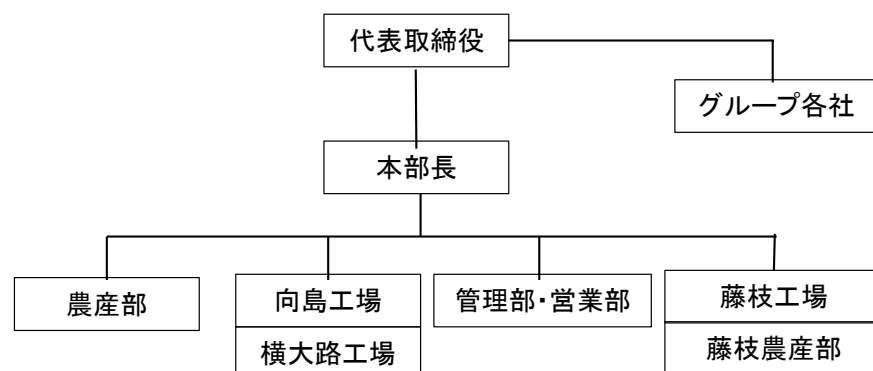


九条ねぎの加工の様子



ねぎ加工品

体制図



取組の成果

- 九条ねぎの需要開拓により、京都府内の九条ねぎの生産活性化に貢献。
- ねぎ等の生産を行う農産部や加工部等の4部門を組織し、常時雇用55名を含む従業員174名（R2）の経営体へと成長。
- 九条ねぎのブランディング及び販路拡大により、グループ売上高は約18億円（R2）。

所在地▶京都府京都市伏見区横大路下 三栖里ノ内30番地

連絡先▶TEL:075-601-0668 FAX:075-601-0662 Email: -

ウェブサイト▶<https://kotokyoto.co.jp/>

- 大阪湾の鮮魚は脂ののりが良く“旨い魚”として評価が高い。一方で認知度が低く、仲買人との相対取引の結果、和歌山や兵庫等の市場価格（主に「競り」）よりも常に安値であり、魚価の向上が課題であった。また、労働生産性の向上も希求されていた。
- 大阪府鰯巾着網漁業協同組合、岸和田市、大阪府が取組を推進し、デジタル化による事務効率向上と、魚価向上を達成。



キーワード

内発的

競り取引

IOT

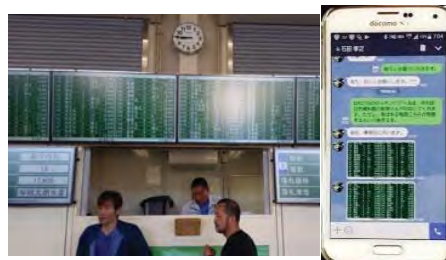
シラス等

基本情報

- 所在地：大阪府岸和田市
- 地域指定：－
- 団体名：岸和田臨海地区地域水産業再生委員会
- 選定表彰：平成29年度 浜の活力再生プラン 優良事例表彰 水産庁長官賞受賞
- 主力商品・イベント：生シラス丼
- 活用している地域資源：シラス、マイワシ、サワラ、スズキ等の「泉州プレミアム鮮魚」
- 主な国等の支援策：水産業競争力強化緊急事業

取組の概要

- 入札データのデジタル化（IOTの活用）
これまで手書きの入札形式であったが、電子入札に変更したことで大幅に事務作業を軽減。また、入札結果をLINEですぐに漁業者へ配信することで、情報伝達のスピード向上。
- 荷揚げ場所の集約と相対取引から競り取引への移行
地区内で漁獲されるシラス等の水産物を岸和田の競り場に集約し、統一した鮮度保持対策を講ずるほか、相対取引から競り取引に移行することで、魚価単価を向上。



体制図



取組の成果

取組開始前と開始後のイカナゴ・シラス平均単価（円/kg）

大阪	イカナゴ	シラス
平成22年～26年（5中3）	413	286
平成26年～30年（5中3）	約3.0倍 → 1,233	約1.7倍 → 481

所在地 ▶ 〒596-0015 大阪府岸和田市地藏浜町7番1号

連絡先 ▶ TEL:072-437-5777 FAX:072-437-5666 E-mail:

ウェブサイト ▶ <http://www.sensyusaisei.com/>

○平成16年に設立された農事組合法人が多様な取組を通じて地産地消や食農教育を進める。



キーワード

内発的

大学との連携

食育

地産地消

基本情報

- 所在地：大阪府河南町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：農事組合法人かなん
- 選定表彰：
 - R1ディスカバー農山漁村の宝選定
- 主力商品・イベント：町内産農産物及び農産加工品、収穫体験、職業体験実習
- 活用している地域資源：町内産農産物、教育機関

取組の概要

- 学校給食センターや幼稚園、福祉施設などへの野菜や味噌の納入や、地域の小中学校を対象とした職業体験実習を受け入れるなど、食農教育に積極的に取り組む。
- 地場産農産物を使用した加工品を開発するなど、6次産業化にも取り組み、イベントや道の駅（直売所）で販売。



道の駅かなん及び直売所

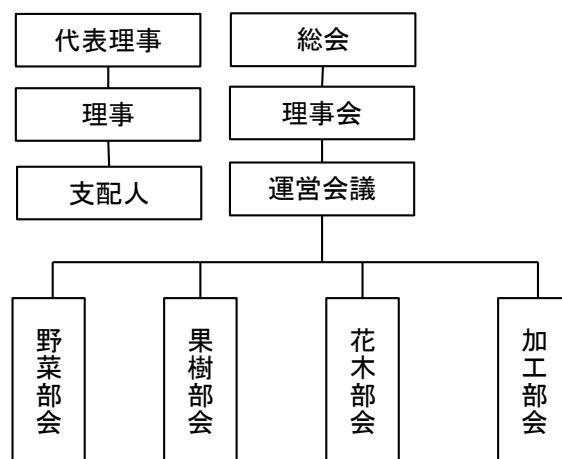


河南町内小学校での食育出前教室



収穫体験イベント

体制図



取組の成果

- 町内産農産物を使用した加工品の品数は年間で100種類以上にもなり、町内産農産物及び農産加工品の直売所での売上は約2.8億円（R1）。
- 使用する野菜全てを町内産でまかなう給食（お野菜まると河南町の日）を年4回実施。

所在地▶大阪府南河内郡河南町神山523番地の1

連絡先▶TEL:0721-90-3911 FAX:0721-39-3912

Email:mitinoeki.kanan@sunny.ocn.ne.jp

ウェブサイト▶<http://www.michieki.jp/kanan/>

- 西日本一古いワイナリーが都市住民や企業との連携により伝統ある大阪ぶどう産地の活性化を通じ、伝統ある農山漁村の次世代への継承に取り組む。



キーワード

内発的

食育

6次産業化

ワイン

基本情報

- 所在地：大阪府柏原市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：カタシモワインフード株式会社
- 選定表彰：
H28 6次産業化優良事例表彰農水大臣賞
R2 フェミナリーズ世界ワインコンクール
日本ワイン部門金賞(TOP OF THE BEST)
- 主力商品：農林水産物（ぶどう）
- 活用している地域資源：農地、ワイン



開発したワイン【中央】

取組の概要

- ワインには不向きとされてきた地域で栽培される主要品種「デラウェア」を使った新製品の開発を進め、大ヒット商品を誕生。
- 農業者に省力的なワイン用ぶどう生産を働きかけ、買上単価アップを図り、農業者の収入増加を支援するとともに、本地域の素晴らしさを伝えるため地域連携イベントを開催。
- 耕作放棄地となる可能性のあるぶどう園を積極的に借り上げて、栽培等のボランティアとして育成した都市住民や企業等と連携し、管理する仕組みを構築。

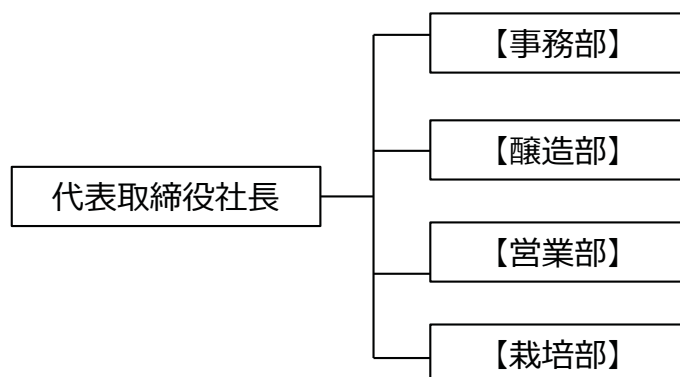


ぶどう園

地域連携イベント
「おもろいやんカタシモワイン祭り」

古民家を活用した事務所

体制図



取組の成果

- 栽培等ボランティアが管理する農地面積は、170a(H25)から290a(H29)に増加。
- ボランティアの人数も、425人(H25)から480人(H29)に増加している。

ボランティアと管理する
農地面積(a)

所在地▶ 柏原市太平寺2-10-5

連絡先▶ TEL:0729-71-6334 FAX:0727-91-7337 E-mail: —

ウェブサイト▶ <https://www.kashiwara-wine.com/>

- 家島諸島では、2000年代に、基幹産業の海運業、採石業の低迷から、地域資源を活用した新たな産業として観光業に取組を開始。
- 家島諸島4島は「渚泊推進会議」を設置し、日帰り型観光から宿泊型観光（渚泊）への取組に向けた受入体制を整備。
- 今後は、地域が持続的にビジネスとして実施できる体制を有することができるよう、取組の高度化を目指す。



キーワード

内発的

企業

渚泊

基本情報

- 所在地：兵庫県姫路市家島諸島
- 地域指定：離島
- 団体名：家島諸島都市漁村交流推進協議会
- 主力商品・イベント：観光業
- 活用している地域資源：日帰り型観光や宿泊型観光（渚泊）
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

他の組織（大手旅行会社）との連携

- 大手旅行会社や体験サイト・旅プログラムの予約等を一括管理できるサイトを整備。



地元特産品の開発

- 坊勢さばを使ったさば寿司のプロモーション強化。
- 播磨地方の郷土料理、干ガレ弁当等の開発・販売。



究極さば寿司



干ガレ弁当

「家島しまたび」の展開

- 家島諸島内の暮らし・文化や食、自然等の地域資源を活用した着地型体験プログラム（しまたびプログラム）を開発し、「家島しまたび」として展開。

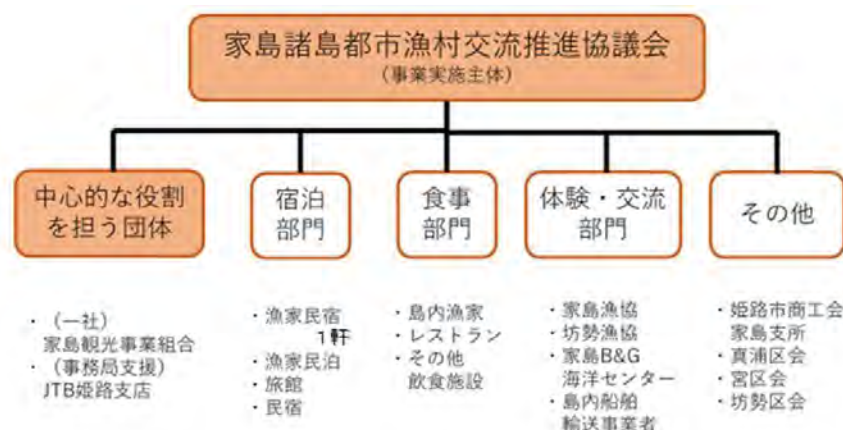


家島諸島の風景

底びき網漁体験de
島ご飯

料理教室

体制図



取組の成果

主 な 指 標	平成28年度実績	令和元年度実績
宿泊料販売額	26,048千円	30,152千円
宿泊者数	3,256人	3,769人

所在地 ▶ 〒670-0000 兵庫県姫路市家島町真浦590-7

連絡先 ▶ TEL:079-325-8777 FAX : 079-287-9911

ウェブサイト ▶ <https://nohaku.net/council/council-1102/>

○コウノトリも住める豊かな自然環境と文化環境の再構築を目指して、湿地環境の保全再生活動や「コウノトリ育む農法」によるお米づくりに取り組むとともに、地域貢献型のコウノトリ・ツーリズムを実施。



キーワード

内発的

ボランティア

コウノトリ

生物多様性

基本情報

- 所在地：兵庫県豊岡市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：兵庫県 豊岡市
- 選定表彰：
H21 生物多様性 日本アワード
保全プロダクト部門 優秀賞
- 主力商品：農林水産物（米）
- 活用している地域資源：
コウノトリ
農林水産物（水稻）



取組の概要

- コウノトリ野生復帰に向けて、農薬や化学肥料に頼らず、多様な生きものを育む「コウノトリ育む農法」を推進し、農産物をブランド化。
- 地元農家やNPO、企業などが連携して湿地の保全活動を実施。
- 環境学習やボランティア体験などを組み込んだ地域貢献型のコウノトリ・ツーリズムを構築。



カエルを捕まえるコウノトリ



コウノトリ育む農法（冬期湛水）



企業による湿地保全活動

体制図

コウノトリ野生復帰推進連絡協議会

【行政】

豊岡市
兵庫県但馬県民局
コウノトリ郷公園
国交省河川事務所
教育事務所

【企業・各種団体】

たじま農協
農業委員会
土地改良協議会
認定農業者
漁協
農林組合
観光連盟
商工会議所
商工会
区長会
校長会

【住民・NPO】

但馬づくり推進協議会
但馬夢テーブル委員会
消費者連
たじま緑のネットワーク
コウノトリ市民研究所
文化協会

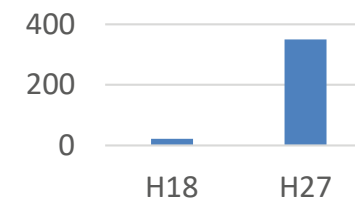
【学識者】

農学者
河川工学者
保全生物学者

取組の成果

- 「コウノトリ育むお米」の売上高は10年間で2,200万円から3億5,000万円に増加。
- 市立コウノトリ文化館の来場者数は約12万人(H16)から約30万人(H28)に増加

「コウノトリ育むお米」売上高
(百万円)



所在地▶兵庫県豊岡市中央町二番四号 豊岡市役所コウノトリ共生課・農林水産課

連絡先▶TEL:0796-23-1111 FAX:0796-24-2575

E-mail: kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

ウェブサイト▶<https://www.city.toyooka.lg.jp/konotori/index.html>

○ 500年の歴史ある吉野林業を今後も引き継いでいくため、持続可能な森林づくりと木材需要の拡大に取り組む。



キーワード

内発的

若手の活躍

文化財

林業振興

雇用

基本情報

- 所在地：奈良県川上村
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：一般社団法人吉野かわかみ社中
- 選定表彰：
 - H30ディスカバー農山漁村の宝選定
- 主力商品：吉野スギ
- 活用している地域資源：森林
- 主な国等の支援策：山村活性化支援交付金

取組の概要

- 製材加工施設を整備し、原木加工から最終製品まで対応できる体制を構築し、消費者ニーズに合致した商品開発に取り組む。
- 住宅メーカーと連携した吉野杉ツアーの実施により、住宅建設を検討している消費者に吉野杉の活用を販促。



ハウスメーカーとの見学ツアー

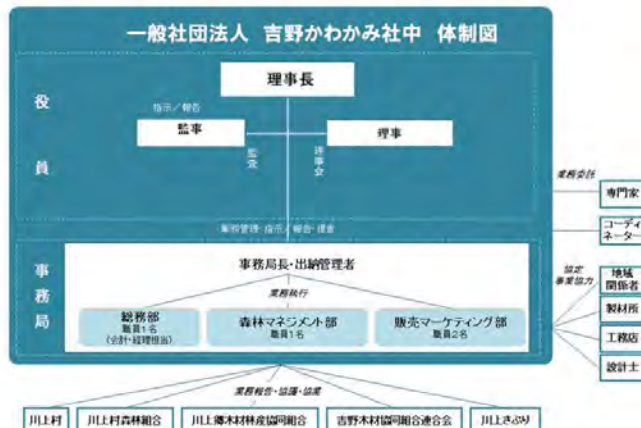


若手による文化財用屋根材の製作研修



吉野スギを活用した新商品の販売

体制図



取組の成果

- 林業・木材業新規従事者は、1人から15人に増加。
(H27～H29)
- 木工製品等の売上は、約20万円から約5,500万円に増加。
(H27～H29)
- 売上増加に伴い、新たな雇用が創出され、定住促進。
- ホテルや各店舗との取引が広がり、林業従事者の雇用拡大に貢献。

所在地 ▶ 奈良県吉野郡川上村大字迫 1 3 3 5 - 9

連絡先 ▶ TEL: 0746-52-9555 FAX : 0746-52-9556

E-mail: info@yoshinoringyo.jp

ウェブサイト ▶ <https://yoshinoringyo.jp/>

- 昭和54年に7戸のみかん農家で創業し、当初はみかん生産のみであったが、近年は生産から加工、販売まで一貫して行う6次産業で「みかん1個の価値」を高める取組を実施し、中山間地域での雇用の場を創出。



キーワード

内発的

6次産業化

雇用創出

みかん

基本情報

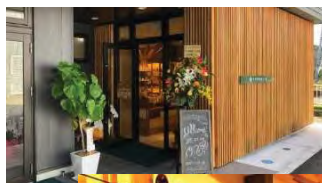
- 所在地：和歌山県有田市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社 早和果樹園
- 選定表彰：
H27ディスカバー農山漁村の宝選定
H29食品産業優良企業等表彰
「農林水産大臣賞」受賞
- 主力商品：農林水産物（みかん）
- 活用している地域資源：
農林水産物、農地、自然
- 主な国等の支援策：
地域経済循環創造事業
交付金（総務省）



みかんの加工品

取組の概要

- 高品質の有田みかん生産とともに、みかんジュース、ジャム、ゼリー、ポン酢等を開発。
- 社員総出で百貨店等で試飲販売を行い、年間60万人を超える消費者と直接対面。
- 平成30年に試飲や試食ができる直営店を開店。



盛況の直営店

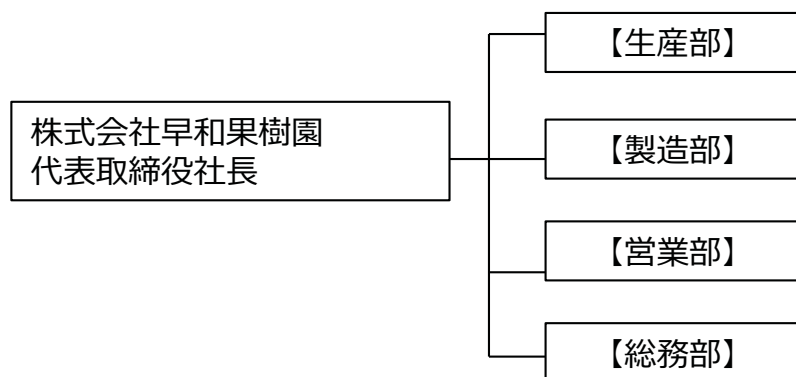


百貨店での試飲等販売



ジュースの生産現場と収穫イベント

体制図



取組の成果

- 売り上げは4.2億円(H23)から9.7億円(R2)と2.3倍に増加。
- 常時60人、臨時80人を雇用するなど、仕事の少ない中山間地域における雇用を創出。

売上げ(億円)



所在地▶和歌山県有田市宮原町東349-2

連絡先▶TEL:0737-88-7279 FAX:0737-88-7218

E-mail:ajiichi@sowakajuen.com

ウェブサイト▶<https://www.sowakajuen.co.jp/>

- 廃校を活用した農家レストラン、宿泊施設や貸し農園などを開設し、都市農村交流を図るとともに、訪日外国人を含む滞在型の旅行誘客にも取り組む。



キーワード

内発的

オーナー制度

都市農村交流

農泊

ICT

基本情報

- 所在地：和歌山県田辺市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社秋津野
- 選定表彰：
H27ディスカバー農山漁村の宝選定
第16回オーライ！ニッポン大賞グランプリ
- 主力商品・イベント：農家レストラン、
宿泊施設
- 活用している地域資源：農林水産物、廃校
- 主な国等の支援策：農山漁村活性化プロジェクト支援交付金、農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- 「農業の衰退が地域の衰退につながる」危機感から、地元農家・一般住民出資による直売所を開設。加工施設を併設し、みかんジュースを製品化する等、住民主体の6次産業化を推進。
- 廃校舎を活用した農家レストラン、宿泊施設、みかんのオーナー制度を取り入れた貸し農園を開設。
- 訪日外国人を含む滞在型の旅行誘客に取り組むほか、ICTオフィスの新設するなど、ワーケーションの取組も開始。



農家レストラン

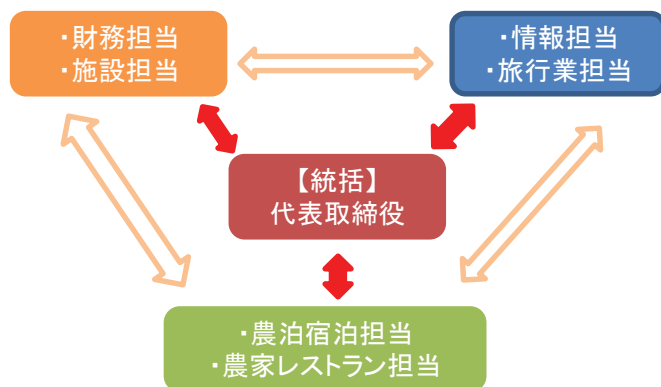


みかんのオーナー制度



ICTオフィスの新設

体制図



取組の成果

- レストランの運営はすべて地域の女性たちが担い、レストランの年間利用者は4万人以上。
- 都市と農村の交流事業を一番の目標に、宿泊者数は年間約4千人（内約650人は欧米オセアニアが中心のインバウンド）。
- 農産物の収穫体験やスイーツづくり、その他の体験では年間約3千人、みかんの樹オーナー制度は年間約450本にオーナーがついている。

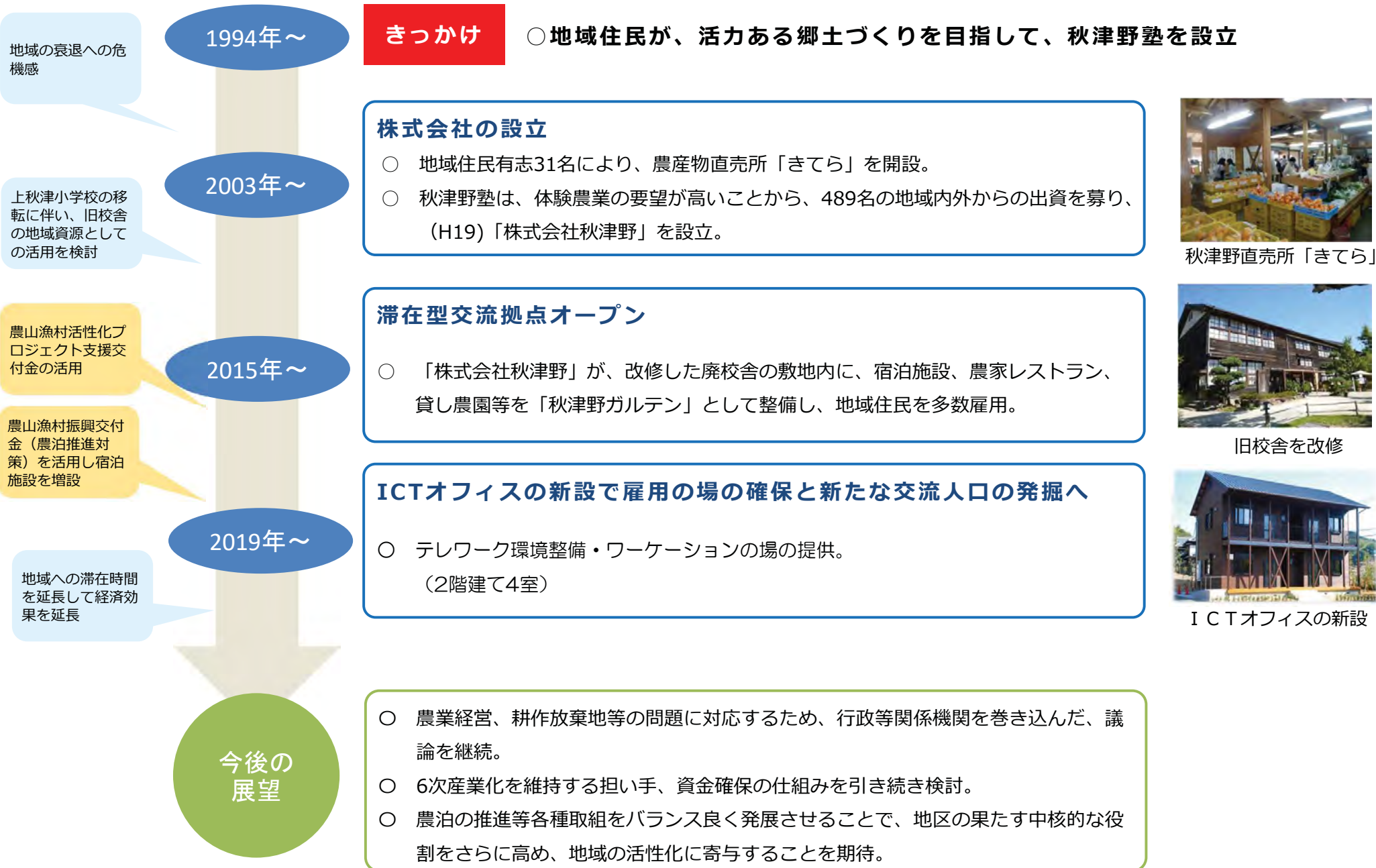
所在地▶和歌山県田辺市上秋津4558-8

連絡先▶TEL:0739-35-1199 FAX:0739-35-1192

E-mail:info@agarten.jp

ウェブサイト▶<https://agri.agarten.jp/index.html/>

【取組のプロセス】



- 食と農に深く関わるJAとして、直売施設を拠点に都市と農村の交流事業を展開し、命を育む食の重要性とそれらを生み出す農業の果たす役割を伝える。



キーワード

内発的

企業

6次産業化

都市農村交流

DMO

基本情報

- 所在地：和歌山県紀の川市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：紀の里農業協同組合
- 選定表彰：
 - H27食と農林漁業食育優良活動表彰「消費安全局長賞」
 - H28「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」受賞
 - H29 SAVORJAPAN認定
- 主力商品：農林水産物（各種）
- 活用している地域資源：農林水産物、直売所
- 主な国等の支援策：
 - H27消費者ニーズ対応型食育活動モデル事業
 - H29～30 農泊推進対策

取組の概要

- 平成12年にめっけもん広場（大型農産物直売所）、平成25年に同広場姉妹店オйнаシティを開設し、既存直売所と合わせ交流の拠点として大きな成果をあげている。これらの直売施設を拠点に、一年を通じて楽しめる多彩なプログラムを取り揃えた体験交流事業を導入。
- 平成30年10月に設立された地域DMO「（一社）紀の川フルーツ観光局」と連携し、さらなる体験プログラムの拡大や、近隣宿泊施設や旅行会社・教育機関等の連携先強化を図っている。インバウンド観光客の拡大を目指し、観光PRや営業活動、受入地の整備を行っている。



親子での米作り体験

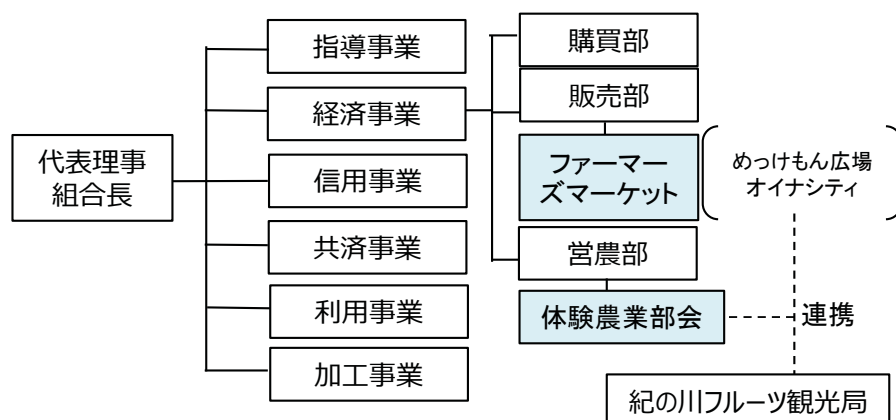


野菜づくり体験



めっけもん広場で食を伝える

体制図



取組の成果

- めっけもん広場の売り上げは2,622百万円(H23)から2,776百万円(H30)へ増加。
- 体験交流プログラムの参加者2,239人(H23)から2,336人(H30)へ増加。



所在地▶和歌山県紀の川市打田1414番地

連絡先▶TEL:0736-77-0810 FAX:0736-77-0377 E-mail:

einou@kinosato.jawink.ne.jp ウェブサイト▶<https://www.ja-kinosato.or.jp/>

○子供達が帰ってきたい・住み続けたいと思う町となるよう、次の世代に継承できる魅力あるまちづくり。

○空き家、耕作放棄地も含めた地域資源を活用し、イノベーション創出。



キーワード

基本情報

- 所在地：鳥取県鳥取市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：いんしゅう鹿野まちづくり協議会
- 選定表彰：
 - H22年手づくり郷土賞 大賞部門
 - H25年地域づくり総務大臣表彰
- 主力商品・イベント：すげ笠御膳
週末だけのまちのみせ、虚無僧行脚
果樹の里山まつり、まちづくり合宿
- 活用している地域資源：空き家、景観、まちなみ、耕作放棄地、文化・歴史
- 主な国等の支援策：
 - 「農」ある暮らし事業 H25～26

取組の概要

- 空き家を食事処「夢こみち」として、地域食材を使った「すげ笠御膳」を提供。
- 鳥取市より「鳥取市移住定住空き家運営業務」を受託し、移住者支援。
- 藍染め暖簾、屋号瓦、風車、蓮畑など地域の団体と協働で景観作りに取組む。
- 地域に似合うイベント「虚無僧行脚」「週末だけのまちのみせ」企画運営。
- 体験メニュー「鹿野ちゃれっじ」作り、空き家活用等4つの大学との連携・交流。
- 果樹の里山協議会に協力して、耕作放棄地を「果樹の里山」へと取組む。
- 果樹の里山まつりを協力して開催。人口60人の集落に2日間で約600人
- 鹿野町内に36ヶ所の継続的空き家活用で移住者受入れ、起業支援を行う。
- 関係人口創出事業を鳥取市と協働で取組む。



食事処「夢こみち」



虚無僧行脚

内発的

若者・大学生

地域資源活用

交流・協働

移住

体制図



取組の成果

- 食事処利用者 約5,000人 (R1)。
- 空き家の継続的活用 36か所 (R1)。
- 移住・定住者 103人 (H25～)。
- 週末だけのまちのみせ来訪者 13,000人 (R1)。
- 果樹の里山、耕作放棄地活用4.5haに。



所在地▶鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1809-1

連絡先▶TEL:0857-84-1188 FAX:0857-84-1188 E-mail:info@shikano.org

ウェブサイト▶www.shikano.org

○ 少子高齢化等による地区存続の危機感から、地区機能維持の仕組みを作るため88個の戦略プランからなる比田ビジョンを策定。平成29年に、ビジョン実現のため地域住民を構成員としたえーひだカンパニー株式会社を設立。



キーワード

内発的

地域おこし協力隊

ドローン

デマンド交通

直売所運営

移住定住

基本情報

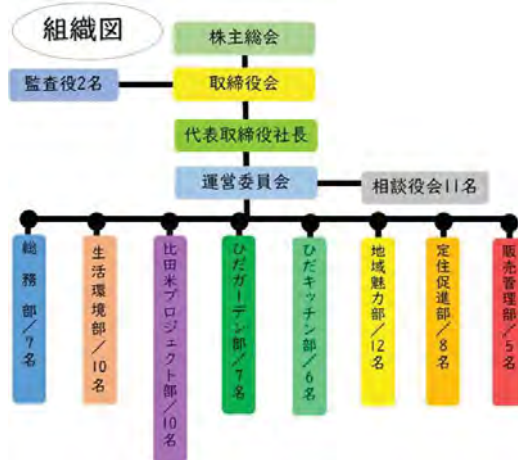
- 所在地：島根県安来市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：えーひだカンパニー株式会社
- 選定表彰：平成30年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定、平成30年度総務省「ふるさとづくり大賞」団体表彰
- 主力商品・イベント：比田米、たたら風(地酒)、たたらラーメン、たたらそば、野菜ドレッシング
- 活用している地域資源：米、小麦、そば、地場産野菜
- 主な国等の支援策：小さな拠点づくり推進事業(島根県)

取組の概要

- 通学・通院や買い物をサポートするデマンド交通事業の実施。
- ドローンを導入して水稻防除受託事業を実施。地元の働く場を創出。
- 地場産野菜を使い、安全安心なドレッシングを開発・販売。地場産米粉によるパンも販売。
- 定住促進として、「えーひだ定住BOOK」を作成。誘致活動を実施。
- 「えーひだ女子会」を結成し、地域食文化の継承などによる地域内外の女性ネットワークづくり。

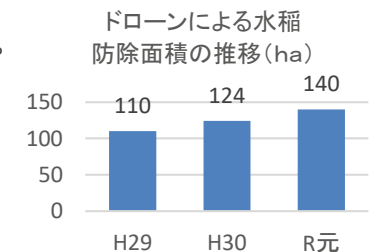


体制図



取組の成果

- ドローンによる水稻防除面積の増140ha (R1)。
- 新規商品増。
- 雇用機会創出。
- 移住人数増。



所在地 ▶ 島根県安来市広瀬町梶福留1268番地

連絡先 ▶ TEL:0854-26-4010 FAX:0854-26-4010

E-mail: ikiikihida@dojyokko.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.dojyokko.ne.jp/~ikiikihida/>

【取組のプロセス】

空き家の増加
耕作放棄地の増加
地域活力の低下

2015年～

きっかけ

○比田を未来へつなげるために、将来の目指すべき姿を住民一体で考えるため、「いきいき比田の里活性化プロジェクト」スタート

2016年～

比田地域ビジョンを作成

- 平成28年、住民同士の話し合いやアンケートにより、10年間の比田地区の取組目標（88個）を具体化した比田地域ビジョンを作成
- 平成28年、地域ビジョン実現のため、任意組織え～ひだカンパニー設立



人が変わっても継続する仕組みの必要性

2017年～

持続可能な組織となるために株式会社化

- 平成29年、え～ひだカンパニー株式会社を設立。
- 平成31年、総務省「ふるさとづくり大賞」団体表彰を受賞。



事業の実績づくり
地域ビジョンの再共有

2020年～

小さな拠点づくりに向けて

- 令和2年、島根県の「小さな拠点づくりモデル地区推進事業」のモデル地区に選定
- 令和2年、山の駅「え～ひだ市場」オープン



収益事業の拡大
雇用の創出

今後の
展望

住民の住民による住民のための株式会社のモデル化

- 水稻・小麦・野菜の農業生産を柱とし、6次産業化を拡大するなど安定的な財源を確保しながら、持続可能な組織を目指し、農村の環境維持と雇用の創出を図る。
- 地域運営組織の設立や運営のノウハウを他地域へ普及していくとともに、地域内外へ比田の取り組みの認知度を高めていく。



○厄介者であったイノシシを地域振興の視点で捉え、農家自ら狩猟免許を取得し、加工処理・ジビエ販売を担う組織として前身の「おおち山くじら生産者組合」を設立。平成29年に更なる体制強化のため株式会社化。



キーワード

内発的

Iターン

ジビエ

6次産業化

食育

移住定住

基本情報

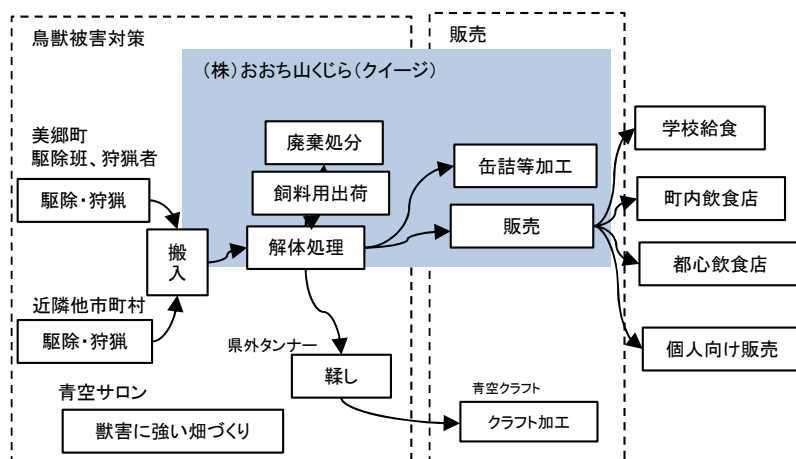
- 所在地：島根県邑智郡美郷町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社おおち山くじら
- 選定表彰：
 - H24年鳥獣被害対策優良活動(団体の部)
 - 農林水産大臣賞
- 主力商品・イベント：
 - イノシシ肉、ポトフやカレーなどの缶詰
 - おおち山くじらフェア
- 活用している地域資源：
 - イノシシ

取組の概要

- 有害鳥獣として町内で捕獲されるイノシシの約7割を集約。専用の施設で食肉処理し、「おおち山くじら」という地域ブランド名で全国に販売。
- 猪肉の缶詰（ポトフやカレーなど）を製造する6次産業化を行っている。イノシシの内臓はペットフード商品の原料などに活用している。
- イノシシの皮をレザー加工。地元婦人会がレザークラフト商品づくりを行うことで女性・高齢者活躍の場を創出。
- 次世代を担う子供たちへ自然との共存・共栄の大切さを伝える食育活動を実施。



体制図



取組の成果

- 捕獲と処理を分業をすることで、捕獲者の手間が軽減、町民100余名が狩猟免許を所持。
- 常勤スタッフ4名全員が県外からのIターンで移住、定住。
- 地域住民をパートタイマーとして5名雇用創出。
- マスメディアに取り上げられる機会も多く、視察者数や講演依頼も多数。

所在地 ▶ 島根県邑智郡美郷町乙原363

連絡先 ▶ TEL:0855-75-0887 FAX:03-6745-5739 E-mail:info@yamakujira.jp

ウェブサイト ▶ <http://yamakujira.jp/>

農作業のストレス軽減効果を見える化した、農業セラピー（アグリヒーリング）の新ビジネス創出を構想



キーワード

内発的

大学医学部

農村セラピー

基本情報

- 所在地：岡山県岡山市
- 地域指定：—
- 団体名：有限会社スコレー、順天堂大、
（株）ヤンマー、農業生産者
- 主力商品・イベント：
果樹、洋ラン、農業体験
- 活用している地域資源：
農園
- 主な国等の支援策：
岡山市ヘルスケア産業創出・育成支援
事業（H29年度）

取組の概要

- ・ 2017年、果樹や洋ラン栽培のスコレーなど岡山
県内の農業生産者が、順天堂大、ヤンマーなどと連
携して、農業セラピーの実証実験を実施。
- ・ 洋ラン・地域農業者圃場での農村体験前後で参加
者の唾液を分析、大半の被験者でコルチゾール平均値
が約半分まで減少。
- ・ 順天堂大は、ストレス軽減の実証データを提示する
農業体験プログラムを作成し、企業向けメンタルリフ
レッシュサービスを提供する。（複数地域で進行中）
- ・ 2018年11月、JA全中と順天堂大が実証調査を実施（⇒「取組の成果※1」参照）
練馬区の体験型農園の利用者40人を対象に、収穫作業の前後に唾液成分を測定し、
気分に関するアンケートも実施



（写真：スコレー）

（写真：順天堂大）

体制図

○連携して実証

（有）スコレー

洋ラン等栽培

順天堂大学

ホルモン計測技術 ※2

（株）ヤンマー

イチゴの移動栽培装置

農業生産者

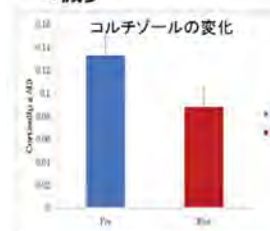
※2 唾液内のストレスに関するホルモンのコルチゾール、
幸福度を表すホルモンのオキシトシン等を計測

取組の成果※1

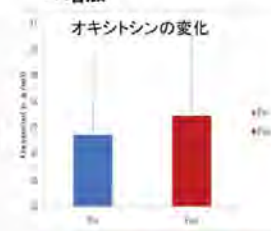
- ・ 農作業を行うことによ
って、ストレス解消、
幸福度が向上

※このほか、順天堂大は、
農業・農村体験によるスト
レス軽減の期待値を予測す
るメソッドを研究

ストレスに関するホルモン
⇒減少



幸福度を表すホルモン
⇒増加



（データ：順天堂大）

所在地 ▶岡山県岡山市北区御津吉尾447

連絡先 ▶TEL: 086-724-4390 FAX: 086-724-1748 E-mail:

ウェブサイト ▶<http://www.scre.jp/company.html#access>

○人と自然をテーマとする地域総合商社として、起業人材の育成、森林ブランドの林水産物販売、福祉事業等を展開。



キーワード

内発的

イターン

人材育成

地域商社

森林ブランド

基本情報

- 所在地：岡山県西栗倉村
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：エーゼロ (株)、※ (株) 西栗倉・森の学校の経営管理業務等も引継。
- 主力商品・イベント：研修、森のうなぎ、森のジビエ等
- 活用している地域資源：森林、うなぎ、ジビエ
- 主な国等の支援策：地方創生推進交付金他（内閣府）農林水産業みらい基金



取組の概要

- 2015年10月、西栗倉村で、人や自然の本来の価値を引きだし、地域経済を醸していくことを目的に設立。現在は、北海道厚真町、滋賀県高島市に事業展開。
- ◆ ローカルベンチャー支援事業（西栗倉村・厚真町）
 - ・ 起業をめざす地域おこし協力隊や新規事業への支援、コーディネート
 - ・ ローカルベンチャースクール：西栗倉村と厚真町で提供する移住×起業を促進
- ◆ 不動産関連事業（西栗倉村）
 - ・ 古民家の改装やシェアハウスの運営、村営住宅の管理を受託し、移住者、起業家などの方に西栗倉村での暮らしをサポート
- ◆ 自然資本事業（西栗倉村）：森のうなぎ、森のジビエ、ふるさと納税事業
- ◆ 福祉事業（高島市、西栗倉村）：100%子会社を設立し、滋賀県高島市における就労支援事業、西栗倉村にて福祉分野の地域おこし協力隊のサポート等 他

体制図

エーゼロ (株)

- ・ 地域人事部事業 採用支援、移住・起業支援、
- ・ 地域営業部事業 ふるさと納税、地域CRMアプリ開発運営
- ・ 不動産事業 不動産仲介・売買・管理、公共施設管理等
- ・ 自然資本事業 養鰻業、獣肉加工、農業など
- ・ 福祉関連事業（就労支援B型、グループホーム）



ベンチャースクール



森のうなぎ



森のジビエ

取組の成果

- スタッフ約40名（社員25名、パート15名）
- 売上約3.5億円
- 関連会社：株式会社西栗倉・森の学校（約30名、売上約4億円）



不動産関連事業

所在地▶岡山県英田郡西栗倉村影石895（旧影石小学校内）

連絡先▶TEL:0868-75-3058 FAX: E-mail:

ウェブサイト▶<https://www.a-zero.co.jp/>

- 木質バイオマスを核として、豊富で多様なバイオマスエネルギー利用、バイオマス産業観光・学習推進による地域ブランドの向上。



キーワード

内発的

木材産業

バイオマス

観光

基本情報

- 所在地：岡山県真庭市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：真庭バイオマス産業都市推進協議会
- 選定表彰：
 - ジャパン・レジリエンス・アワード2016 先進エネルギー自治体大賞金賞（準グランプリ）、バイオマス大賞グランプリ H25バイオマス産業都市選定
- 主力商品・イベント：木質チップ、バイオマスツアー真庭
- 活用している地域資源：バイオマス
- 主な国等の支援策：森林整備加速化・林業再生基金

取組の概要

- 未利用や産廃処理されていた木材を資源として有効活用するために、官民一体となった「木材資源安定供給協議会」を設立。木材購入費のうち、山林事業者へ利益還元する仕組みを構築。
- 地域バイオマスを活用した発電事業を実施。今後は、地域内への電力供給を広げていき、エネルギーの地産地消を展開していく予定。
- また、エネルギー以外の利用として、バイオマスリファイナリー事業も進めているほか、バイオマス利活用の取組を学べる「バイオマスツアー真庭」が開催されるなど、市の様々な産業を巻き込んだ取組を展開。

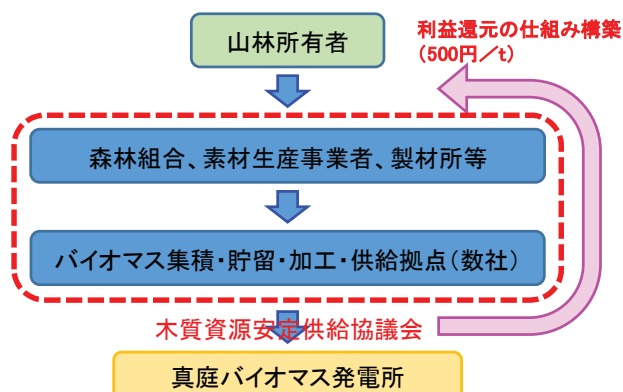


集積基地

真庭バイオマス発電株式会社
〈地域関係団体で構成する新会社〉

バイオマスツアー

体制図



取組の成果

- 約200人の林業・木材関係事業者の雇用拡大
- 経済効果 売上約23.2億円、石油代替 約25.1億円相当
- 年間1億円以上の処理費をかけていた未利用木材が有価で取引
山林事業者への還元見込額は、約1.6億円
- 年間1,000人以上のバイオマスツアーの参加

所在地▶岡山県真庭市久世2927-2 真庭市産業観光部林業・バイオマス産業課
 連絡先▶TEL:0867-42-5022 FAX:0867-42-3907
 E-mail:biomass@city.maniwa.lg.jp
 ウェブサイト▶http://www.city.maniwa.lg.jp

【取組のプロセス】

国内生産財の価格
低迷
木質副産物の利活
用を検討

1993年～

きっかけ

○ 地域内の若手リーダーが中心となり、「21世紀真庭塾」を結成

木質資源活用産業クラスター構想を設立

- 2000年に木質資源活用産業クラスター構想を設立。着実に進めるため、森林組合の参画を得て、体制強化
- 2009年に真庭市内木材産業関連団体により、「真庭バイオマス集積基地」が稼働開始



固定価格買取制度
の開始

2000年～

真庭バイオマス産業都市構想を策定

- 2013年真庭市がバイオマス産業都市に選定され、「真庭バイオマス産業都市構想」を策定。バイオマス利活用の取組を真庭市のプロジェクトに位置づけて推進
- 2013年「真庭バイオマス発電株式会社」、「木質バイオマス安定供給協議会」が発足



2013年～

真庭バイオマス発電所が稼働開始

- 2015年より「真庭バイオマス発電所」が稼働開始
- 2016年より、真庭市、一部民間企業への電力供給を開始
- 約200人の林業・木材関係事業者の雇用拡大、経済効果 売上約23.2億
- 年間1,000人以上のバイオマスツアーの参加



SDGsの推進。木
材産業を中心とし
た更なる発展に向
けて

2015年～

「エネルギーの森」構想の実現へ

- 広葉樹や早生樹への展開により、木質バイオマス発電コストの低減、里山の活性化、地球温暖化防止に貢献
- インバウンド強化、定住を意識した体験型ツアーを創出



今後の
展望

○ 115年余り続いた「阿波村」は、平成17年の合併によりその歴史に幕を閉じた。合併後は人口が急減。住民自治協議会事業のモデル地区指定を受け取組を開始。自然・暮らしを後世に引継ぐ決意として「あば村宣言」発表。



キーワード

外部との連携

地域おこし協力隊

6次産業化

都市農村交流

再生可能エネルギー

基本情報

- 所在地：岡山県津山市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：あば村運営協議会
- 選定表彰：
 - H27年過疎地域自立活性化優良事例表彰
- 主力商品・イベント：氷温米、味噌、餅ふるさと祭り、星空まつり、まるごとかじり市
- 活用している地域資源：農林水産物、森林、廃校、古民家・空き家、文化・歴史、景観、バイオマス、自然（山、川など）
- 主な国等の支援策：
 - 都市農村共生・対流等交付金
 - 農山漁村振興交付金（都市農村共生・対流）

取組の概要

【ローカル・アバノミクス（3本の矢+1）】

- 第1の矢 住民出資の合同会社を設立し、J A撤退後のガソリンスタンドの存続や小さな拠点形成の取組み。
- 第2の矢 地域の食のブランド化（あば村ブランド）に向けた新商品の開発・販売と後継者の育成。
- 第3の矢 都市農村交流人口の拡大や移住・定住促進の取組み。
- 第4の矢 小水力発電事業の事業化による地域の持続的運営。



小さな拠点の中核、あば商店



移動販売車

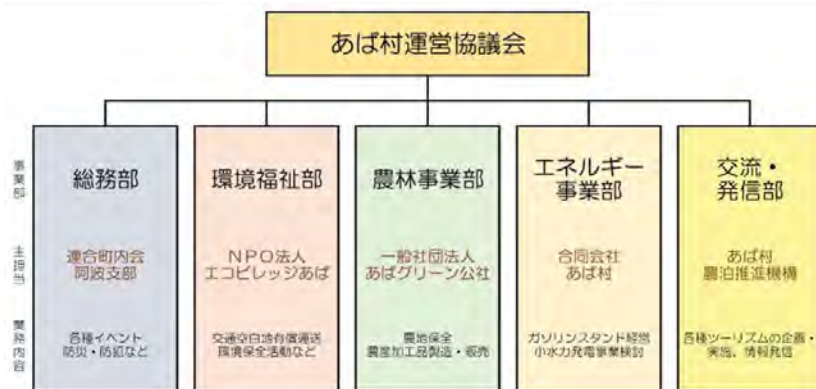


味噌造り



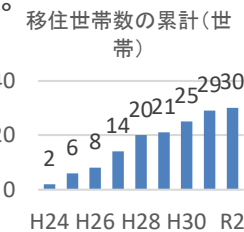
あば温泉

体制図



取組の成果

- 過疎地有償運送事業利用者の増 89人/月（H30年度）。
- あば商店・ガソリンスタンドの売上 35,000千円/年（H30年）。
- あば村ブランド商品の増。
- 移住・定住者の増 30世帯62人。（H24.2～R2.3、延べ人数）



所在地▶岡山県津山市阿波1220番地

連絡先▶TEL:090-7502-2456 FAX:0868-46-2002 E-mail:info@abamura.com

ウェブサイト▶abamura.com

○近隣の小学校が閉校し、過疎化・高齢化傾向が一層危機的状況に。新たな行事や各種農業施策を模索するなか、地域おこし協力隊などの協力により外部視点を取り入れ、移住者増を目的に据えた村おこし活動を開始。



キーワード

外部との連携

移住者

移住・定住

学生団体

空き家対策

基本情報

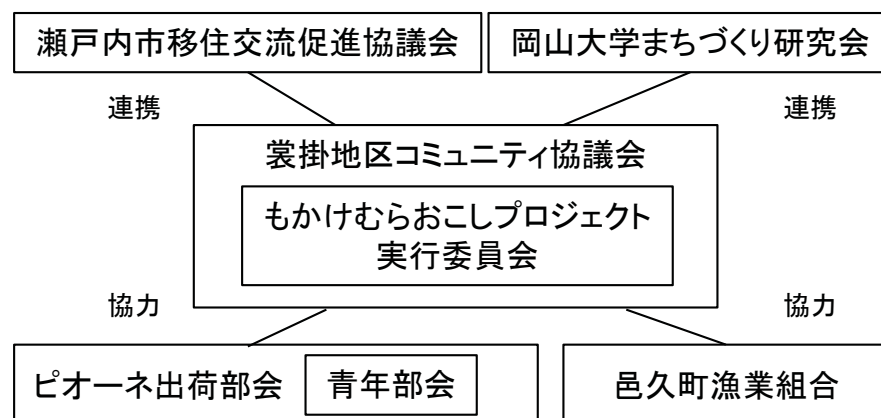
- 所在地：岡山県瀬戸内市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：裳掛地区コミュニティ協議会
- 選定表彰：
 - H28年地域づくり推進賞
 - H29年岡山県知事賞
 - R2ディスカバー農山漁村の宝選定団体
- 主力商品・イベント：
 - ピオーネ、牡蠣などの一次産業、加工品
- 活用している地域資源：
 - 農林水産物、文化・歴史
- 主な国等の支援策：
 - 農村集落活性化支援事業（H27～R元）

取組の概要

- 地域の空き家や遊休農地を独自に整備・中間管理し、移住希望者へ紹介。
- 移住相談会への出展、農業体験の受入れ、地域の行事での大学生ボランティアの受入れなど、様々な交流機会を創出。
- 地域内の道の駅を活性化するための映画上映イベントを開催し、移住者と住民が出店するマルシェを同時開催するなど、活動の継続化を図る取組みも実施。

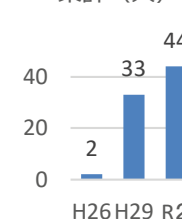


体制図



取組の成果

- 空き家・遊休地整備（空き家整備20余軒、農地復元3ha強）。
- 外部との交流受入れ（移住者受入延べ18世帯40名程度）。
- 新規就農者等確保（移住者のうち、4世帯が農業従事）。
- 相談会等への出展（JOIN移住交流&地域おこしフェア6回など）。
- 映画上映イベントにおける地域内外の交流（来場数300名強）。

移住者数の
累計（人）

所在地▶岡山県瀬戸内市邑久町尾張300-1（瀬戸内市役所企画振興課）

連絡先▶TEL:0869-22-1031 FAX:0869-22-3304 E-mail:info@mokake.com

ウェブサイト▶http://www.mokake.com

○人口減少とともに産業は衰退、買い物する場所さえもなくなっていった。地域の将来をどうデザインすれば誇りを持ち住民が安心して暮らせるかが最重要課題となり、ビジョン策定委員会を立ち上げ地域の将来像を住民自ら描いていった。



キーワード

内発的

ボランティア

企業連携

都市農村交流

スマートシティ

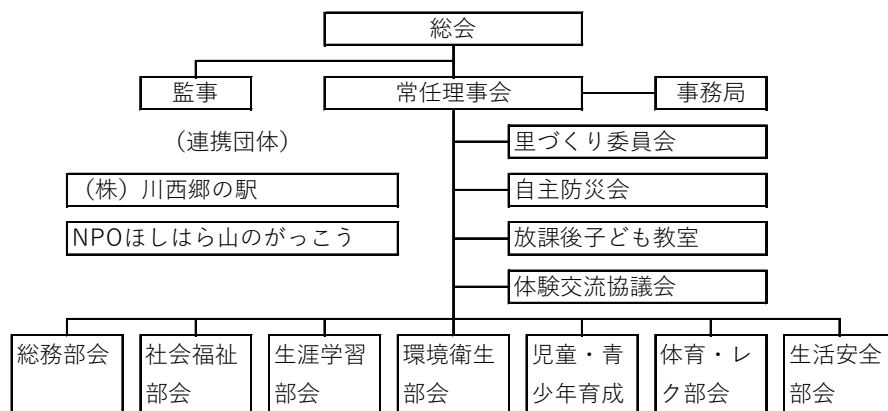
基本情報

- 所在地：広島県三次市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：川西自治連合会
- 選定表彰：
 - H29年度 手作り郷土賞選定証 (国土交通省)
- 主力商品・イベント：
 - ライド&ウォーク
- 活用している地域資源：
 - 川西郷の駅
- 主な国等の支援策：
 - 農村集落活性化支援事業（H27～R元）

取組の概要

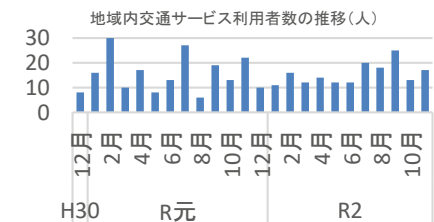
- 「川西郷の駅」がオープン（H29年）し、コンビニ、農産品や加工品の直売所、軽食食堂の部門がスタート。今後、防災・福祉・体験交流等複合的機能を有する施設に成長できるよう調査・研究中。一つの取組みとして、H30年度に瀬戸内サイクリンググループと連携した「川西よりみちライド&ウォーク」のイベントを開始。
- H30年度から、広島県・三次市・マツダ株式会社と連携して、スマートフォンアプリを活用した地域内交通サービスを開始。
- R元年度から、マツダ株式会社他多くの企業とコンソーシアムを組み、地域版スマートシティのモデル事業を開始。
- 連携団体のほしはら山のがっこう・川西郷の駅とともに農泊推進事業を受け、食の魅力発見や農家民宿開業支援などの研究を開始。
- R2年度から、スマートシティモデル事業において、情報の受発信を可能とする川西暮らしアプリや遠隔健康教室などの実証実験を開始。

体制図



取組の成果

- 「川西郷の駅」は、1日平均800人の来店があり賑わいを見せている。
- ライド&ウォークの参加者は60人（R元）。
- 地域内交通サービスの利用者は220人（R元）。
- 移住者（U・J・I）32名（H27～R2）。



所在地▶広島県三次市三若町2651-1

連絡先▶TEL:0824-69-2526 FAX:0824-69-2526 E-mail:kawanishi@m-city.jp

ウェブサイト▶

○ 高齢化・過疎化問題の対応として、体験交流型観光を推進し、都市の学生と島の住民が交流を深め、地域の活性化や経済効果に貢献することを目指し協議会を設立。



キーワード

外部との連携

商工会

住民

民泊

伝統の継承

基本情報

- 所在地：広島県豊田郡大崎上島町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：大崎上島海生体験交流協議会
- 主力商品・イベント：
 - まるごと島体験
- 活用している地域資源：
 - 伝統文化、漁業、農業、アウトドア、伝統工芸
- 主な国等の支援策：
 - 離島活性化交付金、町補助金

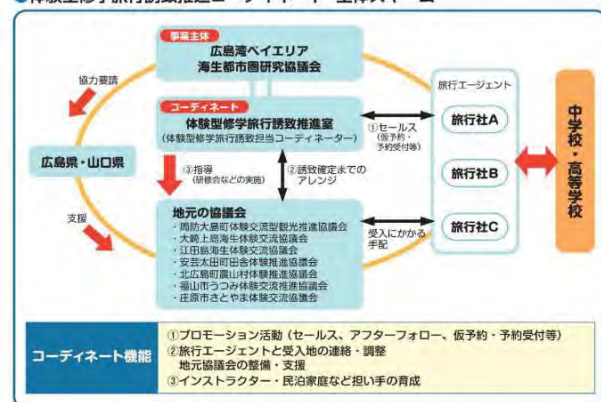
取組の概要

- 島民と都市の学生の人生に大きく影響を与える出会いを願い、H25年度より民泊を利用した体験型修学旅行を誘致。
- 第二の故郷として再び来島するきっかけづくりとして、「心豊かな田舎暮らし」を体験するための伝統文化・漁業・農業・アウトドア・伝統工芸・もの作り体験など、まるごと島体験メニューを提供。



体制図

● 体験型修学旅行誘致推進コーディネート 全体スキーム



取組の成果

- 体験型修学旅行による来島者増 22校・3,252人（R元）。
- 民泊受入登録数の増 160軒（R元）。
- 体験型修学旅行受入による経済効果増 59,511千円（R元）。

体験型修学旅行
受入校数の推移
(校)



所在地 ▶ 広島県豊田郡大崎上島町東野6625番地1
 連絡先 ▶ TEL:0846-65-3123 FAX:0846-65-3144
 E-mail:shinko01@town.osakikamijima.lg.jp
 ウェブサイト ▶

○主産業である農業の経営環境の悪化等により、若者は地域外へ流出。状況打破のため住民主導で取り組む夢のあるまちづくり実行計画を策定。農業や地域資源を活用しながらむらづくりを進めるため活動を開始。



キーワード

外部との連携

学生ボランティア

地域おこし協力隊

移住・就農

6次産業化

企業等連携

基本情報

- 所在地：徳島県阿南市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：NPO法人加茂谷元気なまちづくり会
- 選定表彰：
 - H29年豊かなむらづくり表彰事業 農林水産大臣賞
 - H28年徳島県優良農村集団知事表彰
- 主力商品・イベント：大学生の農業体験受入（毎年80名）、新・農業人フェア出展（大阪、東京）、体験ツアー実施、農産物の店舗内産直市出荷、休校中の小学校を利用した音楽とマルシェのマッチングイベント（かもかもフェスタ）ほか
- 活用している地域資源：移住・就農者用 に、空き家・空き農地・空きハウスの斡旋
地域の農産物の販売支援
- 主な国等の支援策：地域おこし協力隊、あわの農山漁村（ふるさと）魅力創生事業（活性化モデル事業早期ビジョン実現タイプ）、ふるさと農山漁村支援事業

取組の概要

- 都市部（東京・大阪）での就農誘致イベントに住民が参加し、地域を自らPR。
- 短期体験ツアーを開催し、空き家・空き農地を活用した農作業体験。
- 関東の大学生を農業インターンシップとして大規模に受入れ。
- 移住希望者には生活面から営農指導までトータルサポートを行い、移住者を毎年受入れ。
- 関西や県内スーパーと提携し、農産物等を店舗内産直市で販売し、手数料収入で活動資金を確保。
- 休校中の小学校を利用して、音楽とマルシェのマッチングイベント（かもかもフェスタ）を開催。
- 地域おこし協力隊2名を受入れ地域活性化に寄与。



取組の成果

- H27年以降、移住者は毎年増加（18組、72名）。
- 大学生のインターンシップを毎年継続。
- 店舗内産直市販売の売上高、会員数は毎年増加、地域に活気がでている。
- 移住者グループを中心としてカフェ・レストラン、パン屋、コーヒー豆店、夏場カフェ店などが営業し、賑わいづくりに寄与。
- 移住者が中心となって、かもかもフェスタ、ほっこり十町市開催で地域活性化。

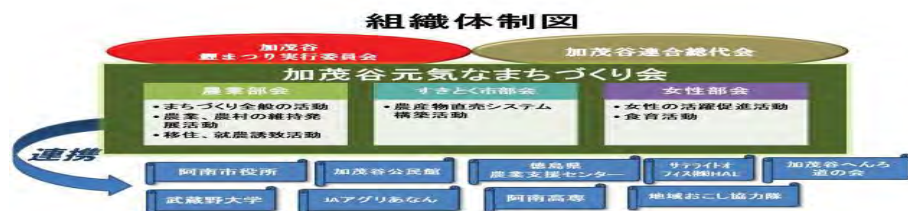
所在地▶徳島県阿南細野町中上17

連絡先▶TEL:0884-25-0608 FAX:0884-25-0608

E-mail:Yamashita-27@mc.pikara.ne.jp

ウェブサイト▶<http://kamodani.com/>

体制図



○ICT システムを活用して、料理を彩る葉っぱを出荷。女性や高齢者が活躍。



キーワード

内発的

高齢者

女性

農業

ICT

基本情報

- 所在地：徳島県勝浦郡上勝町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社いろどり
- 選定表彰：■2002年アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー日本大会特別賞・2002年地域活性化貢献特別賞■2003年日本ソフト化大賞■2005年日経情報化大賞 CANフォーラム賞■2005年フィランソロピー大賞特別賞■2009年日本マーケティング大賞奨励賞■2012年IT Japan Award 2012準グランプリ受賞
- 主力商品・つまもの生産販売・人材育成事業
- 活用している地域資源：野山の季節の葉や花、山菜など
- 主な国等の支援策：1998年通産省「地域総合情報化システム整備事業」・2010年内閣府「地域社会雇用創造事業」・上勝町「起業人材確保育成支援事業」

取組の概要

- 日本料理を彩るつまものを栽培・出荷・販売。
- ICT技術の活用により、最新の受注情報を確認しながらの作業を可能に。
- インターンシップ事業・農業体験による彩農業後継者育成と移住者増の取組み。



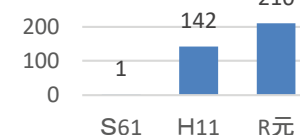
体制図



取組の成果

- つまものの販売による年商は約2億4,000万円（令和元年）。
- 町が有名になり視察・観光客が増加。映画化された。
- 町内移住者の増加。中には新規ビジネスの起業者も。
- 上勝町がSDGs未来都市に選定される一因となった。

彩(いろどり)売上高の推移(百万円)
※農協の彩部会の売上のみ計上



所在地▶徳島県勝浦郡上勝町大字福原字平間71-5

連絡先▶TEL:0885-46-0166 FAX:0885-46-0577 E-mail:info@irodori.co.jp

ウェブサイト▶www.irodori.co.jp

○高松市内商店街で五名地区を紹介する展示会への出展を契機に、特産品や加工品を販売する「ふるさとの家」の運営開始。
五名小学校の閉校、JA、市役所等中心地が衰退していく中、平成25年小学校跡地利用検討と活性化のため協議会設立。



キーワード

内発的

移住者

ジビエ

移住・定住

6次産業化

基本情報

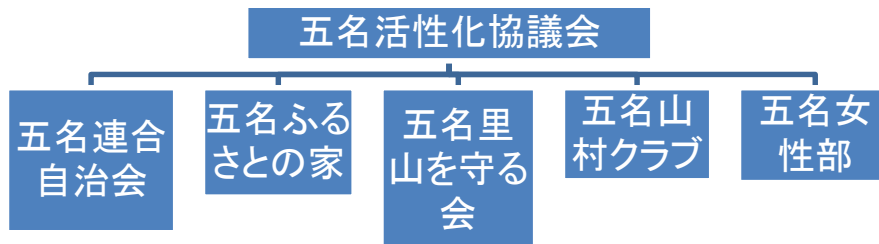
- 所在地：香川県東かがわ市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：五名活性化協議会
- 選定表彰：
H27全国過疎地域自立促進連盟会長賞
- 主力商品・イベント：
イノシシ肉、薪、炭
五名3大まつり(五名ふるさとまつり等)
- 活用している地域資源：
野生鳥獣、森林
- 主な国等の支援策：
地域創生推進交付金（H28～H30）
香川県里山資源活用推進事業(H27～R元)

取組の概要

- 里山整備に伴って出る木材を、薪や炭などに加工して販売するとともに、獣害対策で捕獲したイノシシを食肉加工し、「五名ジビエ」として販売。
- 空き家となった古民家を移住者向けの体験宿泊所として運営するほか、五名マップの作成や子供たちを対象とした体験イベントなど、地区の魅力を伝える取組を実施。
- 「新五名ふるさとの家」をオープンさせ、地区の魅力の発信拠点として活用。

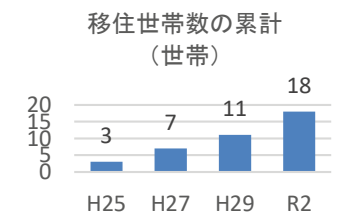


体制図



取組の成果

- 「五名ジビエ」は、東かがわ市のふるさと納税返礼品として好評。
- 人口300人程度の地区に18世帯41人余りの移住者（R2年）
- 「新五名ふるさとの家」は移住者が責任者となり運営。



所在地 ▶ 香川県東かがわ市五名1400
 連絡先 ▶ TEL:0879-29-2832 FAX:0879-29-2832
 E-mail: gomyou.activatept@gmail.com
 ウェブサイト ▶ <http://www.gom-you.com>

○2004年（平成16年）、地域協同組合を設立。柑橘を中心に、加工品を含めたブランド化を推進。福祉事業等の多角化により女性が活躍する雇用の場を創出。



キーワード

内発的

企業

協同組合

6次産業化

移住・定住

農福

地域コミュニティ

海外連携

基本情報

- 所在地：愛媛県西予市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：地域協同組合無茶々園
- 選定表彰：
 - H28年農林水産祭むらづくり部門天皇杯
- 主力商品・イベント：
 - 柑橘類、加工品、海産物
- 活用している地域資源：
 - 段々畑
 - （農業遺産、文化的景観）
 - 旧狩江小学校
- 主な国等の支援策：
 - 果樹経営支援対策事業



取組の概要

- 地域の生産者グループとして創業し、国内有機農業の先駆けとして、柑橘類の栽培管理・販売システムの確立、加工品等のブランド化により生産者数・事業規模を拡大。
- 漁業者と連携して、山と海の環境保全活動の実践、真珠や水産物等の加工・販売。
- 女性が活躍する福祉事業や配食サービス、段々畑の観光等、雇用を創出。
- 新規就農者の受け皿となる農業生産法人の設立、運営。



無茶々園の加工品

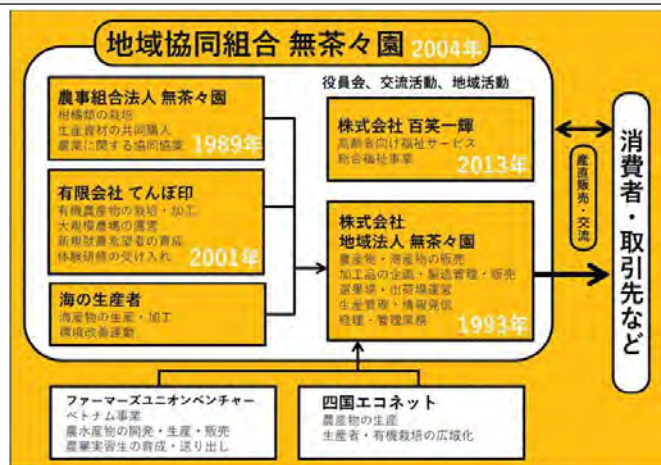


福祉事業での女性の活躍



新規就農者の生産法人・てんぽ印

体制図



取組の成果

- グループの売上は11億円超（R1）。
- 生産販売事業では新規雇用者の7割が県外から社員58名で平均年齢39歳（福祉以外）。
- 福祉事業では女性中心に63名が活躍（R2）。



所在地▶愛媛県西予市明浜町狩浜2-1350
 連絡先▶TEL:0894-65-1417 FAX:0894-65-1638
 E-mail: muchachaen@muchachaen.jp
 ウェブサイト▶<https://www.muchachaen.jp>

【取組のプロセス】

農業や化学肥料の使用を前提とした近代農業へ疑問

1974年～

きっかけ

○当時の青年農業者3名が農地13aを借り受け、伊予柑の有機栽培を開始

消費者等と直接結びついた産直販売に活路

1977年～

有機農業事業が拡大・成長

- 1977年（昭和52年）、「無茶々園」ブランドの伊予柑を期待の価格で販売。無茶々園の取り組みが一躍全国に知られ、一定の栽培体系確立。
- 1989年（平成元年）に農事組合法人無茶々園、1993年（平成5年）に株式会社地域法人無茶々園を設立。消費者や生協などと直接結びついた産直販売を拡大。



果樹経営支援対策事業を活用して改植や園地整備に取り組む。

2001年～

地域協同組合無茶々園設立

- 2001年（平成13年）には、大規模有機農業を実践する直営農場として「有限会社てんぼ印（旧名称：ファーマーズユニオン北条）」を設立。また、「四国エコネット」を立ち上げ、明浜町外にも生産者を拡大。
- 2004年（平成16年）にグループをまとめる「地域協同組合無茶々園」を設立。



地域の高齢化率が約5割（平成22年）となる

2015年～

販売事業の拡大とともに、福祉事業等にも参入

- 2013年（平成25年）には、福祉事業を行う「株式会社百笑一輝」を設立。女性のホームヘルパーなど約60名が活躍している。
- 2016年（平成30年）、廃校になった狩江小学校内に事務所を移設。
- 2019年（令和元年）には生産者約200名、個人顧客約1万人、法人顧客約300社、農業産出額は9億円超となる。



地域の小学校の閉校や農家の高齢化で地域の過疎化進行が顕在化する

国の事業を活用して出荷場・選果設備の整備を計画中。

今後の展望

持続性を高め、地域の課題解決に取り組む組織へ

- 一次産業主体で過疎化の進む中山間地において、柑橘の有機栽培化をきっかけとして、地域の産業と暮らしを自ら確立できるように取り組んできた。
- 販売先と連携して地域の基幹産業である柑橘栽培を維持していくほか、新規就農者の育成、海外（ベトナム）との連携、都市との交流推進などを通して地域の持続性を高めていく。



- 平成23年、「株式会社いとしのいとしま」を設立。SNS等を通して水産業が抱える課題を伝え、「地魚BANK」の会員から資金・アイデア等を集め、新サービスを生み出し課題を解決し、地魚の魅力を伝える取り組みを展開。



キーワード

内発的

漁協

漁師

6次産業化

都市農村交流

農泊

基本情報

- 所在地：福岡県糸島市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：株式会社 いとしのいとしま
- 選定表彰：R2年「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」全国選定
- 主力商品・イベント：地魚海鮮丼、「うお旅」…等
- 活用している地域資源：地魚、水産業
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- 生産者支援を目的に「糸島産のみしか使わない」「絶対に値下げ交渉をしない」をコンセプトとした飲食店を2店舗オープン。
- 「地魚BANK」、SNSオンライングループによる情報発信・会員との連携により、ビーチクリーンアップ活動や飲食・加工品メニュー開発を実施。
- 漁協を始めとする漁業関係者と連携し、「地魚博覧会」等のイベントを通じて、美しい伝統ある農山漁村を次世代に継承している。
- 糸島地魚ツーリズム推進協議会を設立。「うお旅」を企画し、農泊事業に取り組む。



地魚のみ使用の海鮮丼

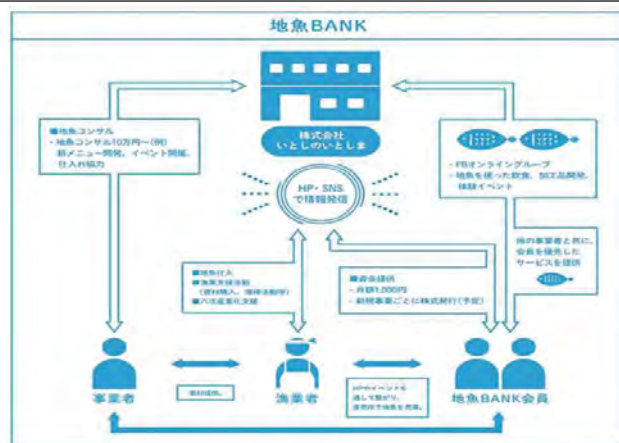


地魚博覧会の開催



伝統漁法について学び食する「うお旅」

体制図



取組の成果

- 飲食、加工事業の売上げは3千5百万円（R元）
- 地魚BANKのSNS会員数は、事業開始年度（H30年度）は100名、翌年のR元年度は300名と3倍に増加。



所在地▶福岡県糸島市志摩津和崎33番地1

連絡先▶TEL: 092-324-1022 FAX: 無し E-mail: itoshima39gmail.com

ウェブサイト▶ <http://zizakanabank.com>

【取組のプロセス】

地魚のみを使った「地元でしか味わえない」海鮮丼を求める客で、にぎわうようになる。

2011年～

きっかけ

○糸島漁協が経営する直売所の活性化を目的に、地魚のみを使った飲食店のオープンに任される。日々の営業の中で、資源の枯渇、漁業者の減少、魚価の低迷等、地魚を取り巻く課題に直面。消費者と生産者が一体となって、課題を共有・解決に取り組むための仕組み「地魚BANK」を立ち上げる。

生産者支援を事業化した新たな店舗をオープン

○平成27年3月、海鮮丼以外でも地魚の魅力を伝えるため、地元産ハマグリやシシ肉、アスパラ等の糸島野菜の料理を提供する新たな店舗をオープン。その他にも地エビを使った加工品製造やイベント出店等を通し、多角的に地元産食材の魅力を伝える取り組みを開始。

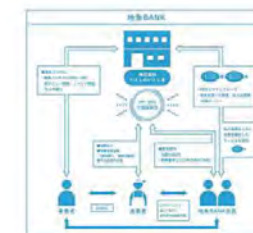


地元エビ漕ぎ漁のPRを目的にイベントや加工品製造を行う「二丈ジエビ食堂」を開始

2015年～

地魚 BANK事業開始

○平成30年12月に、全ての事業コンセプトを統一し「うまい魚をこれからもずっと」食べられる社会の実現のため、生産者と消費者が主客一体で取り組もうとする「地魚BANK」を立ち上げる。併せて会員募集を開始。会費やクラウドファンディングにより活動資金を集める。



農林水産省「車座ふるさとトーク」にて地魚 BANK 活動紹介

2018年～

糸島地魚ツーリズム推進協議会設立

○平成31年3月に、漁協、漁業関係者、観光協会等を構成員とした糸島地魚ツーリズム推進協議会を設立し、農泊事業の取り組みを開始。「うお旅」等の観光コンテンツを開発により、地魚をはじめとした地元産食材のさらなる価値向上を目指す。



農山漁村振興交付金（農泊推進対策）の活用

2019年～

未利用魚の活用を目的に、クラウドファンディングで加工場「地魚ラボ」を建設

今後の展望

未来の漁業をまもるための取組や地魚の価値向上に取り組む

- 飲食、加工品、イベント、SNS、農泊、様々な方法で地魚の魅力を伝え続ける。
- 九州大学と連携し、漁業残渣等の有機物を活用した燃料電池エネルギー開発等、漁業が抱える課題を多面的に解決する。
- 地魚 BANKの会員（一般消費者、事業者）と一緒にアイデアを産み出し、同時にロイヤルカスタマーとして囲い込むスキームを作り上げる。そのスキームを糸島でブラッシュアップした上で、日本全国の浦々に広がっていく。



- 平成14年、地元企業や学校との連携による地域活性化及び心豊かな人材を育むことを目的に会を発足。棚田の保全活動や都市農村交流、棚田米を使用した純米酒の製造、販売等を通して、地域好循環型社会を構築。



キーワード

内発的

企業

学生

6次産業化

都市農村交流

棚田保全活動

基本情報

- 所在地：佐賀県伊万里市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：すみやま棚田守る会
- 選定表彰：R元年「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」全国選定
- 主力商品・イベント：純米吟醸すみやま・農業体験、そば打ち体験、棚田イルミネーション
- 活用している地域資源：棚田、農産物
- 主な国等の支援策：過疎集落等自立再生対策事業（総務省）

取組の概要

- 都市部との交流を目的にオーナー制度を設け、オーナーが田植え、稲刈りに参加している。
- 農業体験「山桜」を建設し、地元食材で、そば打ち体験や地元料理を提供。
- CATV・地元酒造会社と連携し「純米吟醸すみやま」を製造販売。ふるさと納税の返礼品に選定されるとともに、仏の日本酒品評会で金賞受賞。
- 大学と連携した棚田での農業体験をテーマとした研究や水力発電によるイルミネーションなどを実施。



稲刈り体験

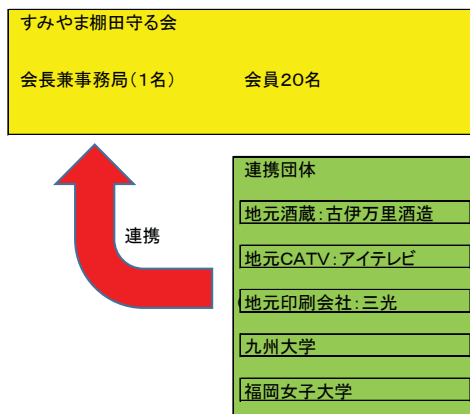


純米酒すみやま



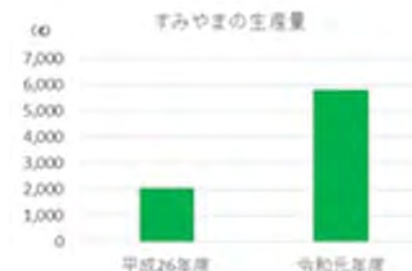
イルミネーション

体制図



取組の成果

- すみやまの売上370万円、生産量5,800リットル（R元）。
- 農業体験参加者数300名、そば打ち体験参加者数50名（R元）。



所在地▶佐賀県伊万里市二里町中里甲2 2 2 3

連絡先▶TEL: FAX : 0955-23-3776

ウェブサイト▶<http://www.ihn.jp/~hisakim/>

【取組のプロセス】

小学生を対象に田植え、稲刈り、しめ縄づくり等、農業体験を開始

2002年～

きっかけ

○農地の荒廃に加え集落の存続が危ぶまれたことを機に、8年がかりで棚田を整備し、地域活性化及び豊かな人材を育むことを目的に棚田を守る会を発足。

地元酒蔵と連携し、「純米酒すみやま」を製造・販売

2007年～

棚田オーナー制度開始

○平成19年度から毎年、都市部との交流を目的にオーナー制度を設け、市外約30名のオーナーが田植え、稲刈りに参加。



CATV・地元酒蔵と連携し、「純米吟醸すみやま」を製造・販売

2014年～

農業体験施設「山桜」建設

○平成26年に、農業体験施設「山桜」を建設し、地元食材で、そば打ち体験や地元料理を提供。
○伊万里市と連携したお見合いそば打ち体験など、婚活イベントを実施。



CATV・印刷会社と連携し、QRコードですみやまを世界に動画配信

2018年～

大学との連携実施

○平成30年度に、CATV・福岡女子大と連携し、年間を通し研究事業を実施。学祭で棚田米の料理を振る舞う活動取材し放映。番組は大学の研究発表に使用。また、九州大学と連携し、水力発電事業を実施。棚田にイルミネーションを灯す。



CATV・JALと連携し、福岡空港で「純米吟醸すみやま」を販売

今後の展望

地域発展と人口増加に貢献

○スマート後継者育成の課題を克服すべく、地元企業と連携し、農業法人化を目指す。
○CATVと連携し、地域BWAを活用したスマート農業の推進や大学と連携し、棚田を活用した水力発電（再生可能エネルギー）にチャレンジ。
○その他、空き家を活用した民泊の運営。外国でお酒を販売し、生産量と販売本数の拡大。販売交渉の様子をCATVが現地取材し、世界向けにPRすることで外国人旅行者の増加に努め、地域発展と人口増加への貢献を目指す。



- 平成4年、飲食店のグループが生ごみ資源化研究会を立ち上げ調査や微生物の研究を行い、平成9年に生ごみ堆肥化実行委員会を結成、平成12年生ごみ堆肥化プラント完成。平成15年にNPO法人化し、平成16年に直売所を開設、生ごみを宝に、食資源循環によるまちづくりを展開。



キーワード

内発的

飲食店事業者

学生

資源循環

教育

基本情報

- 所在地：佐賀県伊万里市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：NPO法人伊万里はちがめプラン
- 選定表彰：
 - H20循環型社会推進形成功労者 環境大臣賞
 - H31年食品もったいない大賞 農林水産大臣賞
 - R元地球温暖化防止活動環境大臣賞
- 主力商品・イベント：堆肥、菜の花栽培・市内の小学4年生の環境教育…等
- 活用している地域資源：生ごみ、廃食油

取組の概要

- 一般家庭300世帯、食品関連71事業所の参加協力によって年間500トンの生ごみを回収し、微生物を多く含んだ良質な堆肥250トンを生産。
- 環境フォーラムの開催や各種イベント（市内全保育園における菜の花栽培と全児童の図画展、環境杯グランドゴルフ大会等）を通して、堆肥を利用した環境保全型農業や菜の花栽培を推進。
- 国内外を問わず視察や研修を受け入れ、環境啓発活動を展開するとともに、市内小学校において、環境教育を18年間実施。



生ごみプラントと見学者



保育園児と老人会とで菜の花苗栽培



はちがめ教室での質問タイム

体制図

NPO法人伊万里はちがめプラン	
副理事長(1名)	生ごみ堆肥化部(生ごみの回収と堆肥化)
理事長・理事(2名)	環境教育・啓発部(小学生に対する環境教育)
運営委員(4名)	菜の花プロジェクト(菜の花栽培の普及啓発)
	堆肥・農産物販売部(農産物直売所「風道」)
会員数 300名	
職員 常勤4名(堆肥現場・2名事務局・直売所1名)	

連携

協力団体	
佐賀大学地域貢献事業「はちがめエココミねっと」	
生ごみステーションの会・いまり菜の花の会	
伊万里料販店組合・伊万里西ロータリークラブ	
伊万里いまだけ農場・ソロボチミストいまり	

取組の成果

- 年間収益 1,640万円(令和元年)
- 生ごみ500トン/年の削減はごみ焼却費の節約1,350万・CO₂発生抑制1,000トン。
- 市立6保育園と学校給食センターとの生ごみ再資源化委託契約決定。
- 令和2年、伊万里いまだけ農場(新規就農者研修場)と連携開始。



所在地▶佐賀県伊万里市大坪町狩立乙2436-1

連絡先▶TEL: 0955-22-4058 FAX: 0955-22-4058

E-mail: 'hatigame@orion.ocn.ne.jp'

ウェブサイト▶<https://www.hachigame-plan.org/>

- 平成27年にNPO法人化。カフェレストラン、ゲストハウス、農園の運営、農泊推進、移住促進、各種イベント、地域情報発信等の地域活性化の取組を展開。



キーワード

内発的

移住者

JICA協力隊OB

地域回遊型イベント

農泊

移住・定住

基本情報

- 所在地：長崎県西海市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：NPO法人雪浦あんぱんね
- 選定表彰：
 - 令和元年度第10回地域再生大賞 優秀賞
 - 平成25年度全国過疎地域自立促進連盟会長賞
- 主力商品・イベント：雪浦ウィーク
- 活用している地域資源：景観、自然
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進事業）

取組の概要

- ゴールデンウィーク期間中に4日間開催する地域回遊型イベント「雪浦ウィーク」をH11年以来、毎年開催。
- 年間を通じた活動の創出に向け、H27年にNPO法人化。カフェレストランを開設するとともに、H30年にゲストハウスをオープン。
- R元年は長崎大学と連携し、留学生12名を受入れ、サマープログラムの地域社会を学ぶ場として雪浦を提供。
- 史跡巡りや移住体験ツアーなど様々な体験プログラムの実施。



雪浦ウィークマップ
(令和2年度は中止)



長崎大学留学生
サマープログラム



移住体験ツアー

体制図

取組の成果

NPO法人雪浦あんぱんね

雪浦あんぱんねの拠点施設・イベント等

カフェレストランゆきや、雪浦ゲストハウス森田屋、あんぱんね農園

雪浦ウィーク、マルシェdeあんぱんね、農業体験、宿泊 等

連携団体との体験メニュー等

遊ぶ・食べる：SUP、サーフィン、勾玉作り、サンセットクルージング、カフェ 等

学ぶ・癒やす：アナログ音の体験、味噌造り、アロマ、音楽セラピー 等

買う・泊まる：酢、味噌、ジャム 等 農家民泊

- 「雪浦ウィーク」の販売売上は、9百万円超（R1年度）。
- ゲストハウスの宿泊者数は、英語版HPの開設等もあり、R元年に入りインバウンドが急増し、世界約30か国から254人が来訪。
- R元年8月に「移住体験ツアー」を実施。3家族10名参加のうち、1家族が移住。

所在地▶長崎県西海市大瀬戸町雪浦下釜郷504

連絡先▶TEL:0959-31-4071 FAX:0959-31-4071

E-mail:info@yukinoura.net

ウェブサイト▶https://yukinoura.net/

- 平成12年、農業交流拠点施設「おおむら夢ファームシュシュ」を開業。6次化による農産加工品の製造・販売、食育体験や収穫体験など豊富なメニューで取組を展開。



キーワード

内発的

女性

6次産業化

都市農村交流

基本情報

- 所在地：長崎県大村市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：有限会社シュシュ
- 選定表彰：
 - 平成27年度全国農業コンクール 農林水産大臣賞
 - 平成19年度全国地産地象活動優良表彰（交流促進部門）農林水産大臣賞
- 主力商品・イベント：
 - ジェラート等、食育・農林漁業体験
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- 農業テーマパーク構想の実現のため、一年中観光客が訪れる交流拠点「おおむら夢ファームシュシュ」を開業。
- 地元農産物を生鮮品だけでなく、6次化による商品開発でジェラート、プリンなど多数商品化し販売。レストランではランチバイキングなどを提供。
- 大村市グリーン・ツーリズム推進協議会と連携した観光・体験農業を展開。



おおむら夢ファームシュシュ
外観写真

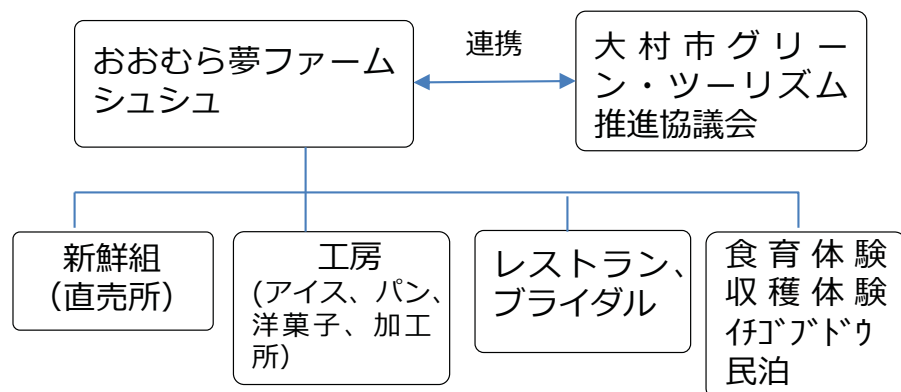


地元産の農産物を使用したジェラート



農業塾生と農家との交流の様子

体制図



取組の成果

- 6次化による売上高は3.2億円から3.9億円に増加（H26～H30）。
- 食育及び農業体験者数はともに増加しており合計約3万人（H30）。
- 常時雇用職員の8割が女性。従業員は季節雇用も含めて年間100名以上。

所在地▶長崎県大村市弥勒寺町486

連絡先▶TEL:0957-55-5288 FAX : 0957-55-5323

E-mail:info@chouchou.co.jp

ウェブサイト▶http://chouchou.co.jp/

- 平成29年に組織を立ち上げ、「地域を災害から守る消防団のように鳥獣害から地域と畑を守る！」を合い言葉に、品目、規模を超え県内の若手農家有志で、住民主体の鳥獣害対策モデルの構築を目指す。



キーワード

内発的

企業

学生

ジビエ

クラウドファンディング

6次産業化

基本情報

- 所在地：熊本県宇城市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：くまもと☆農家ハンター
- 選定表彰：
 - H29地域未来索引企業選定
 - 第10回地域再生大賞
 - 第49回日本農業賞 食の架け橋部門特別賞
 - GOOD DESIGN AWARD2019
- 主力商品・イベント：イノシシ肉利活用商品・ジビエサミット、鳥獣セミナー
- 活用している地域資源：農産物、イノシシ
- 主な国等の支援策：鳥獣被害防止総合対策交付金

取組の概要

- 情報共有や鳥獣対策の活動の啓蒙を目的に、メンバーと農家ハンターミーティングやサミットをこれまで10回開催。参加者数は延べ3,000人を超える。
- 罠やICTの購入には、クラウドファンディングを活用。箱罠50基、初心者を助けるIoTカメラ10基を購入してメンバーに無償貸与しサポートを実施。
- 食肉学校で処理技術と衛生管理を学び、国産ジビエ認証の取得を目指す。
- 獣害により耕作放棄地となった農地の再生プロジェクトを展開。
- サステナブルモデルによって、獣害を地域資源に変えられるようになった。
- 情熱大陸等のTV特集で、地域活性化として、鳥獣害対策が知られるようになった。

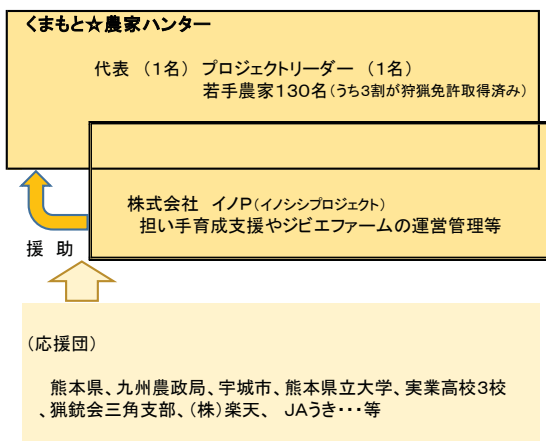


箱罠による効率的な捕獲



サステナブルモデルのイメージ

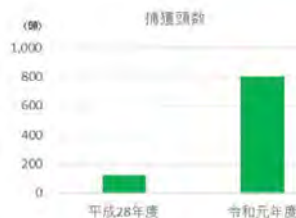
体制図



ミーティング

取組の成果

- 対策者が増えイノシシ捕獲頭数が年間800頭まで増加。
- 産学官民一体モデルとして鳥獣対策の啓蒙に繋がっている。
- ICTを活用することで農業と獣害対策の両立が可能となった。
- 2019に（株）イノPを設立しジビエの事業化を目指す。
- 国連のSDGs優良事例として世界に紹介されるようになった。



所在地▶熊本県宇城市三角町戸馳島397

連絡先▶TEL: 0964-53-0752 FAX: 0964-52-4246

E-mail:kumamotohunter@gmail.com

ウェブサイト▶https://farmer-hunter.cum/



- 平成27年に課題の多い農業分野において、新時代は女性が創るという想いを込め女性だけで起業。女性の雇用創出や地元行事に積極的に企画・参加するなど地域活性化にも貢献。



キーワード

内発的

女性

農福

基本情報

- 所在地：大分県国東市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：ウーマンメイク株式会社
- 選定表彰：
 - 令和元年度農山漁村女性活躍表彰
 - 農林水産大臣賞
 - 平成30年度ディスカバー農山漁村の宝
 - 全国選定（アクティブ賞）
- 主力商品・イベント：レタス
- 活用している地域資源：農林水産物
- 主な国等の支援策：
 - 強い農業づくり交付金

取組の概要

- 柔軟な勤務形態でレタス栽培に取り組み、地元雇用を創出。
- 社会福祉法人、県職業訓練（雇用労働政策課）等と連携し、業務委託や精神障害を抱える若者を積極的に採用。
- ライフスタイルやニーズを考えた商品開発を行い、独自ブランドで全国展開。



全員女性の従業員！

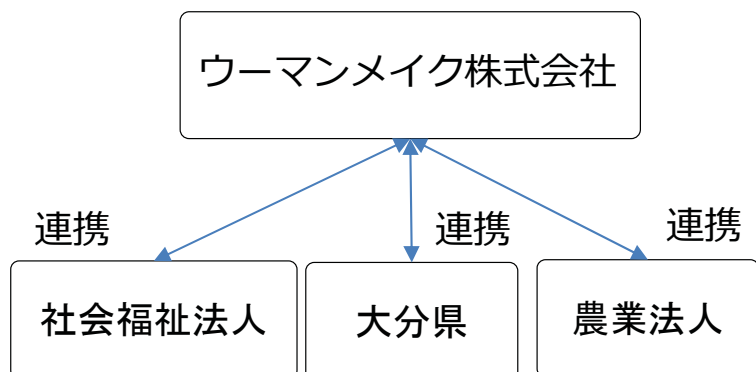


子連れ出勤OKな環境



女性目線で開発した商品パッケージ

体制図



取組の成果

- 女性の感性を活かし、商品開発でブランド化を図るとともに、地元の農業法人との共同生産・販売も手がけ、レタスの売上は、4,200万円（H28）から6,200万円（H29）に、H30には7,200万円まで増収。
- 安定的に利益が上がる農業システムを確立したことで、国内外からの視察が増加。視察を機に農業参入をした企業もあるなど、他地域への波及にも寄与。
- R2年度には30aから80aへ規模拡大を行い、水耕ほうれん草を新たに生産開始し、大分県指定の研修施設として新規就農研修生の受入も開始。

所在地▶大分県国東市安岐町大添572番地1

連絡先▶TEL:0978-67-3007 FAX:0978-67-3007

E-mail:info@womanmake.net

ウェブサイト▶https://womanmake.net/

- 平成24年個人事業者として開業、平成26年に法人化。地域資源と女性愛で「美味しい笑顔」を創ることで、地元女性の雇用創出や生産者の所得向上など地域活性化に貢献。



キーワード

内発的

女性

6次産業化

ジビエ

基本情報

- 所在地：大分県豊後大野市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社成美
- 選定表彰：
 - 平成30年度APEC Best Award Highest Growth Potential賞
 - 平成30年度ディスカバー農山漁村の宝全国選定
 - 平成28年度女性新ビジネスグランプリコンペティション地域みらい賞
- 主力商品・イベント：鶏汁、無添加スープ
- 活用している地域資源：農林水産物、ジビエ
- 主な国等の支援策：地域産業資源活用事業

取組の概要

- 従業員は全員女性で、働き方改革をいち早く取り入れ、地域の中でフレキシブルに働ける環境を創出。
- 地元農産物の規格外品を付加価値を付けた加工品として商品化し、生産者の所得向上に貢献。
- 県のジビエ振興協議会に加入し、ジビエ料理の普及拡大や消費拡大に努める。
- 地元高校や大学との共同開発によりハラル認証カレー等を商品化し販売。



「働き盛り」「子育て盛り」の女性たちの活躍の場に。



弊社オリジナル商品。女性ならではのデザインが特徴。



ジビエ商品。欧州の雰囲気漂うセレクト感を演出。

体制図

新たな6次産業化モデル



取組の成果

- 売上高は、200万円から約7,200万円に増加。（H25～H29）
- 全国の約40の企業や生産者と連携するなど、コラボ商品は45アイテムまで増加。自社商品もNARUMI Cooking Oitaなど3ブランドで13アイテムを商品化。（H29年）
- 仕入食材の種類は、4種類から27種類に増加し（H25～H29）、地元生産者の安定収入に寄与。

所在地▶大分県豊後大野市犬飼町柴北1099-2

連絡先▶TEL:097-579-7177 FAX:097-579-7178

E-mail:info@narumi-oita.com

ウェブサイト▶http://narumi-oita.com

- 平成10年、農林業公社から経営移管し、地域活性化を目的に、農産物の直売所及びレストランの運営、加工品の開発、直営農場の運営のほか、移動販売事業や生活支援サービス事業等にも取り組む。



キーワード

内発的

企業

6次産業化

教育

移住・定住

基本情報

- 所在地：大分県豊後大野市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：有限会社清川ふるさと物産館夢市場
- 選定表彰：
 - 全国直売所甲子園2019 新たな戦略部門グランプリ
- 主力商品・イベント：クリーンピーチ、金ごま、酒まんじゅう・秋の大収穫
- 活用している地域資源：農産物



人気の酒まんじゅう

取組の概要

- 「清川ブランド確立とファンづくり」を目標に目玉となる特産品・加工品の開発
- 後継者育成と農産物の確保を目的に直営農場を開設し、農産物の生産と研修等を実施
- コープおおいたと共同実施の体験農園「コープ親子スクール」など、食育活動の実施
- 地域課題解決のため、地域貢献事業（移動販売事業、生活支援サービス事業）を実施
- 今後、「有償ボランティア制度」「若者定住促進会議」等を整備することを検討している。



特産品のクリーンピーチ

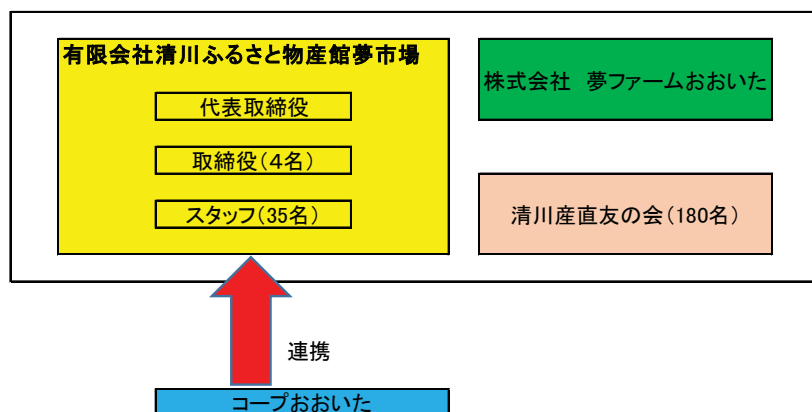


直営農場「(株) 夢ファーム大分」



移動販売事業

体制図



取組の成果

- 売上げは、3億5千万円超（R元）。
- 多角経営を進める中で、雇用数は少しずつ増加（H26: 28名→R元: 33名）。
- クリーンピーチのソフトクリームは年間3万個売上げ、酒まんじゅうは年間13万個以上の販売。



所在地▶大分県豊後大野市清川町砂田1574番地1

連絡先▶TEL: 0974-35-2117 FAX: 0955-22-4058

E-mail: yumeitiba@mitinoeki-kiyokawa.com

ウェブサイト▶<http://mitinoeki-kiyokawa.com/06.html>

- 地域特産品の「さつまいも」を活用し、市場ニーズに適合した加工食品の提供、小ぶりさつまいもの輸出により農業者の所得向上及び雇用の場を創出。



キーワード

内発的

学生・外国人実習生

輸出

6次産業化

基本情報

- 所在地：宮城県串間市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社くしまアオイファーム
- 選定表彰：
 - 平成30年度ディスカバー農山漁村の宝 全国選定
 - 平成28年度輸出に取り組む優良事業者 表彰農林水産大臣賞
- 主力商品・イベント：さつまいも
- 活用している地域資源：農林水産物
- 主な国等の支援策：農畜産物輸出拡大整備事業、6次産業化推進整備事業

取組の概要

- これまで廃棄されていた小芋が海外で需要があることに着目し輸出を開始。また、意図的に小ぶりさつまいもを栽培する「小畝密植栽培法」を開発・実践。
- 海外販路の確保、海外拠点での中心人物の育成のため、外国人実習生を受入。
- 地域の学生等を招いての施設見学や農業体験を実施。
- 生産・貯蔵・加工施設を市内に整備し、雇用の場を創出。



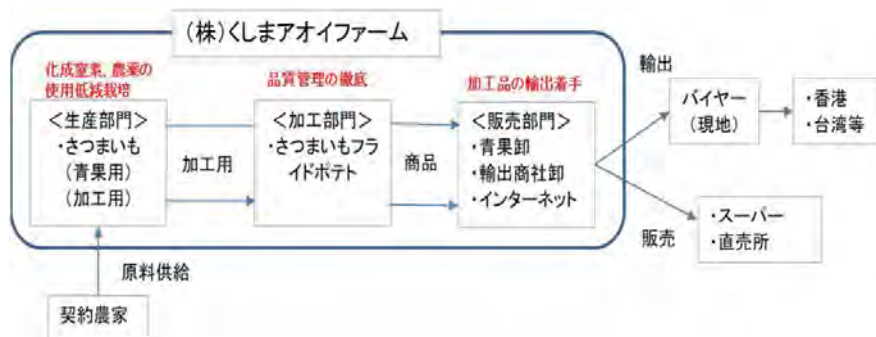
集出荷貯蔵施設



出荷場内

地元高校生との苗植え
(農業体験)

体制図



取組の成果

- さつまいもの売上は、4,600万円から13億8,000万円に増加。(H26～R1)
- さつまいもの輸出量は、69tから1,300tに増加。(H27～R1)
- 雇用者数（パート含む）は、18名から95名に増加。(H26～R1)

所在地▶宮城県串間市大字奈留6564-12

連絡先▶TEL:0987-71-2117 FAX:0987-71-2118

E-mail: info@aoifarm-gr.com

ウェブサイト▶<https://aoifarm-gr.com/>

○平成22年に協議会を設立し、「観光と連携してムラに生産を創る。」をテーマに、「農業の6次産業化」「食事と宿泊施設の整備」「エコミュージアムによる誘客」の三部門を一体化した新しい農村産業づくりを展開。



キーワード

内発的

企業

観光協会

6次産業化

都市農村交流

農泊

基本情報

- 所在地：宮崎県高千穂町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：高千穂ムラたび協議会
- 選定表彰：
 - H28「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」全国選定 プロデュース賞受賞
- 主力商品・イベント：
 - 「あまざけ」などの発酵食品など
- 活用している地域資源：農産物、農村景観
- 主な国等の支援策：地域づくりインターン支援（国土交通省）、農山漁村振興交付金（農泊推進対策）（農林水産省）

取組の概要

- ①若者中心の事業体制、②麺研究所や製菓会社など専門機関の活用、③デザイン、情報化分野の高度化、④こだわり商品としての営業展開等を実施し、6次産業化に取り組む。
- 山間地域の条件不利な栽培環境を逆にとり、「手作り産品」として、直売2店舗等で販売。
- 「川のり」等、この集落でしか味わえない「食材、料理」を農家民宿2軒と古民家食堂で提供。
- 棚田、神話史跡等のスピリチュアルスポットを活かした農村観光開発を目的とする旅行散策のための「ムラごとエコミュージアム」の開設。



「あまざけ」等の原料栽培で景観保全



米発酵飲料「ちほまる」



民宿「まろうど」

体制図

【高千穂ムラたび協議会】

(株)高千穂ムラたび(事務局)(6次産業化推進、農村ビジネス創出等)

高千穂観光協会(農村観光開発、インパウンド誘致、PR)

地域の実践者(女性)(民宿、農産物直売、地産食堂)

集落農家(6次産業化原料生産、ミツバチ飼育)

取組の成果

- 事業収益は、7千万円超（R元）
- 住民意欲を喚起し、産業の刷新、若者の参入と定着、交流人口の増大をもたらしている。
- 住民連携による地元産原料の共同生産体制が実現、農地荒廃が抑制されている。



所在地▶宮崎県西臼杵郡高千穂町向山6604

連絡先▶TEL: 0982-72-7226 FAX: 0982-82-2283

E-mail: muratabi@bz04.plala.or.jp

ウェブサイト▶ <http://takachiho-muratabi.com>

- 「いつまでも住みたい魅力あるまち」の実現を目指すため、平成19年に法人化。地元農家と連携した「畑旅（はたたび）」を活動のメインとした「農業観光プロジェクト」等により観光誘致を推進。



キーワード

内発的

地域おこし協力隊

農観プロジェクト

基本情報

- 所在地：鹿児島県南九州市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：NPO法人頼娃おこそ会
- 選定表彰：
 - 平成29年総務省ふるさとづくり大賞、総務大臣賞
 - 平成28年 JTB 交流文化賞 優秀賞
- 主力商品・イベント：茶、芋、ばんどころ 絶景祭り
- 活用している地域資源：農林水産物、古民家・空き家、景観

取組の概要

- 商工会を母体とした団体。若手農家と協力し茶畑に囲まれた景勝地・大野岳においてお茶をテーマにした観光誘致をH28年より推進。
- 改修した空き家を農業観光の拠点として、農家がアテンドする畑での収穫体験や食事などを組み合わせた「畑旅」を実施。
- 旅行会社とタイアップした着地型観光商品を造成・販売。



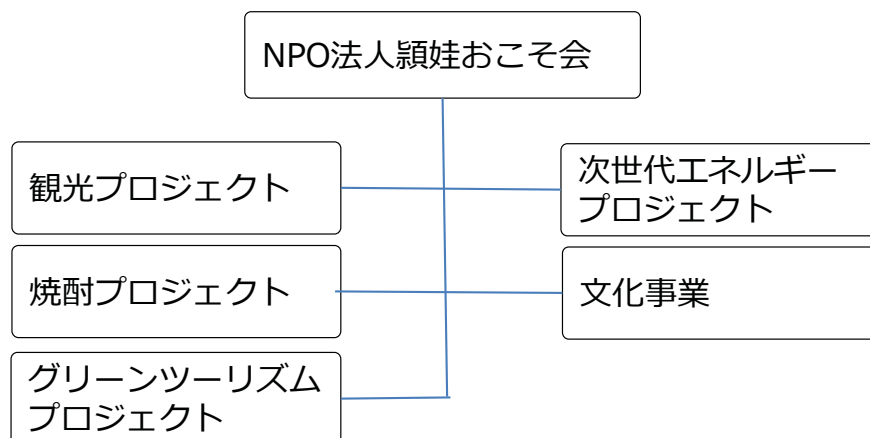
茶畑ウォーク中（畑旅）



茶畑の中の空き家再生現場 茶や

農家と観光事業者のユニット
頼娃のお福分けロゴ

体制図



取組の成果

- 観光スポットの開拓等により町外からの来訪者が数えるほどだったのが、年間15万人まで増加。（H30年度）
- 農産物を活用した新たな特産品の販売額が3年間で約100万円まで増加。（R1年度）
- 畑旅や茶畑ピクニックなどの体験者数が約500人まで増加。（R1年度）

所在地 ▶ 鹿児島県南九州市頼娃町別府5202
 連絡先 ▶ TEL:0993-38-0160 FAX: 0993-38-2721
 E-mail: okosokaikanko@gmail.com
 ウェブサイト ▶ <https://ei-okosokai.jimdo.com/>

- 平成25年に株式会社を設立し、農業と福祉を一体化させ、さらに6次化に取り組むことで、多くの人材を雇用することが可能となり、人手不足、所得の向上等、農業と農村の抱える問題点を解決し、地域の活性化に貢献。



キーワード

内発的

農家

企業

6次産業化

農福

基本情報

- 所在地：鹿児島県南さつま市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社南風ベジファーム
- 選定表彰：
R元「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」全国選定
- 主力商品・イベント：赤しその塩漬け、ベビーリーフ、ポテトサラダなど
- 活用している地域資源：農産物



ベビーリーフのサラダ、赤しそジュース

取組の概要

- 自社農場での野菜生産や施設での農産物加工に取り組み、障がい者を多く雇用。地域農家の人手不足の解消のため農作業を受委託。
- 高床式砂耕栽培施設の導入や地元スーパーと共同で惣菜工場を建設するなど農福連携や6次産業化に向けた取組みを積極的に展開。
- 令和2年9月に自社敷地内に農福カフェをオープンし、高齢者の食事支援や買い物支援を実施。



人手のいる高菜収穫作業

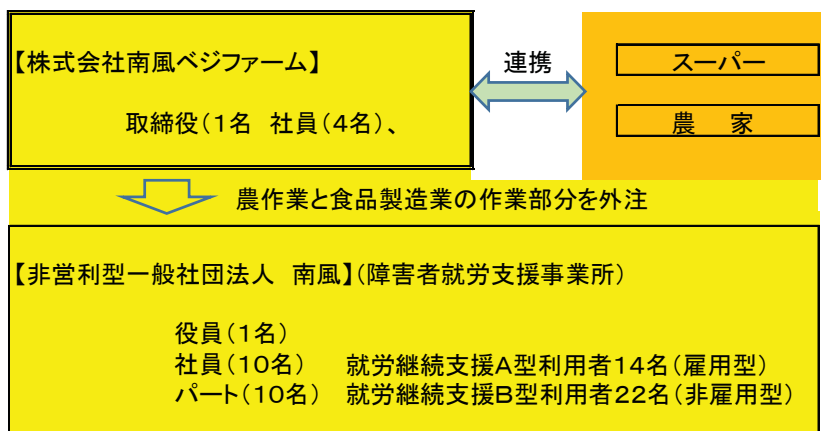


ベビーリーフの高床式砂耕栽培



農福カフェ

体制図



取組の成果

- 売上は、約3億円（R元）
- 農作業の受託により、農家の負担軽減や耕作放棄地防止に貢献
- 開業後6年で障がい者36名を含む60名の雇用を創出。6次産業化により1年を通じた仕事を創出



所在地▶鹿児島県南さつま市金峰町高橋3075-35

連絡先▶TEL: 0993-77-3932 FAX: 0993-77-3933 E-mail:

ウェブサイト▶ <http://www.nanpuu-vege.com/>

- 農福連携で知的障がい者の自立支援を図るとともに健常者と障がい者が交流できるイベント開催などによる食品販売を通じて、県内外の人々との交流促進により地域活性化に貢献。



キーワード

内発的

障がい者

女性

6次産業化

農福

基本情報

- 所在地：鹿児島県南大隅町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：社会福祉法人白鳩会
- 選定表彰：
 - 平成27年度ディスカバー農山漁村の宝 全国選定
 - 平成27年度第5回「日本でいちばん大切にしたい会社」審査員特別賞
 - 平成29年第68回南日本文化賞受賞
- 主力商品・イベント：
 - 茶、豚肉。花の木新茶まつり
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- 知的障害者が安心して働き暮らせる場をつくるため昭和53年に農事組合法人を設立。
- いわゆる「触法障がい者」を積極的に受入れ、自立のための就労支援事業を実施。
- 循環型農法を実践するとともに、茶製造、防腐剤不使用のハム・ソーセージなどの6次産業化を推進し食品加工品を統一ブランド名「花の木農場」として販売。
- 健常者と障害者が交流できる花の木新茶まつりなどのイベントを継続して開催。



花の木農場Ⅱでのトマト栽培

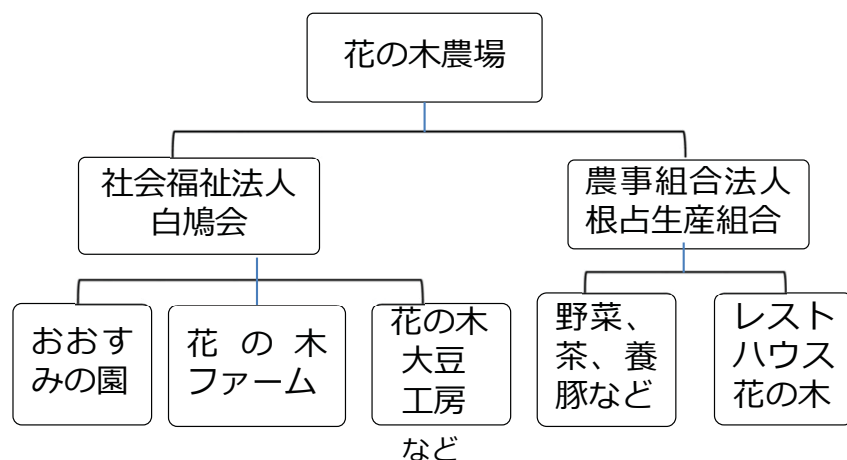


農場内レストラン「花の木」



チャリティコンサート&新茶まつり

体制図



取組の成果

- 生産組合の売上高は185百万円から203百万円に増加。（H28～R1）
- 生産組合が障害者を3人雇用、その他農業分野において障害者就労。
- 農福連携に関する視察数の増加。（R1年度：571人、47団体）
- 農場経営の規模拡大・安定化で、県内はもとより県外からの就職希望者が増加するとともに、女性が働きやすい職場づくりを促進。

所在地▶鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北2105

連絡先▶TEL:0994-24-2517 FAX:0994-24-3711 E-mail:

ウェブサイト▶<http://shirahatokai.jp/>

- 地域の自然資源・文化資源を活用し、体験滞在型観光地として地域連携のもと農泊を推進。農家レストランを拠点とした地産地消による地域ならではの料理を伝承し、島野菜での郷土料理体験を提供。



キーワード

内発的

地域人材

農泊

郷土料理

基本情報

- 所在地：沖縄県宮古島市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：合同会社 宮古島さるかの里
- 選定表彰：
 - H21年度全国過疎地域自立促進連盟会長賞
 - H22年度沖縄ふるさと百選・交流の部門
- 主力商品・イベント：
 - 農泊、農家レストラン
- 活用している地域資源：
 - 農林水産物、文化、自然
- 主な国等の支援策：
 - 農山漁村振興交付金（農泊推進対策）
 - 離島観光・交流促進事業（沖縄県）

取組の概要

- 平成18年から教育旅行の受入れを開始し、島らしい受入れを念頭に年間宿泊数10,000泊の教育民泊を実施。外国人受入れ体制づくりも強化。
- 農家レストランを拠点に島野菜を使用した地産地消による郷土料理体験を提供。地域ならではの料理を伝承し、地域の交流の場にも。
- 食の安全・安心をテーマとしたメニュー開発や講習会を開催し、農泊受入れ家庭のレパトリー・体験メニューを増やすことで、長期受入れにも対応。
- 社会参画の機会が少ないお母さんや高齢者のやる気・生きがいづくり、農村部の活性化に繋がっており、農家の所得向上、雇用創出の効果もある。



メニュー開発



料理講習会



家畜の世話



伝統的な島野菜



農泊を通じた都市農村交流

体制図

設立年 平成17年4月(平成20年8月 法人登記)

組織図



取組の成果

- 農泊と農家レストランの売上高は8千万円超（R元）。
- 農泊の受入れ農家数は100軒程度で、所得向上や雇用機会の創出に貢献。
- 農泊体験者数と農家レストランの来店客数は約1.5万人（R元）。



黒糖づくり体験

所在地▶沖縄県宮古島市城辺字友利149-18

連絡先▶TEL:0980-77-7691 FAX:0980-77-7692

E-mail:kei-matu@miyako-ma.jp

ウェブサイト▶<http://www.ggt-sarukanokai.jp/>

【取組のプロセス】

農業の衰退
後継者問題
少子高齢化
地域活力の低下

2004年～

きっかけ

○宮古島市城辺地区の農業の衰退、少子高齢化、地域の活力低下等への危機感を持ち、地域資源や農業と観光とのリンクという観点から地域で出来ることを模索、組織を立ち上げた。

修学旅行の受入れを開始

- 平成17年に「ぐすくベグリーン・ツーリズム研究会」を立ち上げ、同年、地域づくり全国大会沖縄城辺分科会を受入れ。
- 平成18年より修学旅行の受入れを開始。
- 平成20年、法人格として「グリーン・ツーリズムさるかの里」を登記。



修学旅行の受入れ

社会参画の少ない
お母さんや高齢者
にやる気や活力を

2005年～

合同会社さるかの里設立、修学旅行の受入れ拡大

- 平成24年には35校9,000名の修学旅行生を受入れ、平成25年に現在の「合同会社さるかの里」を設立。
- 平成26年、修学旅行体験ビジットを提供、食のメニューを開発。



農産物の収穫体験

離島観光・交流促進事業（沖縄県）の活用

2012年～

大人の農泊を開始、さらに多種多様な受入れに対応

- 平成27年には、アレルギー対応講習会を行うなど、多種多様な受入れに対応できるようスキルアップを図る。
- 平成28年、沖縄県事業「島あっちい（離島観光・交流促進事業）」をきっかけに一般客の受入れも開始し、宮古島ファン層の増加、リピーターも増加傾向。
- 平成29年、「安心・安全講習会」を実施。民家2軒を改修してバリアフリー化、受入れ体制の強化を図る。
- 令和元年、外国人観光客の増加に伴い、インバウンド対応の環境整備を強化し、対応ノウハウを取得、年間を通して実施できるメニューを構築。



バリアフリー化

増加傾向にある障害やアレルギーのある方の受入れにも対応し、全ての子ども達が安心して参加できる体制づくり

2015年～

農山漁村振興交付金（H29～農泊推進対策、R元高度化促進事業）の活用

クルーズ船の増加、インバウンドの増加

今後の展望

「地域に学ぶ」をテーマとした地域連携の農泊の推進

- 地域の先人たちの協力のもと、旅行者や異年齢の方との交流ができる場所を提供し、地域連携で自然資源・文化資源を大切にしたい農泊を推進、展開していく。
- 外国人旅行者を呼び込むための体制づくりを強化し、多種多様な受入れ、世界中の人々との交流ができる観光地域を目指す。



三線体験

○ 野菜の周年栽培施設等の環境を整備し、障がい者の就労の場を確保、安定雇用を実現。



キーワード

内発的

障がい者

農福

基本情報

- 所在地：沖縄県宮古島市
- 地域指定：都市的地域
- 団体名：社会福祉法人みやこ福祉会
- 選定表彰：
 - H30年度障害者雇用優良事業所
 - (独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 理事長 努力賞
- 主力商品・イベント：
 - 就労継続支援（野菜栽培、パン工房、レストラン）
- 活用している地域資源：
 - 農林水産物
- 主な国等の支援策：
 - 農山漁村振興交付金（農福連携対策）他、厚生労働省、環境省、県、市の補助金



パン工房の商品

取組の概要

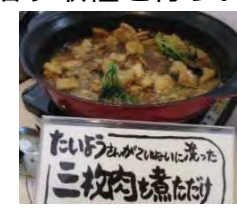
- 障がい者の働く場の乏しかった宮古島で、障がい者就労の受け皿として開所。
- 野菜ランドみやこ（A型事業所）、トマトランドみやこ（B型事業）、パン工房アダナス及びレストラン太平山（B型事業）を整備し、障がい者が容易かつ安全に、個々の能力を十分発揮して作業できるよう配慮。
- 野菜の養液栽培による周年栽培システムや、栽培施設へのLED導入による低コスト化により、年間を通じた安定生産や雇用の場の確保、工賃引上げを可能とする。
- 地元の食材や、法人で生産している野菜等を食材とした食事を提供することで六次産業化に取り組むと同時に、障がい者の自立とビジネスを両立させることにより健常者と障がい者が等しく生きる地域の構築を目指す取組を行う。



トマトランドみやこのみなさん



レストラン太平山



レストランで提供される料理



野菜ランドみやこ

体制図

設立年：平成13年6月5日（社会福祉法人化）

社会福祉法人
みやこ福祉会

みやこ学園（室内、園芸、トマト） 就労継続支援B型

アダナス（パン製造、レストラン） 就労継続支援B型

相談支援事業所みやこ 一般 特定 児童

野菜ランドみやこ 就労継続支援A型

グループホームみやこ 共同生活援助事業

障害者就業・生活支援センターみやこ
障害者就業・生活支援センター事業

生活介護事業所みやこ 共同介護事業

構成員

理事 6人
評議員 7人
監事 2人
職員 52人
利用者 103人

取組の成果

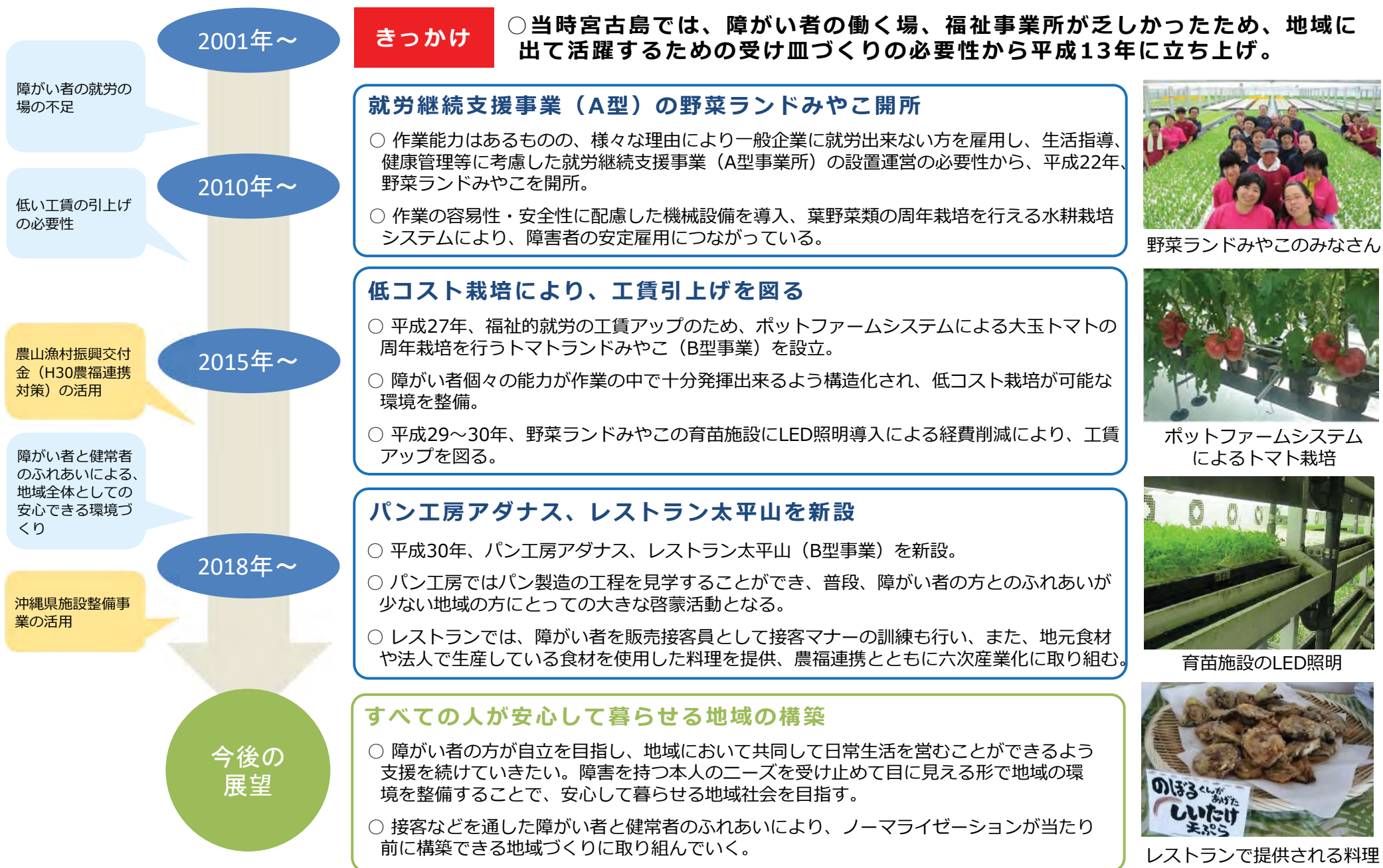
- 雇用実績は13人、就労実績は27人（R元）
- 売上高は約4.7千万円と大きく増加（R元）
- 広報に力を入れて集客力も上がり、交流人口は約1.9万人（R元）



パンの製造販売

所在地 ▶ 沖縄県宮古島市平良字下里3107番地の243
 連絡先 ▶ TEL:0980-73-7770 FAX:0980-74-2338
 E-mail:miya-gaku@cronos.ocn.ne.jp
 ウェブサイト ▶ <http://www.miyakofukushikai.jp/>

【取組のプロセス】



農山漁村発イノベーションの推進

- 農山漁村に人を呼び込むためには、**所得と雇用機会の確保**が不可欠。
- 農山漁村を舞台とした「**農山漁村発イノベーション**」(活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、他分野と組み合わせる取組)により新たなビジネス展開を促進。

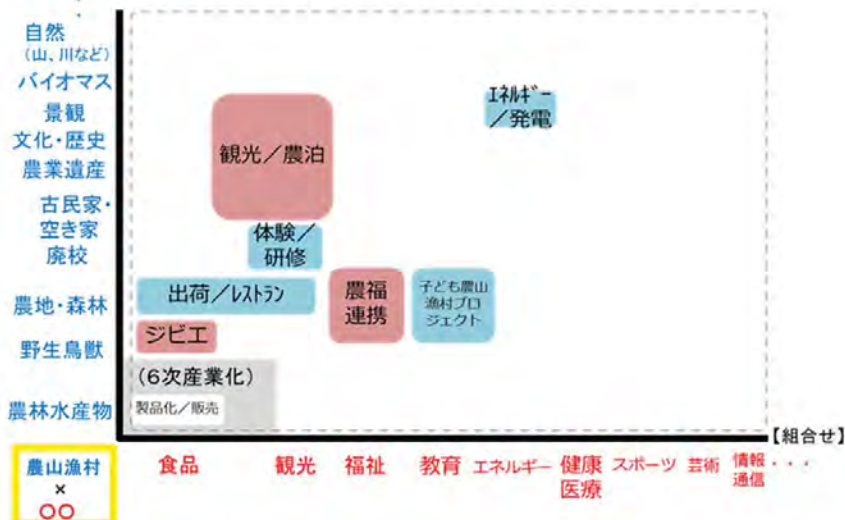
【従来の農林水産省の主な施策対象】

- **対象地域資源**や他分野との**組合せの範囲が限定**
- **一次産業起点の取組**に限定

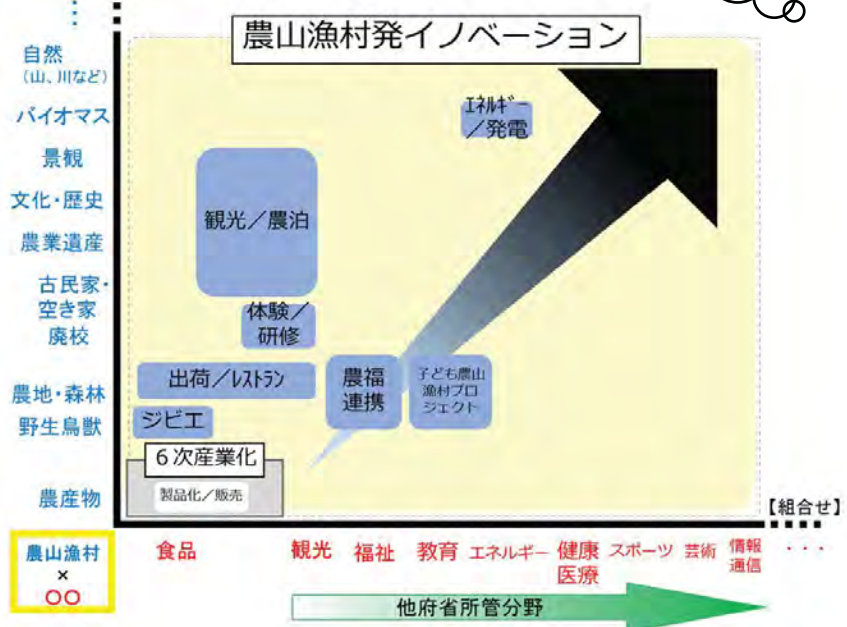
【農山漁村発イノベーションの推進のイメージ】

- 農山漁村の**あらゆる地域資源**をフル活用した取組を支援
- 他産業起点の取組など**他分野との連携**を一層促進

【農山漁村の地域資源】



【農山漁村の地域資源】



〈食料・農業・農村基本計画（令和2年3月31日閣議決定）（抜粋）〉

第3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

3. 農村の振興に関する施策

（略）関係府省、都道府県・市町村、民間事業者など、農村を含めた地域の振興に係る関係者が連携し、現場の実態と課題やニーズを把握・共有した上で、その解決や実現に向けて、施策を総合的かつ一体的に推進する。

（1）地域資源を活用した所得と雇用機会の確保

① 中山間地域等の特性を活かした複合経営等の多様な農業経営の推進

（略）地形による制約等不利な生産条件を有する一方で、清らかな水、冷涼な気候等を活かした農作物の生産が可能である点を活かし、中山間地域等直接支払制度により生産条件に関する不利を補正しつつ、地域特性を活かした作物や現場ニーズに対応した技術の導入を推進するとともに、米、野菜及び果樹等の作物の栽培や畜産、林業も含めた多様な経営の組合せにより所得を確保する複合経営モデルを提示する。（略）

② 地域資源の発掘・磨き上げと他分野との組合せ等を通じた所得と雇用機会の確保

ア 農村発イノベーションをはじめとした地域資源の高付加価値化の推進

農村を舞台として新たな価値を創出し、所得と雇用機会の確保を図るため、「農村発イノベーション」（活用可能な農村の地域資源を発掘し、磨き上げた上で、これまでにない他分野と組み合わせる取組）が進むよう、農村で活動する起業者等が情報交換を通じてビジネスプランを磨き上げることができるプラットフォームの運営など、多様な人材が農村の地域資源を活用して新たな事業に取り組みやすい環境の整備などにより、現場の創意工夫を促す。（略）

さらに、現場発の新たな取組を抽出しつつ、複合経営等の多様な農業経営、農村発イノベーションをはじめとした地域資源の高付加価値化等の取組を様々に組み合わせることで所得と雇用機会を確保するモデルを提示し、全国で応用できるよう積極的に情報提供する。

（3）農村を支える新たな動きや活力の創出

① 地域を支える体制及び人材づくり

ア 地域運営組織の形成等を通じた地域を持続的に支える体制づくり

地域を維持していくためには、リーダーの世代交代等に関係なく地域を持続的に支えることができる体制を維持・構築することが重要である。このため、中山間地域等において、「小さな拠点」の形成と併せて、農業協同組合などの多様な組織による地域づくりの取組を推進するとともに、生活サービスの維持・確保、仕事・収入の確保等の地域課題の解決に取り組む地域運営組織等の地域づくり団体の設立や集落協定の広域化等を推進する。体制の構築に当たっては、集落営農等の活動を地域づくりなどの分野に多角化していくことや、地域運営組織等の活動を農地の利用及び管理などに広げていくことに対する支援の在り方を示す。

イ 地域内の人材の育成及び確保

地域づくりを支える人材を中長期的な視点から育成していくため、地域が直面する課題の解決や地域活性化に資する学習等を推進する。

また、地域人口の急激に直面している地域において、「地域人口の急激に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律」の仕組みを活用し、地域内の様々な事業者を多業（一つの仕事のみに従事するのではなく、複数の仕事に携わる働き方）により支える人材の確保及びその活躍を推進することにより、地域社会の維持及び地域経済の活性化を図る。

〈食料・農業・農村基本計画（令和２年３月３１日閣議決定）（抜粋）〉

ウ 関係人口の創出・拡大や関係の深化を通じた地域の支えとなる人材の裾野の拡大

関係人口の創出・拡大や関係の深化を通じて地域の支えとなる人材の裾野の拡大を図るため、体験農園、農泊、ふるさと納税等の様々なきっかけを通じて地域への関心や関わりを持った者が、関心や関わりを段階的に深め、地域活動への参画や援農・就農等に効果的につなげていくための仕組みを具体化する。（略）

② 農村の魅力の発信

ア 副業・兼業などの多様なライフスタイルの提示

農村で副業・兼業などの多様なライフスタイルを実現するための、農業と他の仕事を組み合わせた働き方である「半農半X」やデュアルライフ（二地域居住）を実践する者等を増加させるための方策や、本格的な営農に限らない多様な農への関わりへの支援体制の在り方を示す。（略）